2015 (平成 27) 年度

臼杵市

男女共同参画社会づくりのための

意識調査 報告書

2016年(平成 28 年)3月 臼杵市



## はじめに

市民の皆様には日頃より、臼杵市の男女共同参画推進事業の取組に関して、多大なるご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。

国は男女共同参画社会の実現を「21 世紀の我が国社会を決定する最重要課題」 と位置づけています。

全国的かつ本格的な人口減少や高齢化が進む中、家庭・職場・地域における、 結婚・出産・育児・介護といった数々のライフイベントに伴う課題は、もはや 女性だけのものではなく、職業生活も男性のものだけではありません。男女が お互いの人権を尊重し、多様な暮らし方や働き方が選択できる柔軟な社会づく りが求められています。

臼杵市においては、2007年(平成19年)3月に策定した「臼杵市男女共同参画基本計画」と、2013年(平成25年)4月に制定した「臼杵市男女共同参画推進条例」に基づき、市民、企業、臼杵市三者が連携し、男女共同参画を総合的かつ計画的に推進して参りました。本基本計画は2016(平成28)年度をもって計画期間最終の10年目を迎えます。

このたび、男女共同参画に関する臼杵市の意識や実態を把握し、「第2次臼杵市男女共同参画基本計画」(2016年度策定予定)の基礎資料とするため、「臼杵市の男女共同参画社会づくりのための意識調査」を実施いたしました。

この報告書は、意識調査の結果を分析したものであり、今後、行政機関をはじめ関係団体及び地域の皆様に、幅広くご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、本調査を実施するにあたり、ご協力いただきました市 民の皆様に心より厚くお礼申し上げます。

> 2016 年 (平成 28 年) 3 月 臼杵市長 中 野 五 郎

第	1	章 調査の概要1
	1	目的1
	2	調査体制 1
	3	調査対象・方法1
	4	実施期間2
	5	回収状況2
	6	調査の精度3
第	2	章 調査結果の概要 4
		<b>属性の集計(回答者のプロフィール)</b> 4
		周査結果の概要<総論>14
	1	男女共同参画社会について14
		<ul><li>・固定的性別役割分担意識(問1)14</li></ul>
		・男女の平等意識(問 2)14
		・家庭内の仕事の分担状況(問 3)14
		・男性の育児・介護休暇(問 4~問 5)
		・ワーク・ライフ・バランス(問 6~問 8)
	2	仕事・職場環境について20
		・女性の就労について(問 9~問 10) 20
		・男女の仕事の内容や待遇(問 11)20
		・育児、介護休暇取得状況(問 12)20
		・退職について(問 13~問 15)
	3	教育・地域活動について24
		・子どもの学歴(問 16)24
		・子どもに身につけてほしいこと(問 17)24
		・地域活動における女性の参加や発言のしにくさ(問 18~問 19) 24
	4	配偶者・恋人間の暴力 (DV) について27
		・DVの認識度(問 20)27
		・DVの加害・被害経験、防止の必要性(問 21~問 25)
	5	人権について29
		・セクハラ、ストーカー、性的被害の加害・被害経験及び防止の必要性 (問 26~問 29、問 31)
		・メディアの表現について(問 30)30
		<ul><li>女性の生涯にわたる心身の問題について(問32)31</li></ul>

6 男女共同参画社会の実現とDV防止について31
・男女共同参画の認知度(問 33)31
・女性の参画(登用)(問 34)31
・男女共同参画の実現(問 35)31
第3章 各調査の結果33
1. 男女共同参画社会について33
2. 仕事・職場環境について45
3. 教育・地域活動について56
4. 配偶者・恋人間の暴力(DV)について65
5. 人権について85
6. 男女共同参画社会の実現とDV防止について93
資料編 101

# 第1章 調査の概要

## 1. 目的

臼杵市の男女共同参画社会づくりの政策実現にむけ、社会情勢の変化や個人の生き方の多様化に伴う市民の意識・現状を把握するために実施した。

さらには、「臼杵市男女共同参画基本計画」(2007年(平成19年)3月策定)の計画期間(10年間)終了に伴い、「第2次臼杵市男女共同参画基本計画」の基礎資料を得ることを目的とした。

## 2. 調査体制

■根拠法令:臼杵市男女共同参画推進条例 第16条

学識経験者等で組織する「臼杵市男女共同参画推進懇話会」より調査の企画・分析に 関して助言を得るとともに、調査の内容についても協議を行い、以下の点を考慮して調 査を実施した。

- (1) 前回調査※の結果と比較検討ができ、調査目的の内容に合致するもの
- (2) 男女共同参画に対する現状の意識が数値として測れるもの
- (3) 国・県または類似団体等の実施した調査結果との検討が可能なものとすること
- (4) 今後の男女共同参画施策における課題等を明らかにし、基本計画、施策内容等を検討する際、参考となる分析およびその方向性の提示をすること

※前回調査=2005年(平成17年)9月実施 『男女共同参画社会づくりに向けての意識調査』

# 3. 調査対象・方法

調査対象	2015年(平成27年)7月1日現在、臼杵市に住民票を有する20歳以上の市民から2,500人の男女を無作為抽出
調査方法	郵送調査

# 4. 実施期間

期間	内容
2015年(平成 27 年)8 月 1 日	調査票発送
2015年(平成27年)8月1日~9月30日	調査票回収 ※1
2015年(平成 27年)10月~2016年(平成 28年)2月	集計・分析作業
2016 年(平成 28 年)3 月	調査報告書作成

※1 調査表回収期間は、8月31日までとしていたが、9月以降も調査票の返送があったため、回収期間を9月30日まで延長した。(お礼状は2回発送。)

# 5. 回収状況

	今回(H27)調査	前回(H17)調査
配布数	2, 500	1, 500
回収数	1, 206	924
回収率	48. 2% (1, 206/2, 500×100)	61.6% (924/1,500×100)



## 6. 調査の精度

今回の調査は、20歳以上の市民33,600人(母集団)から2,500人を無作為で抽出し て実施した「標本調査」である。なお、20歳以上の市民全員を対象とした調査を「全 数調査」という。

「標本調査」では、無作為に選ばれた一部の市民から得られた結果より、20歳以上 の市民全体の値を推測するが、この際に生じる「標本調査の結果」と「全数調査の結果」 の差を標本誤差という。

今回の標本誤差を、一般的に国などが行っている信頼水準 95%1(係数 1.96)で計算 した場合、誤差が最大となる回答比率50%においても±3%以内にするためには、統計 学上、1,033 以上の標本数が必要となるが、今回は1,206 と、必要な標本数が得られた と言える。

標本誤差は、以下の公式によって算出される。

(標本誤差算出式) 標本誤差= 
$$\pm 1.96 \sqrt{\frac{p(100 - p)}{n}}$$

上式をもとにした本調査の標本誤差は、以下のとおりである。誤差が一番大きくなる のは、回答比率が50%の時であり、本調査で得られた標本サイズ(1,206)における誤 差率は最大で±2.8%となっている。

回答比率	標本サイズ							
凹合几乎	200	800	1,000	1,033	1,100	1,206	1,500	2,000
10% または 90%	±4.2	±2.1	±1.9	±1.8	±1.8	±1.7	±1.5	±1.3
20% または 80%	±5.5	±2.8	±2.5	±2.4	±2.4	±2.3	±2.0	±1.8
30% または 70%	±6.4	±3.2	±2.8	±2.8	±2.7	±2.6	±2.3	±2.0
40% または 60%	±6.8	±3.4	±3.0	±3.0	±2.9	±2.8	±2.5	±2.1
50% または 50%	±6.9	±3.5	±3.1	±3.0	±3.0	±2.8	±2.5	±2.2

注)表の見方: 例えば、ある設問の回答者数が1,206人であり、その設問中のある選択 肢の回答比率が 60% であった場合、その回答比率の誤差の範囲は、±2.8%以内(57.2) ~62.8%) であると見ることができる。

<sup>1</sup>信頼水準95%:100回同じ調査を実施したときに、概ね95回まではこの精度が得られ ることを示す。

# 第2章 調査結果の概要

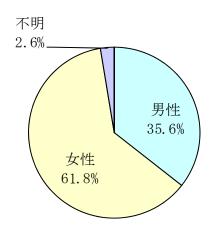
※報告書中に記載される nの数字は標本数を指す。

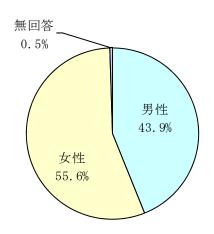
# ■属性の集計(回答者のプロフィール)

### 性別

<今回調査> (n=1206)

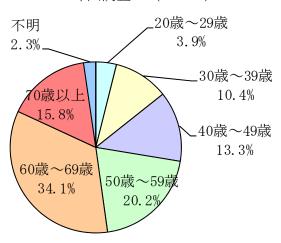
<前回調査> (n=924)



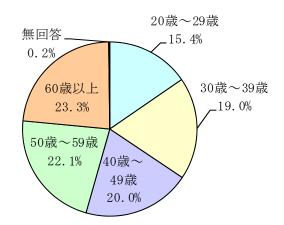


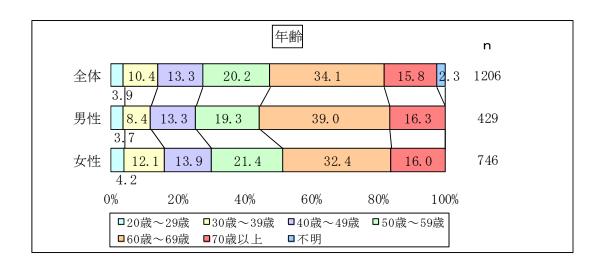
## 年齢

<今回調査> (n=1206)

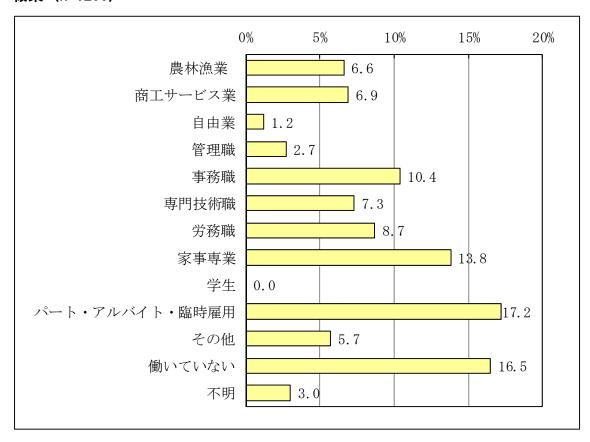


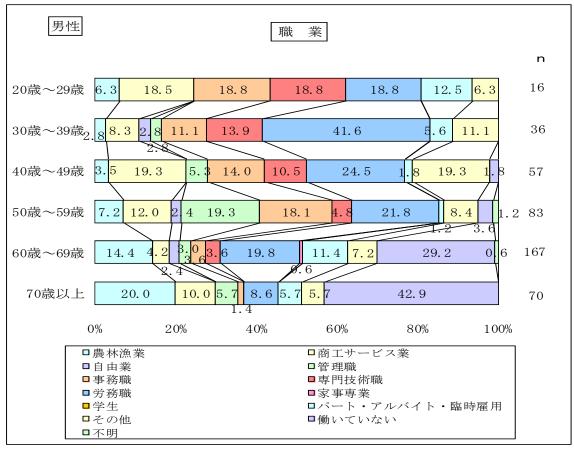
<前回調査> (n=924)

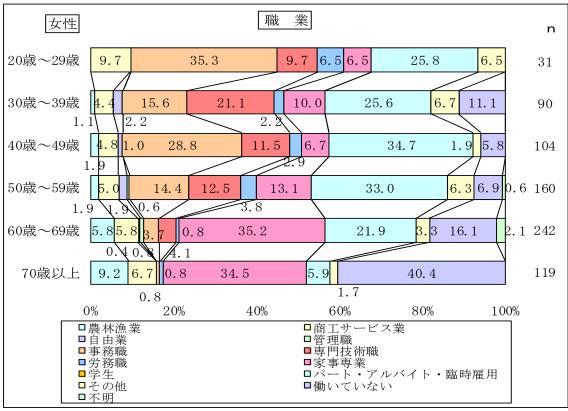




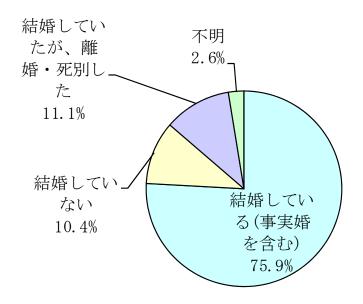
## 職業 (n=1206)

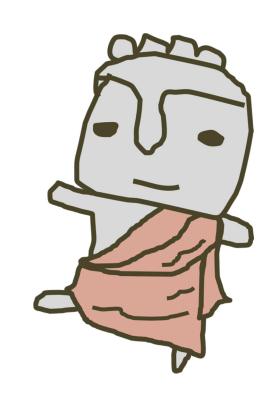


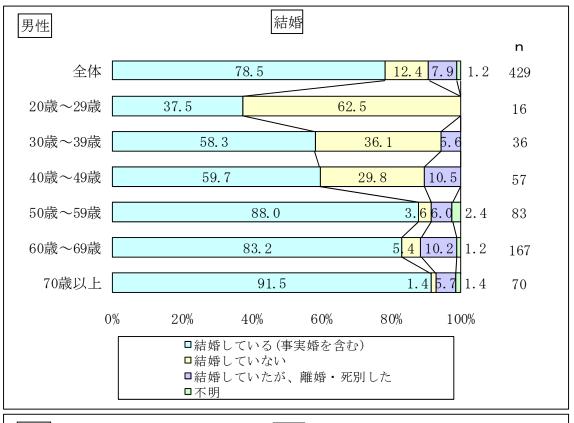


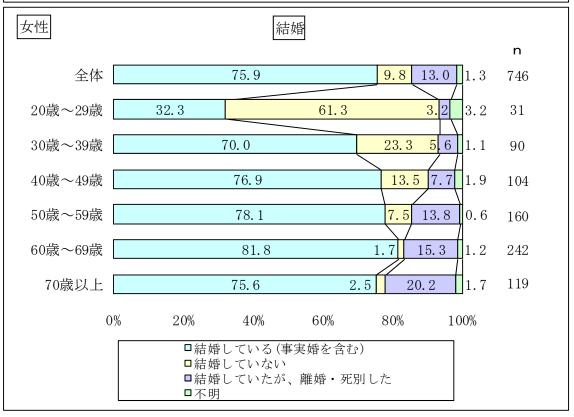


# 結婚 (n=1206)

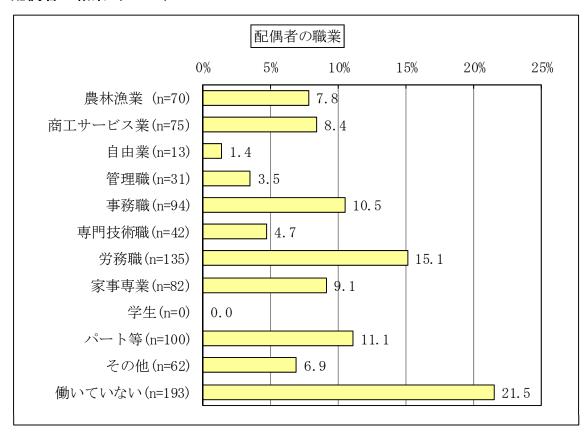


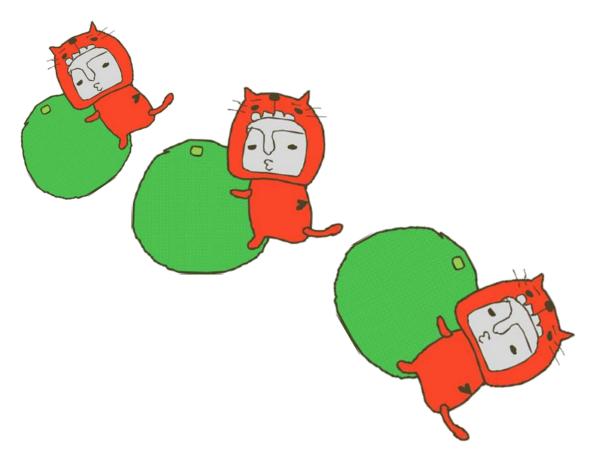


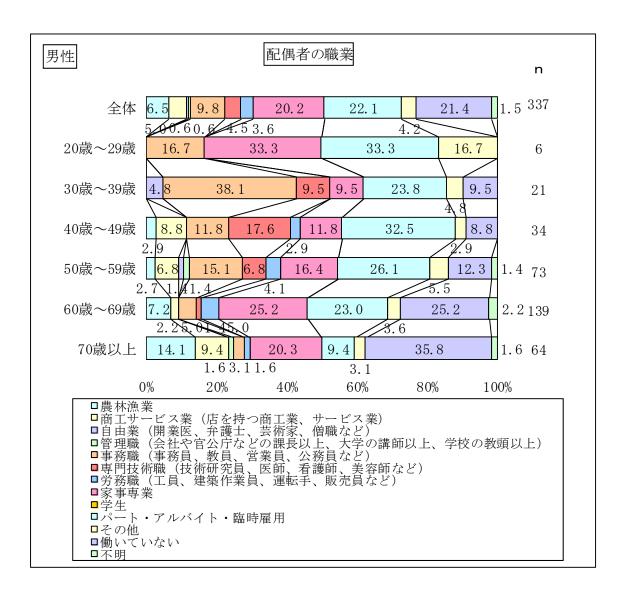


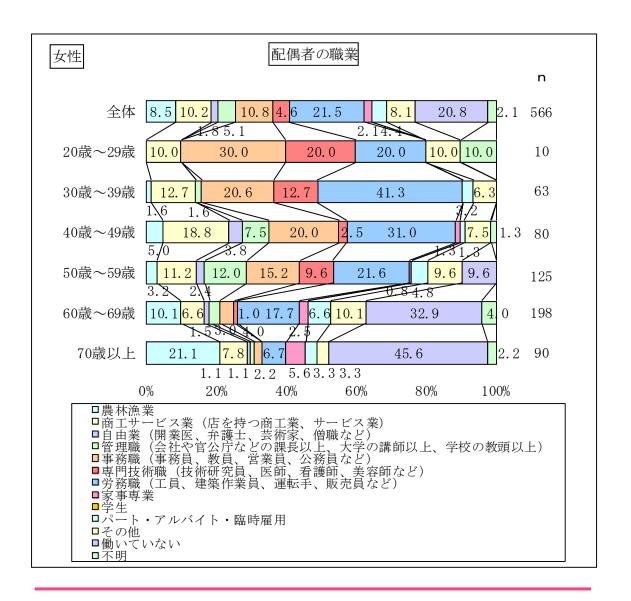


# 配偶者の職業 (n=897)

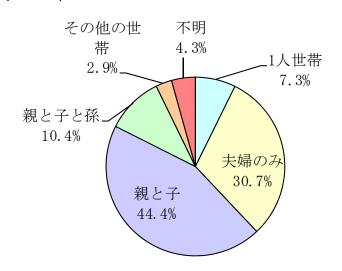


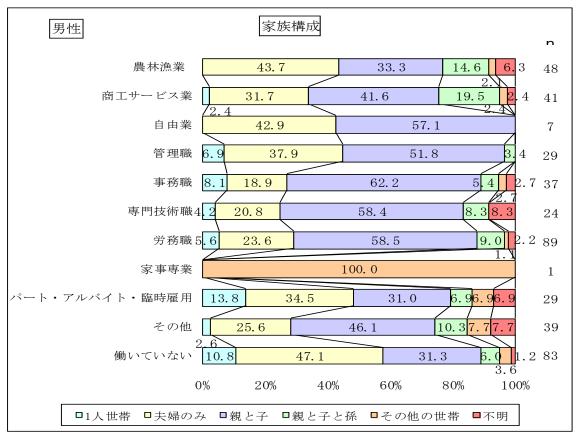


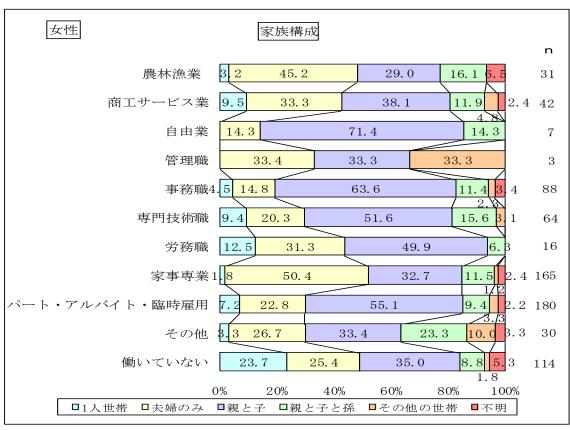




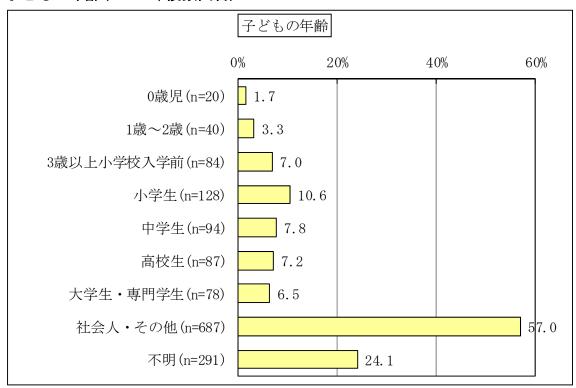
#### 現在の家族構成 (n=1206)







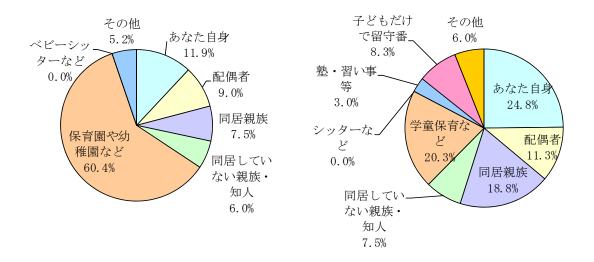
## 子どもの年齢(n=1206,複数回答)



## 平日の日中の子どもの過ごし方(または一緒に過ごしている人)

## 就学前 (n=134)

#### 小学生 (n=133)



## ■調査結果の概要<総論>

男女共同参画社会の実現には、「家庭」「地域」「仕事」の調和が重要である。中でも、 家庭における男女共同参画(家族の理解)と、仕事における上司の理解や働き方の変革 等は、女性の職業生活における活躍に大きく影響を与えるものである。

臼杵市における「男女共同参画社会づくりのための意識調査(2015年(平成27年) 実施)結果からは、「固定的性別役割分担意識」は前回調査(2005年(平成17年)実施)と比較しても大きな変化はなく、あらゆる場面において様々な課題が山積していることがわかった。

特に、家庭における男女の役割分担が明確にあり、社会のあらゆる場面においての性別による不平等感は改善されつつも、未だ払拭できていない。

また保護者の価値観、意識、生活習慣が子どもに多大な影響を与えるため、「固定的性別役割分担意識」の解消には、「子どもの時からの家庭教育」も重要視されていることがわかった。

DV被害や人権侵害の実態についても、その多くが潜在化している。DV被害は他の人権被害に比べて相談されにくく、相談窓口の周知や家庭及び学校における教育の必要性も高いことがわかった。加えて再発防止のための加害者側の支援や取組も忘れてはならない。

男女一人ひとりが多様な暮らし方や働き方を選択することができるよう、臼杵市、企業においても地域と連携を取りながら、柔軟なサービスや取組を行うことが求められている。

# 1 男女共同参画社会について

- 固定的性別役割分担意識(問1)
- ・男女の平等意識(問2)
- ・家庭内の仕事の分担状況(問3)
- 男性の育児・介護休暇(問4~問5)
- ・ワーク・ライフ・バランス(問6~問8)

「男は仕事、女は家庭」のような固定的性別役割分担意識の変化について(問1)

# 前回の意識調査からの変化をみると、特に男性では「同感しない」 という回答に大きな変化はみられなかった。

「男は仕事、女は家庭」などと性別によって役割を固定する性別役割分担意識は、「同感しない」が 48.6%と約半数を占めている。前回の意識調査では、「同感しない」が 46.0%であったため、今回調査では、あまり変化がみられない結果となった。しかし、性別でみると、男性は変化がみられなかったものの、女性は「同感しない」と回答した 割合が前回調査の 47.2%から 51.1%と 3.9%の増加がみられ、「同感する」との回答が 8.4%から 5.6%と 2.8%の減少という結果となった。

#### 男女の地位の平等感について(間2)

依然として、社会の中の多くの場面で男性優遇感が強いと認識されており、特に女性でそのように考える傾向が強い。男性では女性に 比べて平等意識が強いため、性別による認識の差がみられる。

男性優遇感(=「男性が優遇」+「どちらかといえば男性が優遇」)が強い項目は、「政治の場」「社会通念・しきたり・慣習」「社会全体」であった。この3つは、前回の意識調査でも特徴が出ていた項目であった。性別による傾向は、多くの項目において男性は「平等である」と回答した割合が高く、女性は「男性の方が優遇されている」と回答した割合が高い。性別による優遇感については、男女の意識の差が顕著に表れている。学校教育については、「平等である」との回答が男女ともに高い。学校教育を除けば、社会の中の多くの場面で、男性が優遇されているという認識が依然として強く、社会における男女の平等意識の向上にはいまだ多くの課題が残ると考えられる。

#### 家庭での役割分担に対する【現状】と【理想】について(問3)

理想では「夫婦で協力」と考える傾向が男女ともに高いにも関わらず、日常的な「家事」は主に女性が担う現状があることから、家庭内での平等な役割分担が進んでいないことがわかる。

家庭の役割について、【理想】では全ての項目で「夫婦で協力」との回答が高くなっているが、【現状】では「自分または配偶者」のどちらかに偏っている状況である。食事や掃除・洗濯など日常的な家事については、約7割が夫婦のどちらかに役割が偏っており、それ以外の項目については2~3割程度の偏りであった。日常的に維持・継続が必要な家事については、家庭内での平等な役割分担は進んでいないと言える。

性別による役割分担の【現状】についてみると、男性が「自分」と回答する割合が高

かった役割は「⑪家庭の問題における最終的な決定」(43.8%)、「⑨地域行事」(41.0%)、「⑪家計の管理」(17.0%)であり、日常的な家事(食事の準備・片付け・掃除等)についての回答は1割に満たない結果となっている。女性が「自分」と回答した割合が高い役割は、「③食事の支度」(75.8%)、「④食事の後片付け」(72.9%)、「②食料品などの買い物」(70.9%)、「⑤掃除・洗濯」(70.8%)と日常的な家事が約7割を占めた。「夫婦で協力」しているとの回答があった役割については、「⑨地域行事」「⑦子どもの教育としつけ」がそれぞれ男女ともに約3割の回答となっていたことから、やはり家庭における夫婦間(男女間)の役割分担の現状は理想よりも離れていることがわかった。

#### 男性の育児・介護休業取得に対する意識ついて(問4・問5)

20歳代では積極的に取るべきであるという意識が強いが、子育て世代である 30~40歳代では消極的意見が約8割を占める。男性の積極的な育児・介護休業の取得を進めるためには、社会的な認識の向上や経済的補償(男女の働き方の変革)などが課題である。

男性の育児・介護休業取得に対する意識については、「男性も育児・介護休業をとることは賛成だが、現実的にはとりづらいと思う」との回答が 69.0%と約 7 割を占めている。前回の意識調査では 78.3%であったため、9.3%の減少となった。反対に「男性も育児・介護休業を積極的にとるべきである」との回答割合が男女ともに増加している。年代別においても、20 歳代では他の年代よりも積極的に取るべきだと考える傾向がある。しかし、子育て世代の回答者が多い 30 歳~40 歳代では、「現実的には取りづらい」との回答が 8 割を占めていることからも、男性の育児・介護休業取得の現状は、理想よりも厳しいものだと考えられる。今後、回答結果にみられるよう「積極的に取得すべきだ」という 20 歳代の意識が、実際の子育てや介護が必要となった際に実現できる社会になっているよう、啓発や制度浸透が今後の課題である。

専門的な技術が求められる職業では、男性の育児・介護休業の取得は消極的な傾向にある。職業によっても意識の傾向が異なっているため、企業における育児・介護休業の積極的取得の体制づくりは職種によって柔軟な制度導入や積極的な姿勢が求められる。「管理職」では他の職業に比べ、男性の育児・介護休業取得に積極的意見が多くなっていたことから、管理職研修等を中心に、企業内での意識改革や制度導入、積極的取得等に努めることが可能であると考えられる。

「現実的には取りづらい」と回答した理由については「社会全体の認識が十分にない」という回答が 29.4%、「仕事で周囲の人に迷惑がかかる」という回答が 19.7%、「経済的に困る」という回答が 14.6%となっている。男性の育児・介護休業の取得に対する社会全体の風潮を高めることや職場での意識改革、休業補償等の経済的な支援制度など総合的な施策が必要である。休業補償のように経済的支援が必要とされる理由について

は、男女間における賃金格差等が男性の積極的な家庭参加を阻んでいる要因の一つとなっていることが挙げられる。実際に「結婚をしている」と回答した人ほど、経済的な理由で育児・介護休業を取りづらいと考える人が多い。

職場で男性の育児休業を取得できる体制を作り、育児・介護休業を取得する最初の一人を生み出していくことが各職場において必要な取組になると考えられる。

介護休業の場合は、取得者自身の年齢が高いことも予想されるため、さらに男性が介護休業を取得する難しさが出てくる。今後政府が検討している「配偶者控除」の廃止と「夫婦控除」導入は、早くても 2017 年以降になる見通しだが、この見直しによって、夫婦の働き方が変わる可能性は大きい。

「結婚や出産にかかわらず仕事をもち続けた方がよい」と回答した女性(359人)のうち「継続して働いている」と回答した人は、47.3%(170人)、「結婚、出産等のため一時やめた」と回答した人は18.4%(66人)となっており、仕事を継続したほうがよいと思っている人のうち約2割の人は、「仕事をやめた」と回答している。反対に、「仕事をやめたほうがよい」と回答した人の中にも、「継続して働いている」との回答があったことから、一人ひとりの多様な働き方が実現できる社会を目指していく必要がある。

#### 生活の中で優先していること、優先したいこと(問6)

生活の中で「優先したいこと」と「優先していること」の間に差が みられる。特に男性においては「家庭」を優先したいと思いつつも、 「仕事」を優先している現状が顕著にみられた。

生活の中で個人が「優先したいこと」については、全体では「家庭」が最も高い。男性は「家庭」が71.3%、「仕事」が59.2%であるが、女性は「家庭」が83.2%、「仕事」が35.9%と女性の方が「家庭」を優先したいと考える傾向が顕著に表れている。「実際に優先しているもの」としては、男性は「仕事」が69.7%と理想より1割高く、女性においては「仕事」が54.3%と、理想より2割も高く「仕事」を優先していると回答している。

年代別でみると、20~50歳代と60歳代以上では、優先事項が大きく変わっていることがわかる。未婚率が高い20歳代では、「家庭」と「仕事」が同程度であるが、30~50歳代では総じて「家庭」が約8割を占め、「個人」が3~4割となっている。年齢が上がるにつれて、「家庭」の割合が増し、「個人」の割合が減少していく。60歳代以降になると、徐々に「地域」の割合が増えていく傾向にある。

既婚・未婚の別によっても「優先しているもの」が異なっている。特に顕著なものでは「家庭」に対して既婚者が74.0%、未婚者が34.1%、「個人」に対して既婚者が12.0%、

未婚者が 42.1%となっている。既婚者の場合は「家庭」を優先しており、未婚者の場合は「個人」を優先しているという傾向がみられる。「仕事」との差を比較すると、既婚・未婚に関わらず、「仕事」よりも「家庭」「個人」と回答する割合が増加していることから、未婚・既婚に関わらず、特に生産年齢に位置する回答者は、理想では「家庭」や「個人」を優先したいが、現実では「仕事」を優先していると考えていることがわかる。

結婚の有無や年齢など個人を取り巻く環境によりその時々の優先事項は変わっていく。人生の中で、一人ひとりが優先したいことを実現できる社会環境づくりが必要である。

#### 男性の家庭・地域への参加のために必要なことについて(問7)

全体では「職場環境の改善」が重要視されている。特に女性は、「職場環境」と同様に「子どもの時からの家庭教育」も重要視している。

男性が女性とともに家庭生活(家事・育児・介護)や地域活動等へ参加するために必要なことは、全体では、「職場における、育児・介護休暇等を取りやすくする環境づくり」(51.2%)が突出しており、2人に1人が回答をしている。特に何らかの仕事に就いている割合が高い年代では、他の年代よりも回答割合が高い傾向があるため、職場での育児・介護休暇等を取りやすくなる環境をつくることが、男性の家庭参加を進める一歩となると思われる。次いで「子どもの時からの家庭教育」(42.3%)が高くなっている。この回答は、性別による差が顕著にみられ、男性では32.9%、女性では48.5%という結果であった。全体的には「職場における改善」が高いが、女性では職場以外に「家庭教育」を職場と同程度に重要視していることがわかった。「家庭教育」については、保護者の価値観、意識、生活習慣が子どもに多大な影響を与えるため、家庭内での協力体制が重要であると考える。

#### 仕事と家庭生活の調和を実現するために必要なこと(問8)

仕事と家庭生活の調和を取るためには、仕事においては「経済面」「仕事量」についての対策、家庭では、家族や周囲の理解・支援、保育施設等の内容の充実といった「理解・支援」「保育・託児等へのサービス強化」が求められている。

仕事において必要なことは、「育児休業中・介護休業中の経済的補償」(40.5%)が最も高く、次いで「家事・育児・介護参加への職場・上司の理解」(38.7%)、「仕事量・残業時間の減少」(35.8%)となっている。家庭との調和の実現のための要因として「経済面」そして「職場内の理解」「仕事における拘束時間」が主であることがわかる。性別で差がみられるものについては、男性は「経済面」と「仕事量」、女性は「職場・上

司の理解」に対する課題が上位となっている。年代でも考え方の差が表れていることから、回答者の仕事の経験年数や職階等が要因となっていることが予想される。

仕事に対する回答は職業によっても傾向がみられるため、企業の状況や業種・職種毎の課題を明確にすることが必要である。企業内におけるそのような取組を促し、各企業がそれぞれの実態に合った取組を実施できるよう、継続した啓発活動が重要である。

家庭生活において必要なことは、「家族・周囲の理解・支援」が最も高く(56.0%)、次いで「保育施設や児童クラブ等の内容の充実」(45.6%)となっている。

年代によっても必要としていることが大きく異なっている。20歳代では、「保育施設や児童クラブ等の内容の充実」や「家庭内での家計負担の平等化」など、男女が対等に仕事と家庭を両立できる仕組みの整備や、「家事等の能力向上」の項目が高いが、30歳代になるとそれらの回答割合は減少し、反対に「配偶者・家族とのふれあい」との回答が多くなる。

職種によっても、家庭生活に求める内容に特徴がみられる。特に、保育施設等の内容の充実などは、時間の拘束が多い職種において回答がみられる。企業勤務の場合、働き方が家庭生活にも直結するため、仕事と家庭生活の両立を考える上では、個人や家庭内での努力だけでなく、企業への柔軟な勤務体系の積極的導入や補償の充実、職場や上司の理解の深化、そして社会全体においても、ワーク・ライフ・バランスといった、仕事と家庭の両立について認識を深めていくことも必要である。



- 女性の就労について(問9~問10)
- ・男女の仕事の内容や待遇(問11)
- 育児、介護休暇取得状況(問 12)
- ・退職について (問 13~問 15)

#### 現在、仕事をしているかどうかについて(問9)

「結婚・出産」を期に退職する女性の割合が高く、正社員への復職よりもパート等への復職の割合が高い。これから働きたいと考える男女を含めた働く人すべてが、多様な働き方が選択できる職場環境を整備することが必要である。

「継続して働いている」の回答割合は、性別で顕著に差がみられる。男性では、66.6%、女性では39.6%と約3割の差となっている。女性の割合が低い理由は「結婚・育児のため一時やめたが、また働いている」「働いていたが結婚・育児のため仕事をやめた」との回答が、男性はそれぞれ0.5%と0.0%であったが、女性はそれぞれ12.3%と9.4%となっており、結婚・育児が男女の継続勤務の差につながっていることがわかる。

年代別でみると、「現在働いている(=継続して働いている+結婚・育児のため仕事を一時やめたがまた働いている+その他の事情で一時やめたがまた働いている)」の割合は、20歳代で89.3%、30歳代で80.1%、40歳代で88.8%となっており、30歳代で1割の減少が起こるM字カーブ<sup>2</sup>の状況がアンケート結果にも表れている。M字カーブ解消のための対策は国においても検討されていることから、臼杵市においても継続した就労を希望する女性が、結婚や出産をしても仕事をやめることなく働き続けられる環境づくりが必要とされる。

現在の職業とこれまでの働き方との関係をみると、現在「パート等」で働いていると回答した人の 26.2%は、「結婚等で一時仕事をやめた」と回答している。他の職業と比較しても、回答者の人数・割合が多いことから、これは日本の雇用形態において、家庭と仕事の両立の難しさが表れていると考えられる。「事務職」「専門技術職」においての正社員への復職率は約1割の回答結果となっていることから、家庭と仕事の両立のためには、再雇用や労働時間に対する課題、正社員への登用、配偶者控除といった扶養の関係など、家庭と仕事の両立において、様々な背景や課題があることがうかがえる。

<sup>&</sup>lt;sup>2</sup>M字カーブとは、『女性の労働力率が、結婚・出産期に当たる年代に一旦低下し、育児が落ち着いた時期に再び上昇するという、いわゆるM字カーブを描く』ことをいう(内閣府男女共同参画局より)

「継続して働いている」と回答した割合は、既婚者よりも未婚者の方が2割程度高い。 既婚者は、結婚や出産等による退職のほか、「これまで働いたことがない」についても 未婚者より高いことから、結婚や出産等が仕事を継続することに対して大きな影響を持 っていることがわかる。産前産後休暇や育児休業等の未活用もその中に含まれる。

2015年(平成27年)9月に閣議決定された「女性の職業生活における活躍の推進に関する基本方針」には、各事業者に対して、女性が結婚や出産等に左右されることなく仕事を継続しやすくするために取り組むべきことを掲げている。今後は、国の方針に沿って、関係団体が女性の仕事の継続等に対して、積極的に取り組んでいくことが求められている。

#### 女性が仕事を持つことについて(問10)

2人に1人が「仕事を持ち続けたほうがよい」と回答しているが、 年代によっては、「仕事をやめた方がよい」と考える割合も高いた め、女性が人生設計に応じて、多様な働き方や暮らしを選択できる ような社会づくりや啓発活動が重要である。

全体では、「結婚や出産にかかわらず仕事をもち続けた方がよい」(48.9%)との回答が最も高く、2人に1人が回答をしている。性別での差はみられないが、年代間で意識の差がみられる。全体では、仕事を持ち続けた方がよいとの回答が高い傾向にあるが、20歳代では「結婚するまでは」「子どもができるまでは」仕事をした方が良いとの回答が、他の年代の約4倍の差が出ている。50歳代になると、「仕事をもち続けたほうがよい」との回答が約6割を占めており、仕事継続に賛成との意見が多い。反対に60歳代以上になると、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つ方がよい」との回答割合も高くなっている。女性は、結婚や出産・育児を経験していく中で、様々な年代の人と関わりを持つ機会が増えるため、女性自身が周囲の意見に流されず、多様な働き方を自分で判断して選択できる社会づくりが重要である。そのため、女性が活用できる各種制度の浸透に努め、社会全体においても、結婚や出産によって女性の継続した就業が左右されるのではなく、多様な働き方、暮らし方を尊重できるような意識の醸成をしていくことが必要である。

#### 職場での性別による不平等の有無について(問11)

仕事において「賃金」「昇進・昇格」「雇用形態」に不平等があるとの回答割合が高い。女性の役員・管理職登用を積極的に促し、性別にかかわらず、働き続けたい人が働き続けることができるよう、社会意識の醸成や企業等における積極的な取組が求められる。

職場での性別による不平等が「ある」と回答する割合が高かった項目は、「⑤賃金」 (42.0%)、「⑥昇進・昇格」(39.0%)、「②雇用形態」(38.1%)となっており、他の不 平等がないと回答した項目よりも直接、働き方に関わる項目であることがわかる。全て の項目で「不平等がない方がよい」との回答も5割から7割となっており、仕事における性別による不平等は不要であると考える傾向があることがわかる。

「ない方がよい」との回答割合が高かった項目は、「結婚・妊娠・出産時に退職を促される」「女性は定年まで勤めにくい雰囲気がある」「役員・管理職への登用」が男女ともに割合が高い。これらの内容は、早急に改善されるべき項目である。

性別による意識の差が様々な場面でみられることから、職場での不平等をなくすためにも、男女が共に働きやすい仕事の仕組みづくりや、女性の登用等の企業の積極的な取組が必要である。しかしながら、現状では仕事と家庭の両立が困難になること等により、昇進を望まない女性が多いことも、女性の役員・管理職登用が進まない原因の一つでもある。

#### 育児休業や介護休業の取得状況について(問12)

育児休業のみでも、取得したことがある人は1割以内にとどまっている。男性の取得事例も活用し、積極的に男性の育児参加や制度の活用を促すことが必要である。

回答者の81.4%が、育児休業・介護休業ともに取得したことがないと回答している。「両方とも取得」は1.5%、「育児休業のみ」8.3%、「介護休業のみ」1.0%である。「育児休業のみ」については、取得したことがあるとの回答した人が、女性は93人、男性は6人であった。男性の育児休業取得は、女性に比べると少数であるが、取得経験者から得られる情報を活用するなど、引き続き男性の育児休業・介護休業の取得率向上のための取組及び啓発が必要である。

なお、育児休業法は1992年(平成4年)4月から施行され、1995年(平成7年)に 「育児・介護休業法」に改正された。回答者の年代によっては育児・介護休業法施行時 には既に育児が終わっていた等により取得する機会が得られなかった回答者がいるこ とも考えられる。

#### 退職について(問13、問14、問15)

# 女性の退職の理由としては、「結婚」や「妊娠・出産・子育て」を あわせて約4割以上となっている。

退職の理由については、1206人中766人(63.5%)から回答が得られた。退職の主な理由は、「結婚」が18.4%、「転職」が16.4%となっている。性別による差が顕著にみられ、「結婚」については男性が1.3%、女性が26.3%となっており、「転職」については、男性が34.6%、女性が7.8%となっている。「妊娠・出産・子育て」については女性のみに回答がみられ、17.6%であった。「結婚」「妊娠・出産・子育て」を理由とした退職は女性に偏っていることがわかる。

退職の時期については、全体の54.7%が「10年を超える」と回答しており、男性より女性に多い。退職の理由については、「自分で希望して退職を選んだ」との回答が全体では69.3%と約7割を占め、性別による差もみられなかった。「勤務を継続できない理由や雰囲気が生じ、仕方なく退職した」との回答は、全体では10.7%と1割程度であるが、男性は7.2%、女性は11.9%となっており、女性の方が割合が高い傾向がみられた。



- ・子どもの学歴(問16)
- ・子どもに身につけてほしいこと(問17)
- ・地域活動における女性の参加や発言のしにくさ(問18~問19)

## 子どもに必要な学歴について(問16)

「男の子ども」は「大学以上」の学歴が、「女の子ども」は「高等学校」以上の学歴が必要とする傾向が、特に 30 歳代以上~50 歳代以下でみられた。20 歳代でも、「男の子ども」「女の子ども」それぞれに必要と考える学歴に差がみられた。

「男の子ども」については、48.3%が「大学以上の学歴が必要」と回答している。それに対し、「女の子ども」については27.6%であったので、男女間では約2割も差があることがわかる。「男の子ども」については、年代別でみると20歳代が最も「大学以上の学歴が必要」(53.2%)と回答しており、2人に1人の割合である。20歳代は、「高等学校」(31.9%)または「大学以上」(53.2%)の2つにわかれる傾向である。70歳以上になると、「大学以上」(59.5%)が突出しており、「短大・高専」(10.5%)の2つにわかれている。30~50歳代では、「高等学校」「大学以上」のほかに、「専門学校」「短大・高専」も回答されている傾向にある。回答者の職業においても、必要とされる学歴を回答する傾向にあることがうかがえる。

「女の子ども」については、20歳代が「大学以上の学歴が必要」(42.5%)と回答した割合が高い。20歳代に「大学以上」と回答する割合が高い傾向は「男の子ども」と同様である。しかし20歳代でも「大学以上の学歴が必要」と回答した割合は「男の子ども」(53.2%)、「女の子ども」(42.5%)で約1割の差がみられた。「女の子ども」に必要な学歴は、年代によっても顕著に差が表れている。50歳代以下の各年代では約3~4割が「高等学校」と回答しており、中でも、30~50歳代では、「大学以上」との回答割合より「高等学校」との回答割合の方が高い。

「男の子ども」の場合は、全ての年代で「大学以上」が最も高い割合であったことから比較すると、「女の子ども」の方が「男の子ども」よりも大学まで行かなくて良いという認識が結果からうかがえる。60歳代以上になると、約2割が「短大・高専」と回答しており、50歳代以下の各年代と比較して約5%以上高い結果となっている。

## 子どもに身につけてほしいことについて(問17)

子どもの性別によって「身につけてほしいこと」には顕著に差がみられる。無意識に「男らしさ」「女らしさ」を備えることを求めていることがわかり、子どもに対しても、固定的性別役割分担意識が根強く残っている。

「男の子ども」では、「礼儀正しさ」(46.3%)、「思いやり」(43.3%)と2つの項目がほぼ同じ割合で最も高くなっているが、それ以外の項目においては、1割~3割程度の差で回答にばらつきがみられた。「女の子ども」に対しては、「思いやり」(70.9%)、「礼儀正しさ」(60.1%)の2つが突出しており、「男の子ども」と比べても、限定された項目に集中しているという差がはっきりみられた。これは、男女が一人の人間として求められていることではなく、「男性」「女性」に求められる"役割"が無意識に反映されている結果である。例えば、「職業能力」については、「男の子ども」が35.6%に対し、「女の子ども」が12.1%と約3分の1となっており、反対に「家事能力」については、「女の子ども」が50.6%に対し、「男の子ども」が14.7%と約3分の1という回答割合となっている。子育てにおいて、「男の子だから」「女の子だから」こう育ってほしい、といった男女別の意識が根強く残っている限り、社会においても男女間の意識や立場の差が反映されていることにつながっていることが考えられる。

職業別でも傾向がみられる。「男の子ども」「女の子ども」ともに、回答者の職業において「職業上必要な能力や性質」と考えられる項目に割合が高い傾向がみられる。

#### 地域活動について(問18)

男性は女性よりも「自治会などの地域活動」への参加が多かった。 また未婚者に比べ既婚者のほうが地域活動への参加が多い傾向に ある。現在活動をしていなくても、将来参加したいとの意識は高い が、参加していない理由が性別によって違う傾向がみられるため、 性別に応じた取組も必要である。

現在参加している地域活動については「自治会などの地域活動」が最も高く、全体では31.8%となっていたが、男女間でその割合に差がみられる。男性が47.1%と約2人に1人が回答しているが、女性はその半分の23.5%で、約4人に1人が回答している。全体の回答で2番目に高い割合は「活動に参加していない」で28.8%であり、男女差をみると、女性が32.3%と女性の選択肢の中では最も高く、男性より約1割高い回答割合となっている。

地域活動への参加は、既婚・未婚によっても差が顕著であった。未婚と回答した人の 2人に1人が「参加していない」と回答しており、これは既婚と回答した人の2倍にあ たる。

地域活動への今後の参加意向については、「ボランティア活動」との回答割合が最も高く (24.7%)、4人に1人が回答している。「ボランティア活動」に対しては、現在の活動の回答よりも、各年代それぞれで1割ずつ増加している。反対に現在地域活動へ未参加だった 28.8%の回答割合も、「参加したくない」では約15%と半減し、将来的に何らかの地域活動に参加したいとの意向がうかがえる。

地域活動においては、「学校行事」に対する特徴もあり、特に 30~40 歳代では「学校 行事」の割合が約4割近く、他の年代より3倍程度高いことがわかる。

地域活動に参加していない理由については、「時間がないから」との回答が最も高く (47.2%)、男性より女性の方が 1 割程度高くなっている。その他に性別による差がみられる回答は、男性の場合は「関心がない」「他人と一緒に活動することがわずらわしい」といった回答の割合が女性より高く、反対に女性は「一緒に参加する仲間がいない」「経済的に余裕がない」「家族の理解や協力が得られない」といった回答の割合が男性より高くなっている。現在地域活動に参加していないと回答した人に限定すると、男性よりも女性の方が地域活動に対する意欲は高いことがうかがえる。男性には、参加することのメリットを、女性には、参加しやすいきっかけづくりを提供することで、地域活動への参加率が向上する可能性が考えられる。

#### 自治会などの地域の集まりや作業における女性の参加について(問19)

自治会等の活動が男性優位の活動になっているという認識の傾向 がみられる。女性の積極的な参加を促しつつ、性別にかかわらず活 動していけるよう男女それぞれの意識改善が必要である。

自治会などの地域の集まりや作業において、女性が参加・発言できにくい状況についてみると、「そういうことはないと思う」が 47.0%と最も高い。「できにくい状況や雰囲気があると思う」については、19.9%と5人に1人が回答している。前回調査と比較すると、「そういうことはないと思う」は変化がなかった。「できにくい状況や雰囲気があると思う」については、前回の 35.5%から今回 19.9%と 15.6%減少している一方で、「わからない」が 16.5%から 27.0%と 10.5%増加し、結果として大きな変化はみられなかった。「わからない」との回答は、男性より女性に多く、年代では、20~30歳代に多いことから、実際に集まりや作業等に参加したことがない回答者が「わからない」と回答していることがわかる。

「できにくい状況や雰囲気があると思う」と回答した理由については、「決定事項については、従来、男性が取り仕切っているので、女性が口を挟みにくい」が最も高く

(50.0%)、前回(47.3%)と変化はなかった。女性は「「地域活動で女性が発言することはでしゃばりだ」と思われがちである」との回答が男性よりも26.1%高く、48.2%となっており、女性の回答は、その2つが同率で挙がっている。男性優位の活動を改善し女性参加を促すとともに、女性の意識改善も今後の課題として検討できる。

# 4 配偶者・恋人間の暴力(DV)について

- · D V の認識度(問 20)
- ・DVの加害・被害経験、防止の必要性(問 21~問 25)

#### 配偶者・恋人間の暴力 (DV) について (問 20~問 25)

男性は「精神的暴力」「性的暴力」「経済的暴力」を「暴力である」と認識する割合が低い傾向にある。DV被害は他の人権侵害の被害よりも相談されにくく、特に男性が被害を受けた場合は、女性よりも相談しない傾向がある。DV被害を早期に顕在化し、被害者への必要な支援が遅れないようにするため、相談しやすい環境づくりや啓発活動を行う必要がある。

目に見える「身体的暴力」については、全ての項目で「どんな場合も暴力にあたると思う」と回答する割合が高い。それ以外の「精神的暴力」「性的暴力」「経済的暴力」は「どんな場合も暴力にあたると思う」との回答の割合が分散されており、項目によって「暴力」との認識に差がみられる。これらの3種類の暴力は、身体的暴力と比べ直接的に害を加えるといった性質でないため、「暴力」と認識するかどうかについては、個人の価値観等に左右されやすく、個人の育ってきた環境の中で培われた感覚によるものが大きいと考えられる。項目全般にわたって女性よりも男性の方が「暴力の場合とそうでない場合がある」の回答割合が高くなる傾向がみられることから、「暴力と思うかどうか」については、性別で意識の差があるということがわかった。

実際の暴力の経験の有無では、ほとんどの項目で「されたことはない」との回答が男女ともに8割程度となっているが、「されたことがある」との項目については、女性のほうが男性よりも数倍高い傾向がみられた。もちろん、男性が被害者となる場合もあるが、割合の差でいうと男性が加害側になる割合が高いことがわかる。

暴力を受けた時の相談の有無については、「相談しなかった」との回答が全体で65.2%と突出して高く、前回調査では50.5%だったことから、約15%増加している。相談の有無は性別によっても顕著に差がみられ、女性では62.2%(196人中122人)、男性では83.8%(37人中31人)が「相談しなかった」と回答している。

相談しなかった理由としては、男性は「相談するほどのことではないと思った」が45.2%(31人中14人)と2人に1人が回答している。全体では「自分にも悪いところがあると思った」との回答が39.4%と最も多く、性別による差もみられなかった。

性別での差がみられた回答としては、男性では「他人を巻き込みたくなかった」「相談するほどのことではないと思った」「相談しても無駄だと思った」と回答する割合が女性より高く、反対に女性では「相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思った」「相手と別れた後の自立に不安があったから」「それがDVだと思わなかった」といった回答が高くなる傾向がみられた。

相談しなかった理由をみると、男性は自己完結する傾向があるため、結果として深刻な状態になるまで支援の手が届かない状況に陥ってしまう傾向がある。被害者になる男性は、女性を傷つけてはいけないという倫理観や、男性はこうあるべきといった価値観に縛られてしまい身動きができなくなる場合もあるので、相談を受けた場合においても適切な支援につなげられるよう、啓発活動を行う必要がある。

相談した人や場所については、女性は「家族や親せき」が高く(63.8%)、男性は友人・知人が高くなっている(80.0%)。

配偶者や恋人間の暴力を防止するために必要なことについては、「家庭で保護者が子どもに対し、暴力がいけないことだと教える」との回答割合が 66.3%と最も高くなっている。暴力は世代を超えて連鎖することが懸念される。適切な教育を通し、保護者も子どもも暴力に対する正しい知識、対処法を学ぶことが重要である。

DVによる被害がなくなることが最も望ましいことであるが、暴力に対して不安や疑問に感じた際に相談できる窓口が開設しているということについての周知が大切である。加害者、被害者ともに、その行為が暴力だと気がつかない場合がある。また同居する子どもがいる場合は、子どもへの2次的被害も考えられることから、積極的な啓発活動等によりDVの認識を深めることが重要である。

DVによる再発を防ぐために、DV加害者に対する更生教育プログラムの取組や被害者への情報提供も重要である。

# 5 人権について

- ・セクハラ、ストーカー、性的被害の加害・被害経験及び防止の必要性(問 26~問 29、問 31)
- ・メディアの表現について(問30)
- ・女性の生涯にわたる心身の問題について(問32)

#### 人権侵害の経験について (問 26~問 29)

「セクハラ」「ストーカー」について、「されたことがある」との割合は、女性の方が高い。DV被害と同様に、男性が被害者の場合は相談しない傾向にあるため、被害にあった人に適切な支援が施されるよう、相談機関の積極的な情報提供や支援が必要である。

「セクハラ」「ストーカー」については、全体的に「されたことはない」との回答割合が8~9割を占めている。「されたことがある」との回答は、男性よりも女性の方が回答割合が高い傾向がある。「性的被害」の各項目は、「セクハラ」「ストーカー」と比較しても「されたことがある」については回答割合が低い。ただし、全ての項目において、「されたことがある」という回答が0.1%でも存在していることは見逃してはならないことである。

人権侵害を受けた時の相談の有無については、「相談しなかった」との回答が全体で59.8%と突出して高く、前回調査では、52.9%だったことから、約7%増加している。DV被害における相談の有無を比較すると、「相談した」との回答割合は同程度であったが、「相談しなかった」との割合はDV被害の方が高い傾向がみられた。相談の有無についての性別による差はDV被害の設問と同じく顕著に差がみられ、「相談しなかった」との回答は、女性では54.1%(185人中100人)、男性では91.4%(35人中32人)となっている。

相談しなかった理由としては、男性は「相談するほどのことではないと思った」が62.5% (32人中20人) と半数以上が回答しており、女性より1割高い。女性はそれ以外に「相談しても無駄だと思った」との回答が45.0%と2番目に高く、男性よりも10.6%高い結果となり、性別によっても回答割合に差がみられた。

相談した人や場所について、女性は「友人・知人」が最も高く 58.7%であった。被害について相談した人や場所については、性別にかかわらず公的機関よりも身近な人に相談する傾向がみられた。そのため、被害を受けていない人も、身近な人から相談された場合に適切な場所へ被害者をつなげることができるような仕組みづくりも重要である。そのような社会的な安全網を広げることが、被害を最小限にとどめるための方法の一つになると考えられる。

テレビやインターネット等のメディアにおける固定的性別役割分担の表現や暴力、性 の表現について (問 30)

大分県調査よりも回答割合が低い項目もあり、問題意識の低下が見受けられる。様々な情報があふれるメディアの影響をできるだけ受けないよう、情報の受け手側は、情報を適切に判断し読み解く力を身につける必要性がある。

全体では、「子どもが性についてゆがんだ意識を持つおそれがある」(29.4%)、「性別によって役割を固定する表現や女性に対する暴力・性の表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」(29.1%)が高い割合となっている。特に後者については、男性よりも女性の方が約1割高くなっており、子どもに対する配慮の不足について感じる人が多いことがわかる。

大分県調査と比較すると「女性の身体や姿態を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ」「社会全体の性に関する道徳観・倫理観を損なう表現をしている」という項目で県の調査結果より5%ほど低い回答割合となっている。

近年は様々な媒体が発達し、子どもたちも多くの情報に触れる機会が多くなっている。 メディアからの影響を最小限にとどめるためにも、保護者を含め、メディアから発信される偏った情報の影響をできるだけ受けないよう、主体的に情報を読み解く力をつけていく必要性がある。

セクハラ・ストーカー・性的被害等を防止するために必要なことについて(問31)

「学校教育が必要」という回答が最も多い。大分県調査と比較すると「相談窓口の充実」が高く、支援機関の情報提供などが求められている。

全体では、「学校で児童・生徒・学生に対し、人権問題や犯罪を防止するための教育を行う」が最も高く59.6%となっており、「学校教育」が必要である・大切であると考える人が多いことがわかる。性別による差はみられなかった。「身近な相談窓口を増やす」(58.1%)がほぼ同じ回答割合となっている。性別で差がみられた項目は「犯罪を助長するおそれのある情報を取り締まる」という項目(全体では34.2%)では、女性の方が男性より1割程度高い回答となっている。身近な相談窓口の設置等も女性の方が高い傾向にある。男性は「職場などでの啓発」が女性よりも高かった。

大分県調査と比較すると「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」 (58.1%) が県の意識調査よりも8.1%高くなっており、反対に「メディアを活用して、 広報・啓発活動を積極的に行う」 (21.8%) が、4.7%低い結果であった。

#### 女性が生涯にわたり心身ともに健康であるために大事なこと(問32)

「ライフステージに合わせた健康づくりの推進」が男女ともに高い。「自ら運動等を行う習慣を持つこと」との回答割合は男性より 女性の方が高い。

「ライフステージに合わせた健康づくりの推進」の回答割合が最も高く 50.4%で、 性別による差はみられなかった。次いで「自ら運動等を行う習慣を持つこと」が全体で は 46.2%であり、女性の方が男性より 1 割程度高い。

県の意識調査との比較においても、回答割合が高い項目は変わらなかった。

# 6 男女共同参画社会の実現とDV防止について

- ・男女共同参画の認知度(問33)
- ・女性の参画(登用)(問34)
- ・男女共同参画の実現(問35)

#### 男女共同参画関連用語の認知状況について(間33)

「DV」の認知度は高いが、「女性の問題に対する窓口」の認知度は低く、周知の強化が必要である。

「④DV」が最も認知度が高く、53.6%が「内容まで知っている」と回答している。「聞いたことがある」を含めると、約8割が「聞いたことがある」「知っている」と回答している。「①男女共同参画」については「内容まで知っている」との回答が23.6%であり「④DV」の約半数の回答となっているが、「聞いたことがある」との回答を含めると、約7割が「聞いたことがある」「知っている」と回答していることから、言葉の認知度は上がっていることがわかる。

「④ジェンダー」「③女性の問題に対する相談窓口」「⑤臼杵市男女共同参画基本計画」「⑥臼杵市男女共同参画推進条例」については、「内容まで知っている」との回答は 1割前後にとどまっている。「④DV」の認知度は高い一方で、「③女性の問題に対する相談窓口」については、「内容まで知っている」「聞いたことがある」の回答を合わせると52.4%であった。

#### 女性の社会への参画が少ない理由(問34)

# 男女ともに「男性優位の社会の仕組みや制度がある」と回答する割合が高い。

「男性優位の社会の仕組みや制度がある」が最も高く (26.5%)、突出した結果となっている。性別による差はみられなかった。性別による差がみられた項目としては、女性では「「女はでしゃばるものではない」という社会通念がある」という回答が男性より高く、男性では「女性自身が指導的地位に対する関心やチャレンジ精神がない」という回答が女性より高い傾向にあるため、性別による意識の差が表れていることがわかる。

県の意識調査との比較においても、「男性優位の社会の仕組みや制度がある」との回答は同様に突出した結果であった。

#### 男女共同参画社会の実現のため、

今後どのようなことに臼杵市が力を入れていくべきと思うかについて (問35)

# 「保育・介護・病院などの施設やサービスを充実する」が最も高い。 男性よりも女性のほうが、家庭面での支援を求める傾向がある。

全体では、「保育・介護・病院などの施設やサービスを充実する」が最も高く(40.9%)、 女性の回答割合は男性よりも約1割程度高くなっている。特に女性の回答では、この項 目が突出して高くなっていることから女性のニーズが高いことがうかがえる。男性は、 「市の審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する」(35.0%) との回答が「保育等の施設やサービスの充実」(34.5%) と同程度の割合で高くなって いることから、政策や制度の導入においては、ある程度女性の意見を反映できる体制づ くりが求められていることがわかる。次いで、男女ともに「再就職の支援」という項目 が上がっている(31.8%)。

# 第3章 各調査の結果

# 1. 男女共同参画社会について

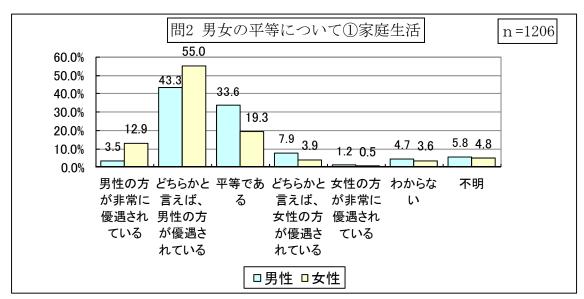
- 問 1.「男は仕事、女は家庭」のように性別によって役割を固定する考え方がありますが、あなたはその考え方をどう思いますか。(1つに○)
  - ●「同感しない」との回答割合が最も高く、48.6%となっている。
  - ●「同感する」との回答割合は、男性が女性の2倍となっている。

			問1 性別に	こよって役	割を固定す	る考え方に	こついて
		合計	同感する	同感しな	どちらと	わからな	不明
				い	もいえな	い	
					い		
	全体	1206	88	586	432	17	83
		100.0%	7.3%	48.6%	35.8%	1.4%	6.9%
性別	男性	429	45	192	154	8	30
		100.0%	10.5%	44.7%	35. 9%	1.9%	7.0%
	女性	746	42	381	267	9	47
		100.0%	5.6%	51.1%	35.8%	1.2%	6.3%
	不明	31	1	13	11	0	6
		100.0%	3. 2%	41.9%	35. 5%	0.0%	19.4%

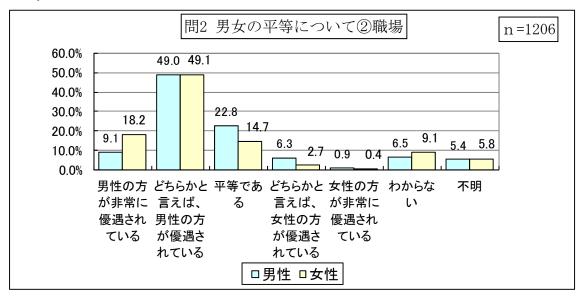
			問1 性別に	よって役割	訓を固定す	ス孝う方に	ついて
		合計	同感する	同感しな		わからな	š
		百訂	内感りつ				不明
				い	0, 75.5	い	
					い		
	全体	1206	88	586	432	17	83
		100.0%	7.3%	48.6%	35.8%	1.4%	6.9%
年齢	20歳~29歳	47	0	25	16	1	5
		100.0%	0.0%	53. 3%	34.0%	2.1%	10.6%
	30歳~39歳	126	3	67	41	6	9
		100.0%	2.4%	53. 2%	32.5%	4.8%	7.1%
	40歳~49歳	161	11	73	69	0	8
		100.0%	6.8%	45. 3%	42.9%	0.0%	5.0%
	50歳~59歳	244	13	128	90	3	10
		100.0%	5.3%	52. 5%	36.9%	1.2%	4.1%
	60歳~69歳	410	41	189	147	6	27
		100.0%	10.0%	46.0%	35.9%	1.5%	6.6%
	70歳以上	190	19	92	59	1	19
		100.0%	10.0%	48.4%	31.1%	0.5%	10.0%
	不明	28	1	12	10	0	5
		100.0%	3.6%	42.8%	35.7%	0.0%	17.9%

# 間 2. あなたは社会や生活の中で、男女の地位は平等になっていると思いますか。 (1 つに○)

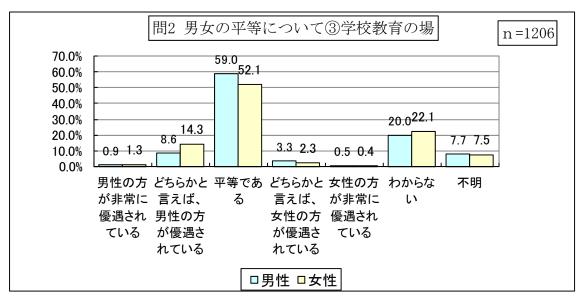
- ●全体を通して、様々な場面で「男性の方が優遇されている」という回答割合が 高い傾向にある。男性よりも女性に回答が多い。
- ●「学校教育」や「地域活動等」では、「平等である」との回答の割合が高いが、 全ての項目において「平等である」との回答も女性より男性のほうが回答割合 が高い。男性よりも、女性の方が不平等感が高いことがわかる。



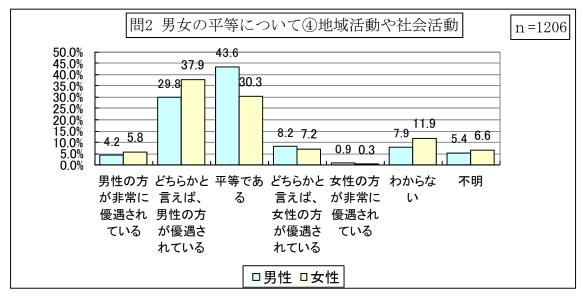
①家庭生活では、男女ともに「どちらかと言えば、男性の方が優遇されている」との回答が多数を占めている。男性は女性よりも1割以上高く「平等である」と回答している。「男性の方が非常に優遇されている」と回答した女性の割合は、男性の約4倍となっている。



②職場では、男女ともに「どちらかと言えば、男性の方が優遇されている」との回答が多数を占めている。「男性の方が非常に優遇されている」と回答した女性の割合は、男性の約2倍となっている。



③学校教育では、男女ともに「平等である」との回答が半数以上を占めている。「平等である」との回答は、女性よりも男性の方が高い割合である。



④地域活動や社会活動では、「どちらかと言えば、男性の方が優遇されている」「平等である」との回答が多数を占めているが、性別によってその割合が異なっている。「平等である」との回答は、女性よりも男性の方が1割以上高い割合である。

④以降は、「⑤政治の場」「⑥法律や制度上」「⑦社会通念・慣習・しきたり」「⑧社会全体」について質問を設けた。

# 問3. あなたの家庭では、次の①~⑪までの役割を、主にどなたがされていますか(現 状)。また、あなたの理想の分担はどのような形ですか。(1 つに○)

- ●家庭における様々な役割についての理想は、「夫婦で協力」と回答した割合が高く、どの項目においても約4割~6割が回答している。しかし現状は、夫婦のどちらかがその役割を担っている状況であることがわかる。
- ●理想では、食事の準備に関すること(買い物、支度)よりも、食事の後片付け や掃除・洗濯などの方が「夫婦で協力」と回答した割合が高くなっている。
- ●子どものしつけや学校行事についての理想は、「夫婦で協力」との回答が男女と もに高くなっている。

	合計	自分	配偶者	夫婦で	父	母	その他	不明
問3 家庭の役割【現状】	ПНІ	п <i>л</i>	HC IIV H	協力	(実父・	(実母・	CANIE	1.01
同3 家庭の役割【先仇】					義父)	義母)		
①家計の管理	1206	536	278	236	12	74	22	48
	100.0%	44. 4%	23. 1%	19.6%	1.0%	6. 1%	1.8%	4.0%
②食料品などの買い物	1206		244	218	4	73	17	60
	100.0%	48. 9%	20. 2%	18. 1%	0.3%	6. 1%	1.4%	5.0%
③食事の支度(したく)	1206	617	308	104	2	95	26	54
	100.0%	51. 1%	25. 5%	8.6%	0. 2%	7. 9%	2. 2%	4.5%
④食事の後片付け	1206	602	256	172	5	74	41	56
	100.0%	50.0%	21. 2%	14. 3%	0.4%	6. 1%	3. 4%	4.6%
⑤掃除・洗濯	1206		269	180	3	82	30	57
	100.0%	48, 6%	22. 3%	14. 9%	0. 2%	6.8%	2.5%	4.7%
⑥育児(乳幼児の世話)	1206		154	203	0	22	98	467
	100.0%	21. 7%	12.8%	16.8%	0.0%	1.8%	8. 1%	38.8%
⑦子どもの教育としつけ	1206	205	80	387	4	16	76	438
	100.0%	17.0%	6.6%	32. 1%	0.3%	1.3%	6.3%	36.4%
⑧学校行事	1206	298	113	237	3	16	80	459
	100.0%	24. 7%	9.4%	19. 7%	0.2%	1.3%	6.6%	38. 1%
⑨地域行事	1206	366	155	442	29	44	35	135
	100.0%	30. 3%	12.9%	36. 7%	2.4%	3.6%	2.9%	11.2%
⑩高齢者の世話・介護	1206	229	99	264	2	34	129	449
	100.0%	19.0%	8.2%	21. 9%	0.2%	2.8%	10.7%	37. 2%
⑪家庭の問題における最終的な決定	1206	314	240	430	53	22	30	117
	100.0%	26.0%	19. 9%	35. 7%	4.4%	1.8%	2.5%	9. 7%

	合計	自分	配偶者	夫婦で協	父	母	その他	不明
問3 家庭の役割【理想】				カ	(実父・ 義父)	(実母・ 義母)		
					我人	我(分)		
①家計の管理	1206	268	134	599	3	28	15	159
	100.0%	22. 2%	11.1%	49.8%	0. 2%	2. 3%	1. 2%	13. 2%
②食料品などの買い物	1206	248	154	588	3	19	22	172
	100.0%	20.6%	12.8%	48. 7%	0. 2%	1.6%	1.8%	14. 3%
③食事の支度(したく)	1206	216	157	592	1	36	34	170
	100.0%	17. 9%	13. 0%	49. 1%	0.1%	3. 0%	2.8%	14. 1%
④食事の後片付け	1206	178	110	683	1	15	41	178
	100.0%	14. 8%	9. 1%	56. 6%	0.1%	1. 2%	3.4%	14. 8%
⑤掃除・洗濯	1206	175	109	681	0	19	30	192
	100.0%	14. 5%	9.0%	56. 5%	0.0%	1.6%	2. 5%	15. 9%
⑥育児(乳幼児の世話)	1206	34	48	603	1	5	49	466
	100.0%	2. 8%	4.0%	50. 0%	0.1%	0.4%	4. 1%	38. 6%
⑦子どもの教育としつけ	1206	27	15	682	0	2	39	441
	100.0%	2. 2%	1. 2%	56. 6%	0.0%	0. 2%	3. 2%	36. 6%
⑧学校行事	1206	39	29	643	2	3	40	450
	100.0%	3. 2%	2.4%	53. 4%	0. 2%	0. 2%	3.3%	37. 3%
⑨地域行事	1206	93	66	758	9	12	28	240
	100.0%	7. 7%	5. 5%	62. 9%	0.7%	1.0%	2.3%	19. 9%
⑩高齢者の世話・介護	1206	36	20	659	0	8	67	416
	100.0%	3. 0%	1. 7%	54. 5%	0.0%	0. 7%	5. 6%	34. 5%
⑪家庭の問題における最終的な決定	1206	122	98	719	14	10	25	218
	100.0%	10. 1%	8. 1%	59. 6%	1.2%	0.8%	2. 1%	18. 1%

# 問 4. 男性も育児・介護休業をとることができますが、このことについてあなたはど う思いますか。(1 つに○)

- ●全体では、「男性も育児・介護休業をとることは賛成だが、現実的にはとりづらいと思う」が高く 69.0%となっている。
- ●男性よりも女性の方が回答した割合が高い結果となった。
- ●年齢が低くなるにつれて、意識の変化があることがわかる。

			間4 男性の育	ず児・介護休	業について		
		合計	男性も育	育児・介護	その他	男性も育	不明
			児・介護休	は女性がす		児・介護休	
			業を積極的	るべきであ		業をとるこ	
			にとるべき	り、男性が		とは賛成だ	
				休暇をとる		が、現実的	
				必要はない		にはとりづ	
						らいと思う	
	全体	1206	230	48	20	833	75
		100.0%	19. 1%	4.0%	1.7%	69.0%	6. 2%
性別	男性	429	94	24	13	273	25
		100.0%	21. 9%	5.6%	3.0%	63. 7%	5.8%
	女性	746	126	21	7	546	46
		100.0%	16. 9%	2.8%	0. 9%	73. 2%	6. 2%
	不明	31	10	3	0	14	4
		100.0%	32.3%	9. 7%	0.0%	45. 1%	12.9%

			問4 男性の育	5児・介護休	業について	問4 男性の育児・介護休業について								
		合計	男性も育	育児・介護	その他	男性も育	不明							
			児・介護休	は女性がす		児・介護休								
			業を積極的	るべきであ		業をとるこ								
			にとるべき	り、男性が		とは賛成だ								
			である	休暇をとる		が、現実的								
				必要はない		にはとりづ								
						らいと思う								
	全体	1206	230	48										
		100.0%	19. 1%	4.0%	1. 7%	69.0%	6. 2%							
年齢	20歳~29歳	47	11	1	0									
		100.0%	23.4%	2.1%	0.0%	72.4%	2.1%							
	30歳~39歳	126	16	4	0	100								
		100.0%	12. 7%	3. 2%	0.0%	80. 9%	3. 2%							
	40歳~49歳	161	29	1	4									
		100.0%	18.0%	0.6%	2.5%	77. 7%	1.2%							
	50歳~59歳	244	46	12	7	171	8							
		100.0%	18.9%	4.9%	2.9%	70.0%								
	60歳~69歳	410	78	19		269	1							
		100.0%	19.0%	4.6%	1. 7%	65. 7%	9.0%							
	70歳以上	190	40	8	2									
		100.0%	21.1%	4.2%	1.1%	63. 1%	10.5%							
	不明	28	10	3	0									
		100.0%	35. 7%	10.7%	0.0%	42.9%	10.7%							

20歳代~50歳代では、「男性も育児・介護休業をとることは賛成だが、現実的にはとりづらいと思う」との回答が全体の割合よりも高くなっている。特に、30歳代、40歳代は1割近く高い結果となっている。それでも、20歳代は「男性も育児・介護休業を積極的にとるべきである」との回答の割合も全体の割合より高く、30歳代よりも1割以上高くなっている。年齢が低くなるにつれて、意識の変化があることがわかる。

- 問 5. 問 4 で「4. 男性も育児・介護休業をとることは賛成だが、現実的にはとりづらいと思う」と答えられた方は、その理由をお聞かせください。(1 つに〇)
  - ●全体では、「男性がとることについて、社会全体の認識が十分にない」との回答が最も高く 29.4%、次いで「仕事で周囲の人に迷惑がかかる」との回答が 19.7% となっている。
  - ●男女で回答に差はみられなかった。

			問5 男性/	が育児・介	護休業を]	取りづらい	と思う理	由			
		合計	過去に周	人事評価	仕事が忙	仕事で周	職場にと	休業補償	男性がと	その他	不明
			囲でとっ	や昇給な	しい	囲の人に	りやすい	が十分で	ることに		
			た人がい			迷惑がか	雰囲気が		ついて、		
			ない	影響があ		かる	ない		社会全体		
				る				的に困る	の認識が		
									十分にな		
									い		
	全体	833	49	22	59	164	103	122	245	25	44
		100.0%	5. 9%	2.6%	7.1%	19.7%	12.4%	14.6%	29.4%	3.0%	5.3%
性別	男性	273	11	6	25	59	34	40	74	9	15
		100.0%	4.0%	2.2%	9.2%	21.6%	12.5%	14.7%	27.0%	3.3%	5.5%
	女性	546	35	16			69	80	167	15	28
		100.0%	6.4%	2.9%	6.2%	18. 7%	12.6%	14.7%	30. 7%	2. 7%	5.1%
	不明	14	3	0	0	3	0	2	4	1	1
		100.0%	21.4%	0.0%	0.0%	21.4%	0.0%	14. 3%	28. 7%	7. 1%	7.1%

			問5 男性が	育児・介護	休業を取り	づらいと思	う理由				
		合計	過去に周	人事評価	仕事が忙	仕事で周	職場にと	休業補償	男性がと	その他	不明
				や昇給な	しい	囲の人に	りやすい	が十分で	ることに		
			た人がい	どに悪い		迷惑がか	雰囲気が	ないの	ついて、		
				影響があ			ない		社会全体		
	全体	833			59		8	1		l .	44
		100.0%	5. 9%	2.6%	7. 1%	19.7%	12.4%	14.6%	29.4%	3.0%	5.3%
年齢	20歳~29歳	34	0	1	4	8	4	3		3	0
		100.0%	0.0%	2.9%	11.8%	23.5%	11.8%	8.8%	32.4%	8.8%	0.0%
	30歳~39歳	102	13	2	10	19	11	16	20	6	5
		100.0%	12.7%	2.0%	9.8%	18.6%	10.8%	15.7%	19.6%	5.9%	4.9%
	40歳~49歳	125	3	9	9	27	20	18	34	1	4
		100.0%	2.4%	7. 2%	7. 2%	21.6%	16.0%	14.4%	27. 2%	0.8%	3. 2%
	50歳~59歳	171	9	3	11	42	20	28	48	5	5
		100.0%	5.3%	1.8%	6.4%	24.6%	11.7%	16.4%	28.0%	2.9%	2.9%
	60歳~69歳	269	12	4	19	52	35	40	79	5	23
		100.0%	4.5%	1.5%	7.1%	19.3%	13.0%	14.9%	29.2%	1.9%	8.6%
	70歳以上	120	9	3	6	13	13	17	49	4	6
		100.0%	7.5%	2.5%	5.0%	10.8%	10.8%	14.2%	40.9%	3.3%	5.0%
	不明	12	3	0	0	3	0	0	4	1	1
		100.0%	25.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	33. 4%	8.3%	8.3%

「男性がとることについて、社会全体の認識が十分にない」との回答は、70歳代が最も高く、70歳代の約4割が回答していた。他の年代では、それほど高くなかったが、各年代で約3割近くが回答している。最も低い年代は、30歳代となっていた。30歳代も回答にばらつきがあるが、特徴的なのは、「過去に周囲でとった人がいない」との回答が、他の年代に比べて最も高くなっており、平均の2倍以上の回答割合となっている。30~50歳代では、男性の育児休業取得に対して、職場で迷惑をかけるという心配や、経済的に困ると回答する傾向となっている。

問 6. あなたは、次の  $1\sim6$  のうち、優先したいものはどれですか。また、実際には何を優先していますか。 $(\bigcirc$ は 2 つまで)

#### 【優先したいものについて】

- ●全体では、「家庭」との回答が最も高く78.8%であった。
- ●男性は女性よりも「仕事」と回答する割合が高く59.2%であった。
- ●女性は男性よりも「家庭」「個人」と回答する割合が高く、それぞれ 83.2%、28.0%であった。

			問6 優先した	たいもの					
		合計	仕事	家庭	地域	個人	すべて	わからない	不明
	全体	1206	534	950	75	281	61	22	55
		100.0%	44. 3%	78.8%	6. 2%	23. 3%	5. 1%	1.8%	4.6%
性別	男性	429	254	306	33	70	24	9	23
		100.0%	59. 2%	71. 3%	7. 7%	16.3%	5.6%	2.1%	5.4%
	女性	746	268	621	39	209	36	12	29
		100.0%	35. 9%	83. 2%	5. 2%	28.0%	4.8%	1.6%	3.9%
	不明	31	12	23	3	2	1	1	3
		100.0%	38. 7%	74. 2%	9. 7%	6. 5%	3. 2%	3.2%	9. 7%

			問6 優先した	いもの					
		合計	仕事	家庭	地域	個人	すべて	わからない	不明
	全体	1206	534	950	75	281	61	22	55
		100.0%	44.3%	78.8%	6.2%	23. 3%	5. 1%	1.8%	4.6%
年齢	20歳~29歳	47	29	30	1	17	7	1	0
		100.0%	61. 7%	63.8%	2.1%	36. 2%	14. 9%	2.1%	0.0%
	30歳~39歳	126	49	102	0	48	6	4	0
		100.0%	38. 9%	81.0%	0.0%	38.1%	4. 8%	3. 2%	0.0%
	40歳~49歳	161	64	131	2	51	7	2	6
	******	100.0%	39.8%	81.4%	1.2%	31.7%	4. 3%	1.2%	3.7%
	50歳~59歳	244	112	202	2	73	10	4	10
		100.0%	45.9%	82.8%	0.8%	29.9%	4. 1%	1.6%	4.1%
	60歳~69歳	410	190	310	34	67	20	7	26
		100.0%	46.3%	75. 6%	8.3%	16.3%	4. 9%	1. 7%	6.3%
	70歳以上	190	79	153	33	23	10	4	11
		100.0%	41.6%	80. 5%	17.4%	12.1%	5. 3%	2.1%	5.8%
	不明	28	11	22	3	2	1	0	2
		100.0%	39. 3%	78.6%	10. 7%	7.1%	3. 6%	0.0%	7.1%

20歳代は、「仕事」と「すべて」との回答が、他の年代に比べて突出している。一方で、「家庭」との回答は、他の年代に比べ1割以上も低い。30~50歳代では、回答者の約8割が「家庭」と回答をしている。20~50歳代では、「個人」との回答が約3割を占めている。60歳以上では「地域」との回答が増加傾向にあり、年齢が高くなるほど、割合も増加する。

問 6. あなたは、次の  $1\sim6$  のうち、優先したいものはどれですか。また、実際には何を優先していますか。 $(\bigcirc$ は 2 つまで)

#### 【実際に優先しているものについて】

- ●全体では、「家庭」との割合が最も高く 67.7%であった。理想よりも約 1 割低い結果であった。
- ●男性は女性よりも「仕事」と回答する割合が高く 69.7%であり、理想よりも約1割高い。
- ●女性は男性よりも「家庭」と回答する割合が高く 73.5%であり、理想よりも約 1 割低い。

			問6 実際に	憂先している	もの				
		合計	仕事	家庭	地域	個人	すべて	わからない	不明
	全体	1206	718	816	103	187	33	22	68
		100.0%	59. 5%	67. 7%	8.5%	15. 5%	2. 7%	1.8%	5.6%
性別	男性	429	299	248	47	66	14	11	26
		100.0%	69. 7%	57.8%	11.0%	15.4%	3.3%	2.6%	6.1%
	女性	746	405	548	54	121	18	10	39
		100.0%	54.3%	73. 5%	7.2%	16.2%	2.4%	1.3%	5. 2%
	不明	31	14	20	2	0	1	1	3
		100.0%	45. 2%	64.5%	6.5%	0.0%	3. 2%	3. 2%	9. 7%

			問6 実際に優	先しているも	<sub>2</sub> の				
		合計	仕事	家庭	地域	個人	すべて	わからない	不明
	全体	1206				R	8	1	8
		100.0%	59. 5%	67. 7%	8.5%	15. 5%	2. 7%	1.8%	5. 6%
年齢	20歳~29歳	47	35	19	3	24	1	2	0
		100.0%	74.5%	40.4%	6.4%	51.1%	2. 1%	4.3%	0.0%
	30歳~39歳	126	79	83	3	29	4	3	1
		100.0%	62.7%	65. 9%	2.4%	23.0%	3. 2%	2.4%	0.8%
	40歳~49歳	161	117	105	4	22	0	3	9
		100.0%	72. 7%	65. 2%	2.5%	13.7%	0.0%	1.9%	5.6%
	50歳~59歳	244	176	171	11	34	5	2	10
		100.0%	72.1%	70.1%	4.5%	13.9%	2.0%	0.8%	4.1%
	60歳~69歳	410	219	279	44	56	13	9	29
		100.0%	53.4%	68.0%	10.7%	13.7%	3. 2%	2.2%	7.1%
	70歳以上	190	79	140	36	22	9	3	17
		100.0%	41.6%	73. 7%	18.9%	11.6%	4. 7%	1.6%	8.9%
	不明	28	13	19	2	0	1	0	2
		100.0%	46.4%	67.9%	7.1%	0.0%	3. 6%	0.0%	7.1%

20~50歳代では、「仕事」との回答が他の項目よりも高くなっていることがわかる。その中でも、30歳代は「仕事」の割合が他の年代より1割程度低くなっており、反対に、「家庭」と「個人」の割合が高くなっている。20歳代では、「家庭」との割合が全体の割合よりも3割程度低く、「個人」との回答は、51.1%とどの年代よりも高く、30歳代の2倍以上となっている。60歳代以上になると「仕事」の割合は大きく減少し、反対に「家庭」や「地域」の割合が高くなっている。

- 問7. 今後、男性が女性とともに家庭生活(家事、育児、介護)や地域活動等へ参加を していくために必要なことは何だと思いますか。(○は2つまで)
  - ●全体では、「職場における、育児・介護休暇等を取りやすくする環境づくり」が 最も高く51.2%となっている。
  - ●女性は、男性よりも「子どものときからの家庭教育」と回答した割合が高く、 48.5%であり、男性よりも約15%高い。

			問7 男性が	家庭生活等~	- 参加するた	めに必要な	テト					
		合計						男性の家事	男性が育児	その他	特に必要な	不明
			講習会(料	る妻からの	きからの家	る男女平等	る、育児・	参加を促す	や介護、地		ことはない	
				働きかけ	庭教育	教育	介護休暇等		域活動を行			
			介護など)					の日」など				
			の開催				くする環境		間(ネット			
							づくり		ワーク)作			
									りを進める こと			
	^ <i>t</i> +	1000	010	100	F10	100	610	100		20	0.4	го
	全体	1206			510	i		t I	i :	32	34	52
		100.0%			42.3%						2.8%	4. 3%
性別	男性	429	79	74	141	75	210	45	60	15	19	17
		100.0%	18.4%	17. 2%	32.9%	17.5%	49.0%	10.5%	14.0%	3.5%	4.4%	4.0%
	女性	746	130	113	362	109	397	62	94	15	14	28
		100.0%	17.4%	15. 1%	48.5%	14.6%	53. 2%	8.3%	12.6%	2.0%	1.9%	3.8%
	不明	31	4	6	7	5	11	2	3	2	1	7
		100.0%	12.9%	19.4%	22.6%	16.1%	35. 5%	6. 5%	9.7%	6. 5%	3.2%	22.6%

			問7 男性太	『家庭生活	等へ参加す	るために	<b>必要なこと</b>					
		合計	男性対象	家庭にお	子どもの	学校にお	職場にお	男性の家	男性が育	その他	特に必要	不明
			の講習会	ける妻か	ときから	ける男女	ける、育	事参加を	児や介		なことは	
			(料理·	らの働き	の家庭教	平等教育	児・介護	促す「家	護、地域		ない	
			育児・介	かけ	育		休暇等を	庭参加の	活動を行			
			護など)				取りやす	日」など	うための			
			の開催				くする環	の制定	仲間			
							境づくり		(ネット			
									ワーク)			
									作りを進			
									めること			
	全体	1206							5	32	B .	
		100.0%	17. 7%					9.0%				4.3%
年齢	20歳~29歳	47	11	10		6		4		1	0	1
	. I be	100.0%	23.4%	~~~~			***************************************	·	g		0.0%	2. 1%
	30歳~39歳	126	18	11	59	18		15		1	4	0
		100.0%	14.3%				***************************************				3. 2%	0.0%
	40歳~49歳	161	20	20	73	29		11		9	7	2
	eous eous	100.0%	12.4%					6.8%		<del></del>		1. 2%
	50歳~59歳	244	41	34					5	6	5	3
	طدمه طدمه	100.0%						g	<u> </u>		3	
	60歳~69歳	410	77	74				8		1		24
	70-10-10 I	100.0%	18.8%				******************	<b>}</b>	90004000000000000000000000	***********	<u> </u>	
	70歳以上	190	42	38		33				2	5	17
	7.00	100.0%	22. 1%		34. 7%	~~*~~~~~~~~	~~~~~	10.5%	16.3%	1.1%	2.6%	8.9%
	不明	28	14 20/	01.40	25.00	17.0%		7 10	10.7%	7 10	2 0	17.0%
		100.0%	14.3%	21.4%	25.0%	17.9%	35. 7%	7.1%	10.7%	7.1%	3.6%	17. 9%

50歳代までは、「職場における環境づくり」の回答が全体の割合よりも高くなっている。中でも30歳代の回答割合が他の年代より高い結果となっている。

問8. 男女ともに、仕事と家庭生活の調和を実現していくためには、どのようなこと が必要だと思いますか。(○は3つまで)

#### 【仕事について】

- ●全体では「育児休業中・介護休業中の経済的補償」が最も高く、40.5%、次いで「家事・育児・介護参加への職場・上司の理解」が38.7%となっている。
- ●男性の回答で最も高いのは「仕事量・残業時間の減少」であり36.8%であった。
- ●男女で回答に差がみられたものは、「家事・育児・介護参加への職場・上司の理解」との回答で、男性より女性が約1割高い。
- ●「賃金改善・男女間格差の是正」は、女性より男性が約6%高い。

			nn - 11 -				1 11 mm 1		. •					
			問8 仕事	と家庭生活	iの調和の3	実現のため	)に必要な	こと【仕事	F					
		合計	仕事量・	短時間勤	在宅勤務	賃金改	パートや	育児・介	代替要員	再雇用制	家事・育	育児休業	その他	不明
			残業時間	務制度の	やフレッ	善・男女	派遣社員	護休業制	の確保な	度や起業	児・介護	中・介護		
			の減少	導入	クスタイ	間格差の	の労働条	度の充実	ど育児・	支援の充	参加への	休業中の		
					ム制度の	是正	件の改善	(延長・	介護休業	実	職場・上	経済的補		
					導入			義務付け	制度を利		司の理解	償		
								など)	用できる					
									職場環境					
	全体	1206	432	159	142	350	295	222	327	172	467	488	15	65
		100.0%	35.8%	13.2%	11.8%	29.0%	24.5%	18.4%	27.1%	14.3%	38. 7%	40. 5%	1.2%	5.4%
性別	男性	429	158	61	55	143	98	72	108	66	143	154	10	21
		100.0%	36.8%	14.2%	12.8%	33.3%	22.8%	16.8%	25. 2%	15.4%	33.3%	35.9%	2.3%	4.9%
	女性	746	266	93	83	203	190	146	212	103	320	322	4	35
		100.0%	35. 7%	12.5%	11.1%	27. 2%	25.5%	19.6%	28.4%	13.8%	42.9%	43. 2%	0.5%	4.7%
	不明	31	8	5	4	4	7	4	7	3	4	12	1	9
		100.0%	25.8%	16.1%	12.9%	12.9%	22.6%	12.9%	22.6%	9.7%	12.9%	38. 7%	3.2%	29.0%

			問8 仕事	と家庭生活	の調和の乳	実現のため	に必要なこ	と【仕事】						
		合計	仕事量・			賃金改	パートや				家事・育		その他	不明
							派遣社員				児・介護			
			の減少	導入				度の充実			参加への			
					ム制度の	是正	件の改善		介護休業	実	職場・上			
					導入				制度を利		司の理解	償		
									用できる					
									職場環境					
	全体	1206			4	350			327	172		488	15	
		100.0%			11.8%	_								
年齢	20歳~29歳	47	19	E	7	11	6	17	13			22	0	1
		100.0%				23.4%	12.8%	36.2%	27.7%					*******************************
	30歳~39歳	126		ł .	4	1	29	22	38	E .		52	0	1
	000000000000000000000000000000000000000	100.0%	****************			\$economico economico e	23.0%							5-000-000-000-000-000-000-000-000-000-0
	40歳~49歳	161		i .	1	60	31	27	45	B .	i .		3	-
		100.0%	32.3%	11.8%		37. 3%	19.3%		28.0%			42.9%	1.9%	1.2%
	50歳~59歳	244				89	51	47	77	33		101	3	3 -
		100.0%	39. 3%	10.7%	11.9%	36. 5%	20.9%	19.3%	31.6%	13.5%	48.0%	41.4%	1. 2%	0.8%
	60歳~69歳	410	139	51	38	94	120	69	94	65	139	162	8	35
		100.0%	33.9%	12.4%	9.3%	22. 9%	29.3%	16.8%	22.9%	15.9%	33.9%	39.5%	2.0%	8. 5%
	70歳以上	190	63	25	20	54	52	36	53	25	70	71	0	18
		100.0%	33. 2%	13.2%	10.5%	28.4%	27.4%	18.9%	27.9%	13.2%	36.8%	37.4%	0.0%	9.5%
	不明	28	7	5	1 -	4	6	4	7	3	-	11	1	7
		100.0%	25.0%	17.9%	14.3%	14. 3%	21.4%	14.3%	25.0%	10.7%	14.3%	39.3%	3.6%	25.0%

20~40歳代においては、仕事内容そのものに対する割合が多い傾向にあり、職場や上司の理解も必要だと回答する割合も高い。40~50歳代になると、賃金改善・男女間格差の是正といった職場における男女間の差や、代替要員の確保といった職場環境の整備といった項目の割合が高くなっている。

問8. 男女ともに、仕事と家庭生活の調和を実現していくためには、どのようなこと が必要だと思いますか。(○は3つまで)

#### 【家庭生活について】

- ●全体では「家族・周囲の理解・支援」が最も高く、56.0%、次いで「保育施設 や児童クラブ等の内容の充実」が 45.6%となっている。
- ●男女間で1割程度、回答にばらつきがみられる項目があった。
- ●男性の回答で女性より割合が高かったのは、「配偶者・家族とのふれあい」「再 就職準備のための講座・職業訓練の充実」となっている。
- ●女性の回答で男性より割合が高かったのは、「家族・周囲の理解・支援」「保育施設や児童クラブ等の内容の充実」となっている。

			問8 仕事と	家庭生活	の調和の算	実現のため	に必要なこ	こと【家庭	生活】		
		合計	再就職準 化	呆育施設	ホームへ	配偶者・	家庭内で	家事・育	家族・周	その他	不明
			備のため -		ルプなど						
		(	の講座・	ラブ等の	家事援助	ふれあい	担の平等	の技能の	解・支援		
		F	職業訓練 🛭	内容の充	や介護支	(コミュ	化	向上			
		(	の充実 🧗	実(預り	援の施	二ケー					
			F	時間の延	設・サー	ション)					
			-		ビスの充	の充実					
					実						
	全体	1206	222	550	469	459	254	163		16	
性別	男性	100.0%	18. 4%	45. 6%	38.9%	38. 1%	21. 1% 88	13. 5%		1.3%	6. 3% 31
1生万1	<b></b> 第性	429 100. 0%	94 21. 9%	167 38, 9%	168 39. 2%	190 44. 3%	20. 5%	64 14. 9%	195 45, 5%	6 1. 4%	
	女性	746	125	369	291	262	160	98	43. 3%	1.4/0	36
	7/12	100.0%	16. 8%	49. 5%	39.0%	35. 1%	21.4%	13. 1%	63. 0%	1. 1%	3
	不明	31	3	14	10	7	6	1	10	2	9
		100.0%	9. 7%	45. 2%	32. 3%	22.6%	19.4%	3. 2%	32.3%	6. 5%	29.0%
			問8 仕事	と家庭生活	舌の調和の	実現のため	に必要な	こと【家庭	生活】		
		合計			ホームへ		家庭内で		家族・周	その他	不明
			備のため				の家計負				
			の講座・	ラブ等の	家事援助		担の平等				
			職業訓練	内容の充	や介護支	(コミュ	化	向上			
			の充実	実(預り	援の施	二ケー					
				,	設・サー						
				長など)	ビスの充	の充実					
	A 11.	100	2 22		実			100		10	
	全体	1200		1		1	8	1	8		8
年齢	20歳~29歳			1		1	1	1			
I MI	20/10/	100.09		)			8				4.3%
	30歳~39歳			1 5	7 34	1 68	32	22	77	0	0
		100.09			~~{~~~~~~~	54.09		~ <del>_</del>	·	<u> </u>	0.0%
	40歳~49歳			3	1	- 1	8	8	8		
	50歳~59歳	100.09		<del>references en e</del>		<del>~~~~~~~</del>	~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~	~ <del>_</del>	<u>~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~</u>		***************************************
	50成~59成	100.09			I .	8	- 1	8	8	2	5 2.0%
	60歳~69歳		~~~~~		ondiana and an anima	~ <del>,</del> ~~~~~~~~~	~ <del>_</del>	~	~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~		•
		100.09	6 17.69	5	1	35.99	6 17.19	13.2%	8		8.5%
	70歳以上	190							8	E	
		100.09				<del></del>	ŷ	<del></del>		·	4
	不明	28		2 1			7 6	-			
		100.00	7.19	46. 4	<b>%</b> 35. 79	6 25.09	6 21.49	3.6%	35. 7%	7.1%	25.0%

20歳代では、他の年代に比べて「保育施設や児童クラブ等の内容の充実」や「家事・育児・介護の技能向上」の割合が他の回答よりも10~15%程度高いことがわかる。30歳代では、「配偶者・家族とのふれあいの充実」が他の年代より15%程度高い。

# 2. 仕事・職場環境について

#### 問 9. あなたと仕事の関係は次のどれですか。(1つに○)

- ●全体では、「継続し働いている」との回答が高く 49.1%となっている。特に男性の方が女性より高く 66.6%となっている。
- ●女性は、男性よりも回答にばらつきがみられる。

			000 // de )	n HH IC										
			問9 仕事と											
		合計	継続して	働いてい	働いてい	働いてい	働いてい	これまで	定年退職	現在、学	現在、産	現在、介	その他	不明
			働いてい	たが、結	たが、そ	たが、結	たが、そ	働いたこ	により現	生である	前産後休	護休暇中		
			る	婚・育児	の他の事	婚・育児	の他の事	とはない	在働いて		暇(産	である		
				(出産)の	情で一時		情で仕事		いない		休) 中、			
				ため一時		のため仕					育児休暇			
				やめ、ま			- ( - / / -				(育休)中			
				た働いて		た					である			
				いる	V	/_					(0).0			
	全体	1206			58	71	112	13	189	0	5	9	37	29
	土件			l .	1				3		0.40/	0.00/		
	1	100.0%					_				0.4%	0.2%	_	
性別	男性	429	286	2	18	0	18	2	85	0	0	0	12	6
		100.0%	66.6%	0.5%	4.2%	0.0%	4.2%	0.5%	19.8%	0.0%	0.0%	0.0%	2.8%	1.4%
	女性	746	297	92	40	70	93	11	96	0	5	2	23	17
		100.0%	39.6%	12.3%	5.4%	9.4%	12.5%	1.5%	12.9%	0.0%	0.7%	0.3%	3.1%	2.3%
	不明	31	10	3	0	1	1	0	8	0	0	0	2	6
		100.0%	32. 2%	9.7%	0.0%	3. 2%	3.2%	0.0%	25.8%	0.0%	0.0%	0.0%	6.5%	19.4%

			間9 仕事。	レの関係										
			継続して働いてい	働いてい たが、結	たが、そ	たが、結	たが、そ	働いたこ	により現	生である	前産後休	護休暇中	その他	不明
				(出産)の	情で一時	婚・育児 (出産) のため仕	情で仕事	とはない	在働いて いない		暇(産 休)中、 育児休暇	である		
				やめ、ま た働いて いる		事をやめ た					(育休)中 である			
	全体	1206 100.0%	593	97	58 4. 8%							2 0. 2%	37 3. 1%	29 2. 4%
年齢	20歳~29歳	47 100, 0%	38 80. 8%	1 2. 1%	3 6. 4%		1 2. 1%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4. 3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	30歳~39歳	126	71	23	7	16	3	1	0	0	3	0	2	0
	40歳~49歳	100.0% 161 100.0%	102	18. 3% 29 18. 0%	12	7	8	0	0.0% 0 0.0%	0.0% 0 0.0%	0	0.0% 0 0.0%	3	0
	50歳~59歳	244 100. 0%	165	18.0% 26 10.7%	9	11	24	2	1	0.0% 0 0.0%	0	0	4	2
	60歳~69歳	410 100.0%	162	16 3.9%	21	25	59	5	96	0	0	2	17	7
	70歳以上	190 100. 0%		0 0.0%	6 3. 2%	1 -	16 8, 4%		85 44. 8%	0 0.0%	0 0. 0%	0 0.0%		15 7. 9%
	不明	28 100. 0%	10	2	0	1	1 3. 6%	0	7	0 0.0%	0	0	2	5

50 歳代までは、「継続して働いている」との回答割合が特に高い。特に 20 歳代は 8 割が回答している。  $30\sim40$  歳代になると、「結婚等のため一時やめ、また働いている」との回答が約 2 割みられ、50 歳代でも 1 割の回答がある。 30 歳代では、それ以外に「結婚等のため仕事をやめた」との回答が 12.7%と他の年代よりも突出している。「産休・育休中」との回答は、20 歳代、30 歳代のみ回答があり、それぞれ 4.3%、2.4%であった。

# 問 10. 一般的に、女性が仕事をもつことについて、あなたはどう思いますか。 (1 つに○)

- ●全体では、「結婚や出産にかかわらず仕事をもち続けた方がよい」との回答が高く 48.9%となっている。
- ●男女ともに回答に差はみられない。

			問10 女性	が仕事を持	<sub>手</sub> つことに <sup>、</sup>	ついて				
		合計	結婚や出	結婚する	子どもが	子どもが	仕事をも	その他	わからな	不明
			産にかか	までは仕	できるま	できたら	たない方		い	
				事をもつ			がよい			
			事をもち	方がよい	事をもつ	め、大き				
			続けた方		方がよい	くなった				
			がよい			ら再び仕				
						事をもつ				
						方がよい				
	全体	1206	589	30	39	424	E .	41	45	3
		100.0%	48. 9%	2.5%	3.2%	35. 2%	0.9%	3.4%	3. 7%	2.2%
性別	男性	429	220	10	20	142	4	13	14	6
		100.0%	51.3%	2.3%	4. 7%	33. 1%	0.9%	3.0%	3.3%	1.4%
	女性	746	359	20	17	272	7	27	28	16
		100.0%	48.1%	2.7%	2.3%	36.5%	0.9%	3.6%	3.8%	2.1%
	不明	31	10	0	2	10	0	1	3	5
		100.0%	32. 2%	0.0%	6. 5%	32. 3%	0.0%	3. 2%	9.7%	16.1%

			問10 女性	が仕事を打	寺つことに	ついて				
		合計	結婚や出	結婚する	子どもが	子どもが	仕事をも	その他	わからな	不明
			産にかか	までは仕	できるま	できたら	たない方		い	
					では、仕		がよい			
			事をもち	方がよい	事をもつ	め、大き				
			続けた方		方がよい	くなった				
			がよい			ら再び仕				
						事をもつ				
						方がよい				
	全体	1206	589	30			11	41	45	l .
		100.0%	48. 9%	2.5%	3. 2%	35. 2%	0.9%	3.4%	3. 7%	2.2%
年齢	20歳~29歳	47	21	4	4	16		2	0	Ĭ
		100.0%	***************************************	8.5%	·	***************************************	<del>(</del>	4.3%	0.0%	0.0%
	30歳~39歳	126	63	3	3	39	2	9	7	0
		100.0%	49.9%	2.4%			1.6%	7.1%	5.6%	0.0%
	40歳~49歳	161	72	4	5		2	11	14	
		100.0%	44.8%	2.5%	3. 1%	32.3%	1.2%	6.8%	8.7%	0.6%
	50歳~59歳	244	139	6	7	74	0	12	5	1
	***************************************	100.0%	57.0%	2.5%	2.9%		0.0%	4.9%	2.0%	0.4%
	60歳~69歳	410	205	11	11		4	5	9	8
		100.0%	49. 9%	2. 7%	2. 7%	<u> </u>	1.0%	1.2%	2.2%	<u> </u>
	70歳以上	190	79	2	7	77	3	1	8	13
		100.0%	41.6%	1.1%		40.5%	1.6%	0.5%	4.2%	6.8%
	不明	28	10	0	2	9	0	1	2	4
		100.0%	35. 8%	0.0%	7. 1%	32.1%	0.0%	3.6%	7.1%	14. 3%

50 歳代では、「結婚や出産にかかわらず仕事をもち続けた方がよい」との回答が他の年代より1割程度高くなっている。一方で、20歳代においては、「結婚するまでは、または子どもができるまでは仕事をもつ方がよい」との回答が、他の年代の3倍近い割合となっている。60歳代以上では、「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つ方が良い」との回答が他の年代より5%以上高い。

### ●女性が仕事を持つことについての考え別にみる現在の仕事の状況について

		問9 仕事						
問10 女性が仕事を持つこと	合計			働いてい				
について				たが、そ				
		る		の他の事			l .	8
				情で一時	8	3		いない
				やめ、ま た働いて		をやめた		
			た働いて	3	争をてめ			
			いる		/_			
全体	746		92					96
	100.0%	39.6%	12. 3%	5. 4%	9.4%	12.5%	1.5%	12. 9%
結婚や出産にかかわらず仕事 をもち続けた方がよい	359	170	42	14	24	40	2	50
	100.0%	47. 3%	11.7%	3.9%	6. 7%	11.1%	0.6%	13.9%
結婚するまでは仕事をもつ方 がよい	20	7	1	2	6	2	_	0
	100.0%	35.0%	5.0%	10.0%	30.0%	10.0%	5.0%	0.0%
子どもができるまでは、仕事をもつ方がよい	17	4	0	2	4	6	0	1
	100.0%	23.5%	0.0%	11.8%	23.5%	35.3%	0.0%	5.9%
子どもができたら仕事をや め、大きくなったら再び仕事	272	92	35	18	30	39	7	38
をもつ方がよい	100.0%	33.8%	12.9%	6.6%	11.0%	14. 3%	2.6%	14.0%
仕事をもたない方がよい	7	1	0	2	2	0	0	1
	100.0%	14.3%	0.0%	28. 5%	28.6%	0.0%	0.0%	14. 3%
その他	27	16	6	1	0	1	0	1
	100.0%	59.3%	22.2%	3. 7%	0.0%	3.7%	0.0%	3. 7%
わからない	28	6	8	1	4	1	1	4
	100.0%	21.4%	28. 5%	3.6%	14.3%	3.6%	3.6%	14.3%
不明	16	1	0	0	0	4	0	1
	100.0%	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	6.3%

「結婚や出産にかかわらず仕事を持ち続けた方が良い」と回答した人の 47.3%は実際に「継続して働いている」と回答している。「働いていたが、結婚・育児(出産)のため一時やめ、また働いている」が 11.7%、「働いていたが、結婚・育児(出産) のため仕事をやめた」6.7%となっており、「結婚や出産にかかわらず仕事を持ち続けた方が良い」と回答した人のうち、18.4%の回答者が、結婚、出産(育児)のために仕事をやめている現状である。

# 問 11. あなたの職場では、①~⑤のように性別による不平等の有無がありますか。 また、そのような考え方をどう思いますか。 $(1 つ に \bigcirc)$

- ●職場における不平等について「ある」と回答する割合が高かった項目は、男性では「⑤賃金」が最も高く40.3%、次いで「③職種」38.4%、「⑥昇進・昇格」が38.0%、「⑤役員・管理職への登用」35.1%となっている。女性では、「⑤賃金」が最も高く44.0%、次いで「②雇用形態」が40.6%、「⑥昇進・昇格」が40.3%、「⑪雑用を行う頻度」が39.1%となっている。
- ●反対に不平等が「ない」と回答する割合が高かった項目は、性別にかかわらず「③飲み会等への強制」「②個人的なことを必要以上に聞かれる」が高く、次に男性では「④研修・訓練の機会」が、女性では「④女性は定年まで勤めにくい雰囲気がある」となっている。





### ●性別による不平等の有無に対する考え方



### ●性別による不平等の有無に対する考え方



### 問 12. あなたは育児休業や介護休業を取得したことがありますか。(1つに○)

- ●全体では、「両方とも取得したことがない」との回答が高く81.4%となっている。
- ●女性は、男性よりも「育児休業のみ取得したことがある」との割合が高く、12.5%であり、男性の約10倍となっている。
- ●男性の「育児休業のみ取得したことがある」と回答した人は 429 人中 <u>6 名</u>おり、回答割合は、1.4%となっている。

特別   男性   429   100.0%   1.4%   1.4%   0.7%   89.0%   7.5%   244   1   100.0%   1.5%   12.5%   1.1%   77.7%   7.2%   7.5%   1.1%   77.7%   7.2%   7.2%   7.5%   1.1%   77.7%   7.2%   7.2%   7.5%   1.1%   77.7%   7.2%								
得したこと   おある   おりの   12   982   94     性別					業や介護休業	の取得の経験	Ì.	
大きな			合計	両方とも取	育児休業の	介護休業の	両方とも取	不明
全体				得したこと	み取得した	み取得した	得したこと	
性別   男性   429   6   6   6   3   382   32   32   32   44   1   24   2   6   6   3   382   32   32   32   42   40歳 ~ 49歳   100.0%   1.5%   8.3%   1.0%   81.4%   7.8%   4100.0%   1.5%   12.5%   1.1%   77.7%   7.2%   7.				がある	ことがある	ことがある	がない	
特別   男性   429   100.0%   1.4%   1.4%   0.7%   89.0%   7.5%   244   1   100.0%   1.5%   12.5%   1.1%   77.7%   7.2%   7.5%   1.1%   77.7%   7.2%   7.2%   7.5%   1.1%   77.7%   7.2%   7.2%   7.5%   1.1%   77.7%   7.2%		全体	1206	18	100	12	982	94
女性     746 100.0%     1.4%     1.4%     0.7%     89.0%     7.5%       女性     746 100.0%     1.1 1.5%     11 12.5%     1.1%     77.7%     7.2%       不明     31 100.0%     1.5%     12.5%     1.1%     77.7%     7.2%       不明     31 100.0%     1 3.2%     3.2%     3.2%     64.6%     25.8%       問力とも取 得したこと がある     青児休業の 得したこと がある     介護休業の み取得した ことがある     両方とも取 得したこと ことがある     不明 得したこと ことがある       全体     1206     18 100.0%     1.5%     8.3%     1.0%     81.4%     7.8%       年齢     20歳~29歳     47 100.0%     1 4     4 0 2.1%     0 4 0     4 0 4 0     2 9.8%     98       年齢     20歳~29歳     47 100.0%     1 2.1%     1 8.5%     0.0%     85.1%     4.3%       40歳~49歳     126 100.0%     1 3.7%     1 3.2%     1			100.0%	1.5%	8.3%	1.0%	81.4%	7.8%
女性     746 100.0% 1.5% 12.5% 1.1% 77.7% 7.2%       不明     31 100.0% 3.2% 3.2% 3.2% 64.6% 25.8%       田12 育児休業や介護休業の取得の経験 7.5% 7.5% 7.8%       合計     間12 育児休業や介護休業の取得の経験 7.5% 7.8%       合計     100.0% 1.5% 8.3% 1.0% 81.4% 7.8%       全体     1206 18 100 12 2 982 2.2がある 7.2%     7.8%       年齢     20歳~29歳 47 1 4 0 40 40 2.1% 8.5% 0.0% 85.1% 4.3% 30歳~39歳 126 1 18 0 103 4 100.0% 0.8% 14.3% 0.0% 81.7% 3.2% 40歳~49歳 161 6 19 3 129 4 100.0% 3.7% 11.8% 1.9% 80.1% 2.5% 50歳~59歳 244 1 24 2 214 3 100.0% 3.7% 11.8% 1.9% 80.1% 2.5% 50歳~59歳 410 5 27 3 333 42 100.0% 0.4% 9.8% 0.8% 87.8% 1.2% 60歳~69歳 410 5 27 3 333 42 100.0% 1.2% 6.6% 0.7% 81.3% 10.2% 70歳以上 190 3 7 3 144 33 100.0% 1.6% 3.7% 1.6% 75.7% 17.4%       女性     70歳以上 190 3 7 3 144 33 100.0% 1.6% 3.7% 1.6% 75.7% 17.4%	性別	男性	429	6	6	3	382	32
100.0%			100.0%	1.4%	1.4%	0.7%	89.0%	7.5%
不明 31 1 1 1 1 20 88 25.8%		女性	746	11	93	8	580	54
100.0%   3.2%   3.2%   3.2%   64.6%   25.8%			100.0%	1.5%	12.5%	1.1%	77. 7%	7.2%
日12 育児休業や介護休業の取得の経験   両方とも取   有児休業の   介護休業の   両方とも取   得したこと   がある   1206   18   100   12   982   94   100.0%   1.5%   8.3%   1.0%   81.4%   7.8%   7.8%   100.0%   2.1%   8.5%   0.0%   85.1%   4.3%   30歳~39歳   126   1   18   0   103   4   100.0%   0.8%   14.3%   0.0%   81.7%   3.2%   40歳~49歳   161   6   19   3   129   4   100.0%   3.7%   11.8%   1.9%   80.1%   2.5%   50歳~59歳   244   1   24   2   214   3   100.0%   0.4%   9.8%   0.8%   87.8%   1.2%   60歳~69歳   410   5   27   3   333   42   100.0%   1.2%   6.6%   0.7%   81.3%   10.2%   70歳以上   190   3   7   3   144   33   100.0%   1.6%   3.7%   1.6%   75.7%   17.4%   1.4%   1.6%   75.7%   17.4%   1.6%   75.7%   17.4%   1.6%   75.7%   17.4%   1.6%   75.7%   17.4%   1.6%   75.7%   17.4%   1.6%   75.7%   17.4%   1.6%   75.7%   17.4%   1.6%   75.7%   17.4%   1.6%   75.7%   17.4%   1.6%   75.7%   17.4%   1.6%   75.7%   17.4%   1.6%   75.7%   17.4%   1.6%   1.6%   75.7%   17.4%   1.6%   1		不明	31	1	1	1	20	8
合計       両方とも取得したことがある       育児休業の み取得した み取得した おある       不明得したことがある         4       1206       18       100       12       982       94         100.0%       1.5%       8.3%       1.0%       81.4%       7.8%         年齢       20歳~29歳       47       1       4       0       40       2         30歳~39歳       126       1       18       0       103       4         40歳~49歳       161       6       19       3       129       4         40歳~49歳       161       6       19       3       129       4         50歳~59歳       244       1       24       2       214       3         50歳~69歳       410       5       27       3       333       42         60歳~69歳       410       5       27       3       333       42         70歳以上       190       3       7       3       144       33         70歳以上       190       3       7       3       144       33         100.0%       1.6%       3.7%       1.6%       75.7%       17.4%			100.0%	3. 2%	3. 2%	3. 2%	64.6%	25.8%
得したこと   み取得した   み取得した   得したこと   がある   ことがある   ことがある   ことがある   ことがある   ではいい   2   982   94   100.0%   1.5%   8.3%   1.0%   81.4%   7.8%   7.8%   1.0%   20歳~29歳   47   1   4   0   40   2   100.0%   2.1%   8.5%   0.0%   85.1%   4.3%   30歳~39歳   126   1   18   0   103   4   100.0%   0.8%   14.3%   0.0%   81.7%   3.2%   40歳~49歳   161   6   19   3   129   4   100.0%   3.7%   11.8%   1.9%   80.1%   2.5%   50歳~59歳   244   1   24   2   214   3   100.0%   0.4%   9.8%   0.8%   87.8%   1.2%   60歳~69歳   410   5   27   3   333   42   100.0%   1.2%   6.6%   0.7%   81.3%   10.2%   70歳以上   190   3   7   3   144   33   100.0%   1.6%   3.7%   1.6%   75.7%   17.4%   1.4%   1.6%   1.6%   75.7%   17.4%   1.6%				問12 育児(	木業や介護休	業の取得の経	験	
全体 1206 18 100 12 982 94 100.0% 1.5% 8.3% 1.0% 81.4% 7.8% 7.8% 100.0% 2.1% 8.5% 0.0% 85.1% 4.3% 30歳~39歳 126 1 18 0 103 4 100.0% 0.8% 14.3% 0.0% 81.7% 3.2% 40歳~49歳 161 6 19 3 129 4 100.0% 3.7% 11.8% 1.9% 80.1% 2.5% 50歳~59歳 244 1 24 2 214 3 100.0% 0.4% 9.8% 0.8% 87.8% 1.2% 60歳~69歳 410 5 27 3 333 42 100.0% 1.2% 6.6% 0.7% 81.3% 10.2% 70歳以上 190 3 7 3 144 33 100.0% 1.6% 3.7% 1.6% 75.7% 17.4%			合計	両方とも取	育児休業の	介護休業の	両方とも取	不明
全体 1206 18 100 12 982 94 100.0% 1.5% 8.3% 1.0% 81.4% 7.8% 7.8% 年齢 20歳~29歳 47 1 4 0 40 2 100.0% 2.1% 8.5% 0.0% 85.1% 4.3% 30歳~39歳 126 1 18 0 103 4 100.0% 0.8% 14.3% 0.0% 81.7% 3.2% 40歳~49歳 161 6 19 3 129 4 100.0% 3.7% 11.8% 1.9% 80.1% 2.5% 50歳~59歳 244 1 24 2 214 3 100.0% 0.4% 9.8% 0.8% 87.8% 1.2% 60歳~69歳 410 5 27 3 333 42 100.0% 1.2% 6.6% 0.7% 81.3% 10.2% 70歳以上 190 3 7 3 144 33 100.0% 1.6% 3.7% 1.6% 75.7% 17.4%				得したこと	み取得した	み取得した	得したこと	
全体 1206 18 100 12 982 94 100.0% 1.5% 8.3% 1.0% 81.4% 7.8% 7.8% 年齢 20歳~29歳 47 1 4 0 40 2 100.0% 2.1% 8.5% 0.0% 85.1% 4.3% 30歳~39歳 126 1 18 0 103 4 100.0% 0.8% 14.3% 0.0% 81.7% 3.2% 40歳~49歳 161 6 19 3 129 4 100.0% 3.7% 11.8% 1.9% 80.1% 2.5% 50歳~59歳 244 1 24 2 214 3 100.0% 0.4% 9.8% 0.8% 87.8% 1.2% 60歳~69歳 410 5 27 3 333 42 100.0% 1.2% 6.6% 0.7% 81.3% 10.2% 70歳以上 190 3 7 3 144 33 100.0% 1.6% 3.7% 1.6% 75.7% 17.4%				がある	ことがある	ことがある	がない	
年齢 20歳~29歳 47 1 4 0 40 2 2 100.0% 2.1% 8.5% 0.0% 85.1% 4.3% 30歳~39歳 126 1 18 0 103 4 100.0% 0.8% 14.3% 0.0% 81.7% 3.2% 40歳~49歳 161 6 19 3 129 4 100.0% 3.7% 11.8% 1.9% 80.1% 2.5% 50歳~59歳 244 1 24 2 214 3 100.0% 0.4% 9.8% 0.8% 87.8% 1.2% 60歳~69歳 410 5 27 3 333 42 100.0% 1.2% 6.6% 0.7% 81.3% 10.2% 70歳以上 190 3 7 3 144 33 100.0% 1.6% 3.7% 1.6% 75.7% 17.4%		全体	120	06 1	.8 10	0 12	982	94
100.0% 2.1% 8.5% 0.0% 85.1% 4.3% 30歳~39歳 126 1 18 0 103 4 100.0% 0.8% 14.3% 0.0% 81.7% 3.2% 40歳~49歳 161 6 19 3 129 4 100.0% 3.7% 11.8% 1.9% 80.1% 2.5% 50歳~59歳 244 1 24 2 214 3 100.0% 0.4% 9.8% 0.8% 87.8% 1.2% 60歳~69歳 410 5 27 3 333 42 100.0% 1.2% 6.6% 0.7% 81.3% 10.2% 70歳以上 190 3 7 3 144 33 100.0% 1.6% 3.7% 1.6% 75.7% 17.4%			100.	0% 1.5	5% 8. 3	% 1.0%	81.4%	7.8%
30歳~39歳   126	年齢	20歳~29点	<b>鼓</b>	47	1	4 (	40	2
100.0%   0.8%   14.3%   0.0%   81.7%   3.2%   40歳~49歳   161   6   19   3   129   4   100.0%   3.7%   11.8%   1.9%   80.1%   2.5%   50歳~59歳   244   1   24   2   214   3   100.0%   0.4%   9.8%   0.8%   87.8%   1.2%   60歳~69歳   410   5   27   3   333   42   100.0%   1.2%   6.6%   0.7%   81.3%   10.2%   70歳以上   190   3   7   3   144   33   10.00%   1.6%   3.7%   1.6%   75.7%   17.4%		300040000000000000000000000000000000000		0% 2.1	.% 8.5	% 0.09	85.1%	4.3%
40歳~49歳       161       6       19       3       129       4         100.0%       3.7%       11.8%       1.9%       80.1%       2.5%         50歳~59歳       244       1       24       2       214       3         100.0%       0.4%       9.8%       0.8%       87.8%       1.2%         60歳~69歳       410       5       27       3       333       42         100.0%       1.2%       6.6%       0.7%       81.3%       10.2%         70歳以上       190       3       7       3       144       33         100.0%       1.6%       3.7%       1.6%       75.7%       17.4%		30歳~39歳	轰 12	26	1	8 (	103	4
100.0%     3.7%     11.8%     1.9%     80.1%     2.5%       50歳~59歳     244     1     24     2     214     3       100.0%     0.4%     9.8%     0.8%     87.8%     1.2%       60歳~69歳     410     5     27     3     333     42       100.0%     1.2%     6.6%     0.7%     81.3%     10.2%       70歳以上     190     3     7     3     144     33       100.0%     1.6%     3.7%     1.6%     75.7%     17.4%		***************************************		0.8	3% 14. 3'	% 0.0%	81.7%	3.2%
50歳~59歳     244     1     24     2     214     3       100.0%     0.4%     9.8%     0.8%     87.8%     1.2%       60歳~69歳     410     5     27     3     333     42       100.0%     1.2%     6.6%     0.7%     81.3%     10.2%       70歳以上     190     3     7     3     144     33       100.0%     1.6%     3.7%     1.6%     75.7%     17.4%		40歳~49歳			-	1	8	¥ .
100.0%     0.4%     9.8%     0.8%     87.8%     1.2%       60歳~69歳     410     5     27     3     333     42       100.0%     1.2%     6.6%     0.7%     81.3%     10.2%       70歳以上     190     3     7     3     144     33       100.0%     1.6%     3.7%     1.6%     75.7%     17.4%		***************************************		0% 3.7	% 11.8°	% 1.99	<del>~~()~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~</del>	
60歳~69歳     410     5     27     3     333     42       100.0%     1.2%     6.6%     0.7%     81.3%     10.2%       70歳以上     190     3     7     3     144     33       100.0%     1.6%     3.7%     1.6%     75.7%     17.4%		50歳~59歳	· .		1	-		
100.0%     1.2%     6.6%     0.7%     81.3%     10.2%       70歲以上     190     3     7     3     144     33       100.0%     1.6%     3.7%     1.6%     75.7%     17.4%				0.4	<del></del>			<del>~</del> {~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~
70歳以上 190 3 7 3 144 33 100.0% 1.6% 3.7% 1.6% 75.7% 17.4%		60歳~69点			1			8
100.0% 1.6% 3.7% 1.6% 75.7% 17.4%			100.0	0% 1.2	·····			
		70歳以上				8	S.	8
		***************************************			3. 7	% 1.6%		
		不明			-1	-1	19	8
100.0% 3.6% 3.6% 3.6% 67.8% 21.4%			100.	3.6	3. 6	% 3. 6%	67.8%	21. 4%

育児休業のみ取得したことがある年代は、30歳代が最も高く14.3%、次いで40歳代が11.8%となっていた。両方とも取得したことがないと回答した年代は、50歳代が87.8%、次いで20歳代が85.1%となっている。30~40歳代に多い育児休業の取得も、50歳代以上になると、回答が1割以下と低下している。

問 13. 一度でも退職したことがある方にお聞きします。あなたがその仕事をやめた 理由は何ですか。何度か退職した場合は、最も新しいことについてお答えくだ さい。(1つに○)

※割合は「不明」を除いて集計を行った。

- ●全体では、「結婚」が最も高く 18.4%、次いで「転職」が 16.4%、「年齢が高くなった」が 14.5%となっている。
- ●男性は女性よりも「転職」の割合が高く34.6%と女性の約4倍となっている。 女性は「結婚」が26.3%、「妊娠・出産・子育て」が17.6%と、この2項目に ついては、ほぼ女性のみが回答をしている。
- ●「結婚」を機会に退職を選択した年代は 30~50 歳代となっている。20~30 歳代では、「結婚」を機会に退職する割合よりも「妊娠・出産・子育て」で退職する割合が高く、40歳代以上になると「結婚」で退職する割合の方が高くなっている。

		問13 退職	もした理	由										
	合計				家族の介護や看護		自分の収 入が必要 でなく なった		に不満が あった	職場でセ クハラや パワハラ があった	づらく	年齢が高 くなった		不明
A /II:						_	_							
全体	766				\$	9	6	126	57	19			86	440
	100.0%	18. 4%	12.0%	6.8%	5.4%	1.2%	0.8%	16.4%	7.4%	2.5%	3.4%	14.5%	11.2%	
男性	237	3	0	15	10	0	1	82	27	1	9	50	39	192
	100.0%	1.3%	0.0%	6.3%	4.2%	0.0%	0.4%	34.6%	11.4%	0.4%	3.8%	21.1%	16.5%	
女性	512	135	90	35	31	9	4	40	29	18	16	58	47	234
	100.0%	26. 3%	17.6%	6.8%	6.1%	1.8%	0.8%	7.8%	5. 7%	3.5%	3.1%	11.3%	9.2%	
不明	17	3	2	2	0	0	1	4	1	0	1	3	0	14
	100.0%	17.6%	11.8%	11.8%	0.0%	0.0%	5.9%	23. 5%	5.9%	0.0%	5.9%	17.6%	0.0%	

			問13 退車	職をした理由   板炉・  白分の  家族の  土(事)  白分の  転職   原田名  職根で  瞬根に  年齢が  その他  不明											
		合計	結婚	妊娠・	自分の	家族の	夫(妻)	自分の	転職	雇用条	職場で	職場に	年齢が	その他	不明
				出産・	病気や	介護や	の転勤	収入が		件に不	セクハ	居づら	高く		
				子育て	けが	看護		必要で		満が	ラやパ	くなっ	なった		
								なく		あった	ワハラ	た			
								なった			があっ				
											た				
	全体	766	141	92	52	41	9	6	126	57	19	26	111	86	440
		100.0%	18.4%	12.0%	6.8%	5.4%	1.2%	0.8%	16.4%	7.4%	2.5%	3.4%	14.5%	11.2%	
年齢	20歳~29歳	18	0	6	2	0	0	0	3	4	1	1	0	1	29
		100.0%	0.0%	33. 2%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	22.2%	5.6%	5.6%	0.0%	5.6%	
	30歳~39歳	78	15	20	2	1	1	0	9	9	7	3	0	11	48
		100.0%	19.2%	25.7%	2.6%	1.3%	1.3%	0.0%	11.5%	11.5%	9.0%	3.8%	0.0%	14.1%	
	40歳~49歳	97	20	17	3	3	1	2	23	14	2	2	0	10	64
		100.0%	20.6%	17.5%	3.1%	3.1%	1.0%	2.1%	23. 7%	14.4%	2.1%	2.1%	0.0%	10.3%	
	50歳~59歳	158	38	27	9	8	5	0	28	14	4	6	2	17	86
		100.0%	23.9%	17.1%	5.7%	5.1%	3.2%	0.0%	17.7%	8.9%	2.5%	3.8%	1.3%	10.8%	
	60歳~69歳	288	45	18	28	24	2	2	39	12	4	9	67	38	122
		100.0%	15.6%	6.3%	9.7%	8.3%	0.7%	0.7%	13.5%	4.2%	1.4%	3.1%	23.3%	13.2%	
	70歳以上	110	20	2	6	5	0	1	20	3	1	4	39	9	80
		100.0%	18.2%	1.8%	5.5%	4.5%	0.0%	0.9%	18.2%	2.7%	0.9%	3.6%	35.5%	8. 2%	
	不明	17	3	2	2	0	0	1	4	1	0	1	3	0	11
		100.0%	17.6%	11.8%	11.8%	0.0%	0.0%	5.9%	23.5%	5.9%	0.0%	5.9%	17.6%	0.0%	

20 歳代、30 歳代では、「妊娠・出産・子育て」が退職の理由として最も高い。次いで 20 歳代では、「雇用条件に不満があった」となっており、30 歳代では、「結婚」となっている。40 歳代では「転職」が最も高いが、「結婚」をきっかけとした退職は、 $40\sim50$  歳代で割合が高いことがわかる。「転職」は 40 歳代で最も高く、30 歳代の約 2 倍となっている。

### 問14. あなたが退職したのは、今から何年前ですか。(1つに○)

- ●全体では、「10 年を超える」が最も高く 54.7%となっている。女性の方が男性 よりも約1割高くなっている。
- ●「2年以内」との回答が男性では14.8%、女性では9.4%と約5%の差がみられる。
- ●20~30 歳代で退職したことがあると回答した人は、その半数以上が「5 年以内」 と回答している。

			問14 退耶	戦をした時	持期			
		合計	2年以内	3~5年	6~10年	10年を	その他	不明
						こえる		
	全体	766	85	119	132	418	1	11
		100.0%	11.1%	15.5%	17. 2%	54. 7%	0.1%	1.4%
性別	男性	237	35	40	48	109	0	5
		100.0%	14.8%	16.9%	20.3%	45. 9%	0.0%	2.1%
	女性	512	48	75	81	302	1	5
		100.0%	9.4%	14.6%	15.8%	59.0%	0.2%	1.0%
	不明	17	2	4	3	7	0	1
		100.0%	11.8%	23.5%	17.6%	41.2%	0.0%	5.9%

			問14 退職を	とした時期				
		合計	2年以内	3~5年	6~10年	10年をこ	その他	不明
						える		
	全体	766	85	119	132	418	1	11
		100.0%	11. 1%	15. 5%	17. 2%	54. 7%	0.1%	1.4%
年齢	20歳~29歳	18	7	8	3	0	0	0
		100.0%	38. 9%	44. 4%	16. 7%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳~39歳	78	20	21	17	19	0	1
		100.0%	25.6%	26. 9%	21.8%	24.4%	0.0%	1.3%
	40歳~49歳	97	7	17	13	60	0	0
		100.0%	7. 2%	17. 5%	13.4%	61. 9%	0.0%	0.0%
	50歳~59歳	158	18	11	17	109	0	3
		100.0%	11.4%	7.0%	10.8%	68. 9%	0.0%	1.9%
	60歳~69歳	288	28	51	55	149	1	4
		100.0%	9. 7%	17. 7%	19. 1%	51.8%	0.3%	1.4%
	70歳以上	110	3	7	24	74	0	2
		100.0%	2. 7%	6.4%	21.8%	67. 3%	0.0%	1.8%
	不明	17	2	4	3	7	0	1
		100.0%	11.8%	23. 5%	17.6%	41.2%	0.0%	5.9%

退職したことがあると回答した人のうち、20歳代では、83.3%が5年以内に退職をし、30歳代では、52.5%が5年以内に退職している。40歳代以上になると約5~7割が10年以上前に退職したと回答している。

### 問 15. その退職は、ご自身が納得して選択した退職でしたか。(1つに○)

- ●全体では、「自分で希望して退職を選んだ」が最も高く 69.3%と突出している。 次いで、「勤務を継続できない理由が雰囲気が生じ、仕方なく退職した」が 10.7% となっている。
- ●女性の方が男性より「勤務を継続できない理由が雰囲気が生じ、仕方なく退職 した」との回答割合が 4.7%高く、11.9%となっている。
- ●「勤務を継続できない理由や雰囲気が生じ、仕方なく退職した」との割合は、 20~30歳代で高い傾向がみられた。

			問15 納得 ì	て退職した	・かどうか			
		合計	<u>問15 納得</u> 自分で希 望して退 職を選ん だ	て退職した 動続で理無気で理無気で 要用気では 大なやが 生たなく 大なとした。 大なり、 大は、 大いる。 大いる。 大いる。 大いる。 大いる。 大いる。 大いる。 大いる。	雇用主か ら退職を	家族から 退職を勧 められた	その他	不明
				職した				
	全体	766	530	82	44	23	67	20
		100.0%	69.3%	10. 7%	5. 7%	3.0%	8. 7%	2.6%
性別	男性	237	158	17	15	3	34	10
		100.0%	66. 7%	7. 2%	6.3%	1.3%	14. 3%	4. 2%
	女性	512	363	61	27	19	33	9
		100.0%	70.9%	11. 9%	5. 3%	3. 7%	6. 4%	1.8%
	不明	17	9	4	2	1	0	1
		100.0%	52.9%	23. 5%	11.8%	5. 9%	0.0%	5. 9%

			問15 納得1	て退職した	かどうか			
		合計	自分で希		雇用主か	家族から	その他	不明
			望して退	続できな	ら退職を	退職を勧		
			職を選ん	い理由や	促された	められた		
			だ	雰囲気が				
				生じ、仕				
				方なく退				
				職した				
	全体	766	530	82	44	23	67	20
		100.0%	69. 3%	10.7%	5. 7%	3.0%	8.7%	2.6%
年齢	20歳~29歳	18	13	3	0	0	2	0
	***************************************	100.0%	72. 2%	16.7%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%
	30歳~39歳	78	54	14	4	2	2	2
	200000000000000000000000000000000000000	100.0%	69. 2%	17. 9%	5. 1%	2.6%	2.6%	2.6%
	40歳~49歳	97	80	9	3	2	3	0
		100.0%	82.4%	9.3%	3. 1%	2.1%	3.1%	0.0%
	50歳~59歳	158	115	17	9	8	6	3
		100.0%	72. 7%	10.8%	5. 7%	5. 1%	3.8%	1.9%
	60歳~69歳	288	184	27	20	6	39	12
		100.0%	63. 9%	9.4%	6. 9%	2. 1%	13.5%	4. 2%
	70歳以上	110	75	8	6	4	15	
	***************************************	100.0%	68. 2%	7.3%	5. 5%	3.6%	13.6%	1.8%
	不明	17	9	4	2	1	0	1
		100.0%	52. 9%	23. 5%	11.8%	5. 9%	0.0%	5. 9%

どの年代も、約7割の回答者が「自分で希望して退職を選んだ」と回答している。「勤務を継続できない理由や雰囲気が生じ、仕方なく退職した」との割合は、20~30歳代で高い傾向がみられた。「雇用主から退職を促された」との回答は、20歳代では見られなかったが、30歳代以上では各年代で5%ずつ回答があった。

# 3. 教育・地域活動について

### 問 16. 子どもの学歴はどこまで必要だと思いますか。(1つに○)

### 【男の子どもについて】

- ●全体では、「大学以上」が最も高く48.3%と約半数が回答している。
- ●男性は、女性よりも「高等学校」との割合が高い。

			問16 子ども	に必要だと	思う学歴【男	の子ども】		
		合計	高等学校	専門学校	短大・高専	大学以上	その他	不明
	全体	1206	254	132	88	583	72	77
		100.0%	21.1%	10.9%	7.3%	48.3%	6.0%	6.4%
性別	男性	429	110	48	30	193	25	23
		100.0%	25.6%	11.2%	7.0%	45.0%	5.8%	5.4%
	女性	746	142	79	56	378	46	45
		100.0%	19.0%	10.6%	7.5%	50.7%	6. 2%	6.0%
	不明	31	2	5	2	12	1	9
		100.0%	6.5%	16. 1%	6.5%	38. 7%	3. 2%	29.0%

			問16 子ども	に必要だと思	、う学歴【男⊄	0子ども】		
		合計	高等学校	専門学校	短大・高専	大学以上	その他	不明
	全体	1206	254	132	88	583	72	77
		100.0%	21.1%	10.9%	7.3%	48.3%	6.0%	6.4%
年齢	20歳~29歳	47	15	3	1	25	2	1
		100.0%	31.9%	6.4%	2.1%	53. 2%	4.3%	2.1%
	30歳~39歳	126	33	13	10	55	9	6
		100.0%	26. 2%	10.3%	7.9%	43.7%	7.1%	4.8%
	40歳~49歳	161	55	19	6	68	9	4
		100.0%	34. 2%	11.8%	3. 7%	42.2%	5.6%	2.5%
	50歳~59歳	244	67	31	17	100	20	9
		100.0%	27.5%	12.7%	7.0%	40.9%	8.2%	3. 7%
	60歳~69歳	410	65	48	33	210	25	29
		100.0%	15. 9%	11.7%	8.0%	51.2%	6.1%	7.1%
	70歳以上	190	17	13	20	113	6	21
		100.0%	8.9%	6.8%	10.5%	59.5%	3.2%	11.1%
	不明	28	2	5	1	12	1	7
		100.0%	7.1%	17.9%	3.6%	42.8%	3.6%	25.0%

20歳代は、約5割が「大学以上」と回答しており、30歳代~50歳代よりも1割以上割合が高くなっている傾向がある。70歳以上では、約6割が「大学以上」と回答している。30歳代~50歳代では、「専門学校」との回答が約1割であった。

### 問 16. 子どもの学歴はどこまで必要だと思いますか。(1 つに○)

### 【女の子どもについて】

- ●全体では、「大学以上」が最も高く27.6%となっている。
- ●次いで、「高等学校」が24.4%となっている。
- ●男の子どもと比べると、「大学以上」では 20.7%も低く、「専門学校」では、4.5% 高く、「短大・高専」では、10.5%高い結果となっている。

			問16 子ども	に必要だと	思う学歴【女	の子ども】		
		合計	高等学校	専門学校	短大・高専	大学以上	その他	不明
	全体	1206	294	186	215	333	72	106
		100.0%	24.4%	15.4%	17.8%	27.6%	6.0%	8.8%
性別	男性	429	112	67	68	125	25	32
		100.0%	26. 1%	15.6%	15. 9%	29. 1%	5.8%	7.5%
	女性	746	177	115	145	200	46	63
		100.0%	23. 7%	15.4%	19.4%	26. 9%	6. 2%	8.4%
	不明	31	5	4	2	8	1	11
		100.0%	16. 1%	12.9%	6.5%	25. 8%	3. 2%	35. 5%

			問16 子ども	に必要だと思	しう学歴【女⊄	り子ども】		
		合計	高等学校	専門学校	短大・高専	大学以上	その他	不明
	全体	1206	294	186	215	333	72	106
		100.0%	24.4%	15.4%	17.8%	27.6%	6.0%	8.8%
年齢	20歳~29歳	47	18	3	3	20	2	1
		100.0%	38.3%	6.4%	6.4%	42.5%	4. 3%	2.1%
	30歳~39歳	126	42	18	20	33	9	4
		100.0%	33.3%	14.3%	15.9%	26. 2%	7.1%	3.2%
	40歳~49歳	161	60	22	23	41	9	6
		100.0%	37. 2%	13.7%	14.3%	25. 5%	5. 6%	3.7%
	50歳~59歳	244	75	41	37	60	21	10
		100.0%	30. 7%	16.8%	15.2%	24.6%	8.6%	4.1%
	60歳~69歳	410	72	69	86	117	23	43
		100.0%	17.6%	16.8%	21.0%	28.5%	5. 6%	10.5%
	70歳以上	190	23	29	44	54	7	33
		100.0%	12. 1%	15.3%	23. 2%	28. 3%	3. 7%	17.4%
	不明	28	4	4	2	8	1	9
		100.0%	14. 3%	14. 3%	7.1%	28.6%	3.6%	32. 1%

50歳代以下と60歳代以上で回答に傾向がみられる。60歳代以上では、約3割が「大学以上」と回答し、次いで約2割が「短大・高専」となっているが、50歳代以下では、約3割~4割が「高等学校」と回答し、次いで25%前後で「大学以上」と回答している。20歳代のみ、約4割が「大学以上」と回答している。

どの年代も「女の子ども」より「男の子ども」の方が「大学以上」と回答している割合が高くなっている。

問 17. 家庭の中で子どもを育てる場合、子どもに身に付けてほしいことは何ですか。 (○は3つまで)

### 【男の子どもについて】

●全体では、「礼儀正しさ」が最も高く 46.3%、次いで「思いやり」が 43.3%と なっている。

			問17 子と	もに身に位	寸けてほし	いこと【!	男の子ども	. ]				
		合計	家事能力	職業能力	礼儀正し	行動力	勤勉さ	思いやり	協調性	自立心	忍耐力	不明
		п.	3. 1 112.0	1,74,714,112,7	2		<i></i>		P43 N/-3 1_11	1		
					C							
	全体	1206	177	429	558	337	151	522	315	445	347	92
		100.0%	14.7%	35.6%	46.3%	27.9%	12.5%	43.3%	26.1%	36.9%	28.8%	7.6%
性別	男性	429	47	167	206	118	67	177	127	150	102	32
		100.0%	11.0%	38.9%	48.0%	27.5%	15.6%	41.3%	29.6%	35.0%	23.8%	7.5%
	女性	746	128	249	340	214	83	337	182	290	239	49
		100.0%	17.2%	33.4%	45.6%	28.7%	11.1%	45. 2%	24.4%	38.9%	32.0%	6.6%
	不明	31	2	13	12	5	1	8	6	5	6	11
		100.0%	6.5%	41. 9%	38. 7%	16.1%	3.2%	25.8%	19.4%	16.1%	19.4%	35.5%

			問17 子ど	もに身に位	寸けてほし	いこと【	男の子ども	.]				
		合計	家事能力	職業能力	礼儀正し	行動力	勤勉さ	思いやり	協調性	自立心	忍耐力	不明
					さ							
	全体	1206	177	429	558	337	151	522	315	445	347	92
		100.0%	14.7%	35.6%	46.3%	27. 9%	12.5%	43.3%	26.1%	36.9%	28.8%	7.6%
年齢	20歳~29歳	47	11	15	26	11	3	24	15	12	17	2
		100.0%	23.4%	31.9%	55.3%	23.4%	6.4%	51.1%	31.9%	25.5%	36.2%	4.3%
	30歳~39歳	126	18	35	62	46	10	63	36	39	34	10
		100.0%	14.3%	27.8%	49.2%	36.5%	7.9%	50.0%	28.6%	31.0%	27.0%	7.9%
	40歳~49歳	161	21	50	83	46	19	83	37	56	46	10
		100.0%	13.0%	31.1%	51.6%	28.6%	11.8%	51.6%	23.0%	34.8%	28.6%	6. 2%
	50歳~59歳	244	43	103	116	66	28	107	73	93	63	12
		100.0%	17.6%	42.2%	47.5%	27.0%	11.5%	43.9%	29.9%	38.1%	25.8%	4.9%
	60歳~69歳	410	57	141	180	113	57	166	101	167	125	31
		100.0%	13.9%	34.4%	43.9%	27.6%	13.9%	40.5%	24.6%	40.7%	30.5%	7.6%
	70歳以上	190	25	73	80	50	33	71	47	73	57	18
		100.0%	13. 2%	38.4%	42.1%	26.3%	17.4%	37.4%	24.7%	38.4%	30.0%	9.5%
	不明	28	2	12	11	5	1	8	6	5	5	9
		100.0%	7.1%	42.9%	39.3%	17.9%	3.6%	28.6%	21.4%	17.9%	17.9%	32.1%

「家事能力」は20歳代が他の年代よりも約1割程度高くなっている。「職業能力」は50歳代が他の年代よりも約1割程度高くなっている。「礼儀正しさ」は年代が低くなるほど高い傾向にある。「行動力」は30歳代が他の年代よりも約1割以上高くなっている。「思いやり」は40歳代以下で2人に1人が回答している。

問 17. 家庭の中で子どもを育てる場合、子どもに身に付けてほしいことは何ですか。 (○は3つまで)

#### 【女の子どもについて】

- ●全体では、「思いやり」が最も高く 70.9%、次いで「家事能力」が 50.6%となっている。
- ●「家事能力」は家庭生活の代表的な項目として、「職業能力」は仕事における代表的な項目として位置付けられる。「男の子ども」「女の子ども」それぞれに対して、この2つの項目の割合の差が回答者の性別や年代を問わず顕著であることから、固定的性別役割分担意識が子育てをする中でも根強く残っていることがわかる。

			間17 子と	もに身に付	上)ナーフェ1	1 x > 1. <b>T</b> -	レのフルナ	1				
		0 -1					女の子ども		Lafa atmost at			
		合計	家事能力	職業能力	礼儀正し	行動力	勤勉さ	思いやり	協調性	自立心	忍耐力	不明
					さ							
	A 11.				=0=		= 0		201			
	全体	1206	610	146	725	89	76	855	284	276	215	93
		100.0%	50.6%	12.1%	60.1%	7.4%	6.3%	70. 9%	23.5%	22.9%	17.8%	7.7%
性別	男性	429	204	55	265	31	40	301	101	88	68	35
		100.0%	47.6%	12.8%	61.8%	7.2%	9.3%	70. 2%	23.5%	20.5%	15.9%	8. 2%
	女性	746	390	89	447	58	36	538	176	186	145	47
		100.0%	52.3%	11.9%	59.9%	7.8%	4.8%	72.1%	23.6%	24.9%	19.4%	6.3%
	不明	31	16	2	13	0	0	16	7	2	2	11
		100.0%	51.6%	6.5%	41.9%	0.0%	0.0%	51.6%	22.6%	6.5%	6.5%	35. 5%

			問17 子ど	`もに身にイ	付けてほし	いことし	女の子ども					
		合計	家事能力	職業能力	礼儀正し	行動力	勤勉さ	思いやり	協調性	自立心	忍耐力	不明
					さ							
	全体	1206	610	146	725	89	76	855	284	276	215	93
		100.0%		12.1%							17.8%	7.7%
年齢	20歳~29歳	47	22	8	28	3	2	35	17	5	14	2
	***************************************	100.0%	46.8%	17.0%	59.6%	6.4%	4.3%	74.5%	36.2%	10.6%	29.8%	4.3%
	30歳~39歳	126	66	5	85	16	7	92	30	32	22	6
		100.0%	52.4%	4.0%	67.5%	12.7%	5.6%	73.0%	23.8%	25.4%	17.5%	4.8%
	40歳~49歳	161	62	21	96	18	16	113	38	41	34	11
		100.0%	38. 5%	13.0%	59.6%	11.2%	9.9%	70. 2%	23.6%	25.5%	21.1%	6.8%
	50歳~59歳	244	120	40	152	17	17	175	68	59	42	12
		100.0%	49. 2%	16.4%	62.3%	7.0%	7.0%	71.7%	27.9%	24. 2%	17.2%	4.9%
	60歳~69歳	410	223	45	246	24	25	292	82	93	72	33
		100.0%	54.4%	11.0%	60.0%	5.9%	6.1%	71.2%	20.0%	22.7%	17.6%	8.0%
	70歳以上	190	102	25	106	11	9	133	42	44	29	20
		100.0%	53. 7%	13. 2%	55.8%	5.8%	4.7%	70.0%	22.1%	23. 2%	15.3%	10.5%
	不明	28	15	2	12	0	0	15	7	2	2	9
		100.0%	53.6%	7.1%	42.9%	0.0%	0.0%	53.6%	25.0%	7.1%	7.1%	32. 1%

「家事能力」は30歳代と60歳代以上で50%以上となっている。

「職業能力」は30歳代が最も低く、全体の割合の3分の1となっており、年代によってはそれ以上の回答の差がある。

「行動力」は  $30\sim40$  歳代で高くなっており、他の年代の 2 倍近い割合となっている。 「協調性」は 20 歳代が、他の年代よりも 1 割以上高くなっている。 問 18. あなたは地域社会において、現在どのような活動に参加していますか。また、 今後どのような活動に参加したいですか。(○はいくつでも)

### 【現在について】

- ●全体では、「自治会などの地域活動」が最も高く 31.8%、次いで「特に参加していない」が 28.8%となっている。
- ●男性では、「自治会などの地域活動」が高く 47.1%、女性では「特に参加していない」が 32.3%となっている。
- ●男女で回答に差があるものとしては、男性は女性よりも「ボランティア活動」 「自治会などの地域活動」「スポーツ、レクリエーション活動」の割合が高い。
- ●女性は男性よりも、「学校行事」「女性の会を含めた女性団体・グループ等の地域活動」「特に参加していない」の割合が高い。

_		_													
			問18 地域	社会での記	「動【現在」	1									
		合計	ボラン	学校行事	老人クラ	自治会な	女性の会	スポー	スポー	文化・教	宗教活動	政治活動	その他	特に参加	不明
			ティア活		ブ	どの地域	を含めた	ツ、レク	ツ、レク	養・学習				していな	
			動(社会			活動	女性団	リエー	リエー	活動・公				い・参加	
			奉仕な				体・グ	ション活		民館活動				したくな	
			ど)				ループ等		動以外の					い	
							の地域活		趣味活動						
							動								
	全体	1206	200	177	66	384	85	206	107	162	34	15	11	347	133
		100.0%	16.6%	14.7%	5.5%	31.8%	7.0%	17.1%	8.9%	13.4%	2.8%	1.2%	0.9%	28.8%	11.0%
性別	男性	429	91	44	27	202	7	89	33	45	12	13	8	101	44
		100.0%	21.2%	10.3%	6.3%	47.1%	1.6%	20.7%	7.7%	10.5%	2.8%	3.0%	1.9%	23.5%	10.3%
	女性	746	102	132	37	175	75	113	72	115	20	2	3	241	77
		100.0%	13.7%	17.7%	5.0%	23.5%	10.1%	15.1%	9.7%	15.4%	2.7%	0.3%	0.4%	32.3%	10.3%
	不明	31	7	1	2	7	3	4	2	2	2	0	0	5	12
	1	100.0%	22.6%	3. 2%	6.5%	22.6%	9.7%	12.9%	6.5%	6.5%	6.5%	0.0%	0.0%	16.1%	38. 7%

			問18 地域	社会での治	舌動【現在	]									
		合計	ボラン	学校行事	老人クラ	自治会な	女性の会	スポー	スポー	文化・教	宗教活動	政治活動	その他	特に参加	不明
			ティア活		ブ		を含めた			養・学習				していな	
			動(社会			活動	女性団			活動・公				い・参加	
			奉仕な					ション活		民館活動				したくな	
			ど)				ループ等		動以外の					い	
							の地域活		趣味活動						
	全体	1206	200	177	66		動 85	206	107	162	34	15	11	347	133
	土件	100.0%		1					E		E	8	8	1 1	
年齢	20歳~29歳	47	70.070	14.1/0	0.0/0	7	1.0/0	8	3	10.4/0	2.0/0	1.2/0		20.0%	11.0/
1 1111	BOMA BOMA	100.0%	14.9%	12.8%		14.9%	2.1%	17.0%	6.4%	4.3%	0.0%				10.6%
	30歳~39歳	126	9			***************************************	5	\$	ġ	·		1	0	42	6
		100.0%	7.1%	42.9%	0.0%	13.5%	4.0%	12.7%	6.3%	7.1%	0.8%	0.8%	0.0%	33. 3%	4.8%
	40歳~49歳	161	21		1	52		29				4	1	51	3
		100.0%	13.0%		0.6%							2.5%	0.6%		1.9%
	50歳~59歳	244			2	96	17							77	15
		100.0%	14.3%								3.3%	2.0%	·		6.1%
	60歳~69歳	410	77				31	58			11	4	6	110	
	7048 DL L	100.0%	18.8%					<u> </u>				g	1.5%	<u> </u>	
	70歳以上	190 100, 0%	44 23. 2%				21 11. 1%	43 22, 6%				8 -	0.5%	36 18. 9%	28 14. 7%
	不明	100.0%	23. 2%	4. 7%	18.9% 2	33. 7% 7	11.1%	22.0%	13. 2%	20.3%	4. 2%	0.5%	0.5%	18.9%	14. 7%
	1.61	100.0%	25. 0%	3, 6%		25. 0%		14.3%	7.1%	7.1%	7.1%	0.0%	0.0%	14.3%	35. 7%

70歳以上は学校行事を除く様々な活動で割合が高くなっている。「学校行事」は、30歳代・40歳代が突出しており約4割が回答している。反対に30~40歳代は「ボランティア活動」が低い傾向にある。50歳代は「自治会などの活動」が他の年代よりも高い傾向にある。「文化・教養活動等」は60歳代以上で高く、50歳代以下では60歳代以上の半数以下の割合となっている。20~30歳代は「特に参加していない」との回答の割合が高い。

問 18. あなたは地域社会において、現在どのような活動に参加していますか。また、 今後どのような活動に参加したいですか。(○はいくつでも)

#### 【今後について】

- ●全体では、「ボランティア活動(社会奉仕など)」が最も高く 24.7%、次いで「自 治会などの地域活動」が 24.4%となっている。
- ●男性では、「自治会などの地域活動」が高く 36.1%、女性では「文化・教養・ 学習活動・公民館活動」が 24.5%となっている。
- ●男女で回答に差があるものとしては、男性は女性よりも「ボランティア活動」 「自治会などの地域活動」「スポーツ、レクリエーション活動」との割合が高い。
- ●女性は男性よりも、「女性の会を含めた女性団体・グループ等の地域活動」「文化・教養・学習活動・公民館活動」との割合が高い。
- ●「特に参加していない・参加したくない」との回答は、【現在】よりも 14%低くなっている。

			間18 地域	社会での記	<b>動【今後</b>	1									
		合計	ボラン	学校行事	老人クラ	自治会な	女性の会	スポー	スポー	文化・教	宗教活動	政治活動	その他	特に参加	不明
			ティア活		ブ			ツ、レク		養・学習				していな	
			動(社会			活動	女性団	リエー	リエー	活動・公				い・参加	
			奉仕な				体・グ	ション活	ション活	民館活動				したくな	
			ど)				ループ等		動以外の					い	
							の地域活		趣味活動						
							動								
	全体	1206	298	151	91	294	93	264	191	256	29	15	9	179	261
		100.0%	24. 7%	12.5%	7.5%	24.4%	7.7%	21.9%	15.8%	21.2%	2.4%	1.2%	0.7%	14.8%	21.6%
性別	男性	429	125	46	45	155	11	111	61	68	12	11	5	59	88
		100.0%	29.1%	10.7%	10.5%	36.1%	2.6%	25.9%	14.2%	15.9%	2.8%	2.6%	1.2%	13.8%	20.5%
	女性	746	166	103	43	136	80	150	129	183	16	2	3	117	157
		100.0%	22.3%	13.8%	5.8%	18.2%	10.7%	20.1%	17.3%	24.5%	2.1%	0.3%	0.4%	15.7%	21.0%
	不明	31	7	2	3	3	2	3	1	5	1	2	1	3	16
		100.0%	22.6%	6.5%	9.7%	9.7%	6.5%	9.7%	3.2%	16.1%	3.2%	6.5%	3.2%	9.7%	51.6%

			問18 地域	社会での活	舌動【今後	]									
		合計	ボラン	学校行事	老人クラ		女性の会	スポー			宗教活動	政治活動	その他	特に参加	不明
			ティア活		ブ	どの地域			ツ、レク	養・学習				していな	
			動(社会				女性団			活動・公				い・参加	
			奉仕な				体・グ		ション活	民館活動				したくな	
			ど)				ループ等		動以外の					い	
							の地域活		趣味活動						
	A 41-		000				動		101	0.00			_	150	0.04
	全体	1206		151		294									261
Aue the	and and	100.0%				24.4%	7.7%				2.4%	1.2%	0.7%	8	21.6%
年齢	20歳~29歳	47				8	1	18	E	-	0	0	2	11	ь
		100.0%				*****************	Ş <del></del>					0.0%	4.3%		
	30歳~39歳	126				14		34				0	0	27	16
		100.0%										0.0%	0.0%		12.7%
	40歳~49歳	161				47	10				E -	5	0	36	11
		100.0%	************				***************************************	garantee announce and a second	<b>************</b>		************	3.1%	0.0%	g	******
	50歳~59歳	244					21	63				4	2	33	34
		100.0%					····					1.6%	0.8%		13.9%
	60歳~69歳	410										3	4	50	123
		100.0%	26.6%	2.9%							2.7%	0.7%	1.0%	12.2%	30.0%
	70歳以上	190	42	5	33	40		38	29	42	4	1	0	19	59
		100.0%		2.6%	17.4%	21.1%	11.1%	20.0%	15.3%	22.1%	2.1%	0.5%	0.0%	10.0%	31.1%
	不明	28		2	3	3	2	3	1	5	1	2	1	3	13
		100.0%	25.0%	7.1%	10.7%	10.7%	7.1%	10.7%	3.6%	17.9%	3.6%	7.1%	3.6%	10.7%	46.4%

年代で傾向が大きく分かれる。20歳代では、「ボランティア活動」や「スポーツ・レクリエーション活動」「スポーツ・レクリエーション活動以外の趣味活動」の割合が高くなっている。「学校行事」は、20~40歳代で割合が高い。「自治会などの活動」については、40~60歳代で高くなっている。「特に参加したくない」との回答は、20~40歳代で割合が高い。

- 問 18 付問. 問 18 で「⑫特に参加していない・参加したくない」と答えた方におたずねします。あなたが、活動に参加していないのはどのような理由からですか。 (○は3つまで)
  - ●全体では、「時間がないから」が最も高く 47.2%となっている。男女ともに、最も高い回答となっている。
  - ●男女で回答に差があるものとしては、男性は女性よりも「関心がないから」「他 人と一緒に活動するのがわずらわしいから」との割合が高い。

			問18付問	活動に参加	[していな	い理由							
					情報が少		高齢・病	他人と一	時間がな	一緒に参	経済的に	その他	不明
			いから	ための施	ないから	解や協力	弱だから	緒に活動	いから	加する仲	余裕がな		
				設が近く		が得られ		するのが		間がいな	いから		
				にないか		ないから		わずらわ		いから			
				6				しいから					
	全体	375	88	50	65	16	42	52	177	75	74	35	8
		100.0%	23.5%	13.3%	17. 3%	4.3%	11. 2%	13.9%	47. 2%	20.0%	19.7%	9.3%	2.1%
性別	男性	107	30	11	19	1	15	20	45	18	14	9	2
		100.0%	28.0%	10.3%	17.8%	0.9%	14.0%	18.7%	42.1%	16.8%	13.1%	8.4%	1.9%
	女性	262	56	38	45	15	27	31	131	57	58	26	5
		100.0%	21.4%	14.5%	17. 2%	5. 7%	10.3%	11.8%	50.0%	21.8%	22. 1%	9.9%	1.9%
	不明	6	2	1	1	0	0	1	1	0	2	0	1
		100.0%	33. 3%	16.7%	16. 7%	0.0%	0.0%	16.7%	16. 7%	0.0%	33. 3%	0.0%	16.7%

			BB 1 0 /→ BB	活動に参加	m1 ブルンナン	) \#H-th							
										/ I / .			
		合計					高齢・病				経済的に	その他	不明
			いから	ための施	ないから	解や協力	弱だから	緒に活動	いから	加する仲	余裕がな		
				設が近く		が得られ		するのが		間がいな	いから		
				にないか		ないから		わずらわ		いから			
				b .		W. 17 J		しいから		. ~ _			
	全体	375	88	50	65	16	42	52	177	75	74	35	8
		100.0%	23.5%	13.3%	17.3%	4.3%	11.2%	13. 9%	47. 2%	20.0%	19.7%	9.3%	2.1%
年齢	20歳~29歳	21	7	4	6	2	0	2	10	5	3	1	1
		100.0%	33. 3%	19.0%	28.6%	9.5%	0.0%	9.5%	47.6%	23.8%	14.3%	4.8%	4.8%
	30歳~39歳	48	18	5	9		1	7	32	15	7	3	0
		100.0%	37.5%	10.4%	18.8%	2.1%	2.1%	14.6%	66. 7%	31.3%	14.6%	6.3%	0.0%
	40歳~49歳	58	17	7	7	2	3	11	31	6	16	3	1
		100.0%	29.3%	12. 1%	12.1%	3.4%	5. 2%	19.0%	53.4%	10.3%	27.6%	5. 2%	1.7%
	50歳~59歳	80	14	7	16	4	4	5	44	17	25	7	2
		100.0%	17.5%	8.8%	20.0%	5.0%	5.0%	6.3%	55.0%	21.3%	31.3%	8.8%	2.5%
	60歳~69歳	124	24	21	20	6	18	16	50	26	19	16	3
		100.0%	19.4%	16.9%	16.1%	4.8%	14.5%	12.9%	40.3%	21.0%	15.3%	12.9%	2.4%
	70歳以上	39	7	5	6	1	16	10	9	6	3	5	0
		100.0%	17.9%	12.8%	15.4%	2.6%	41.0%	25.6%	23.1%	15.4%	7.7%	12.8%	0.0%
	不明	5	1	1	1	0	· ·	_	1	0	1	0	1
		100.0%	20.0%	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%	20.0%	20.0%	0.0%	20.0%	0.0%	20.0%

活動に対する関心の低さは  $20\sim40$  歳代の回答に表れている。「情報が少ないから」については、20 歳代が他の年代より顕著である。若い世代に対する情報提供の工夫が必要である。「高齢・病弱だから」を回答した割合が高いのは、60 歳代以上となっている。「時間がない」は主に  $30\sim50$  歳代が回答している。これは全体でもっとも多い回答であったが、中でも 30 歳代は 66.7% と全体の割合よりも 2 割以上高い。30 歳代では、「一緒に参加する仲間がいないから」が、全体の割合より約 1 割高い。「経済的余裕がない」との回答は、 $40\sim50$  歳代で高くなっており、他の年代の 2 倍程度となっていることがわかる。

- 問 19. 自治会などの地域の集まりや作業の中で、女性も男性と共に参加したり、男性と同じように発言したりすることができにくい雰囲気や状況はあると思いますか。(1つに○)
  - ●全体では、「そういうことはないと思う」が最も高く 47.0%となっている。男女ともに、最も高い回答となっている。
  - ●男性は、女性よりも「そういうことはないと思う」との回答の割合が 14.9%高く、56.8%となっている。

			問19 自治会等の	の集まりで女性だ	が参加できる雰囲	囲気について
		合計	そういうこと	わからない	できにくい雰	不明
			はないと思う		囲気や状況が	
					あると思う	
	全体	1206	566	326	240	74
		100.0%	47.0%	27.0%	19.9%	6. 1%
性別	男性	429	244	94	68	23
		100.0%	56.8%	21.9%	15.9%	5.4%
	女性	746	312	224	168	42
		100.0%	41.9%	30.0%	22.5%	5.6%
	不明	31	10	8	4	9
		100.0%	32.3%	25.8%	12.9%	29.0%

			問19 自治会等の	集まりで女性が	参加できる雰囲気	について
		合計	そういうことは	わからない	できにくい雰囲	不明
			ないと思う		気や状況がある	
					と思う	
	全体	1206	566	326	240	74
		100.0%	47.0%	27.0%	19.9%	6.1%
年齢	20歳~29歳	47	16	24	6	1
		100.0%	34.0%	51. 1%	12.8%	2.1%
	30歳~39歳	126	32	63	23	8
		100.0%	25. 4%	50.0%	18.3%	6.3%
	40歳~49歳	161	57	60	41	3
		100.0%	35. 4%	37. 2%	25. 5%	1.9%
	50歳~59歳	244	117	62	61	4
		100.0%	48.0%	25.4%	25.0%	1.6%
	60歳~69歳	410	221	81	75	33
		100.0%	53.9%	19.8%	18.3%	8.0%
	70歳以上	190	114	28	30	18
		100.0%	60.0%	14.7%	15.8%	9.5%
	不明	28	9	8	4	7
		100.0%	32.1%	28.6%	14. 3%	25.0%

20~30歳代の約半数が「わからない」と回答している。40~50歳代は4人に1人が「できにくい雰囲気があると思う」と回答している。60歳代以上は、半数以上が「そういうことはないと思う」と回答している。年代別で傾向がみられる。

# 問 19 付問. 問 19 で「3. できにくい雰囲気や状況があると思う」と答えた方におたず ねします。それはどんな雰囲気や状況だと思いますか。(○は 2 つまで)

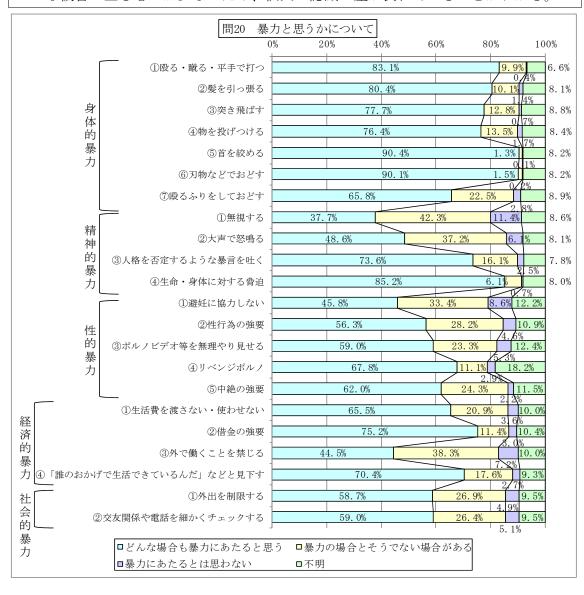
- ●全体では、「決定事項については、従来、男性が取り仕切っているので、女性が口を挟みにくい」が最も高く50.0%となっている。男女ともに、最も高い回答となっている。
- ●男女で回答に差があるものとしては、男性は女性よりも「主に男性が中心になっている活動と女性が中心になっている活動に分かれる」との割合が16%高く、30.9%となっている。
- ●女性は男性よりも、「地域活動で女性が発言することはでしゃばりだと思われが ちである」との回答が 26.1%高く 48.2%となっている。

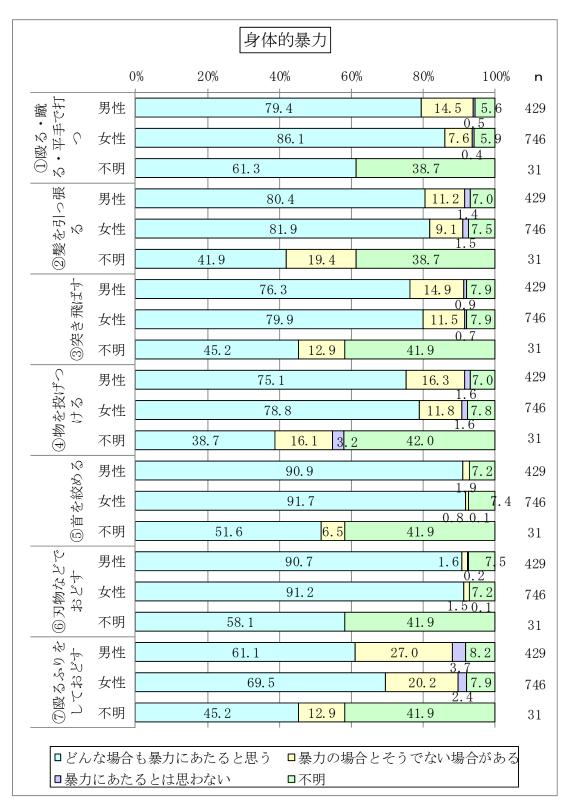
			問19付問	できにくい	と思う理由						
		合計	性のみ で、女性	決には来が切る女をく定つ、、取っの性挟い事い従男りてでがみ 項で	主がなる女心で動れ のでいたのではなる女心で動れ を はいいと中の活か はなるのである。	や皿洗い などはだな 性だる暗黙 の役割分	地で発こしだれあ 動がるでりわで	地域活動できる実施である。地域を多る実施である。地域をおりませる。地域である。地域では、地域では、地域では、地域では、地域では、地域では、地域では、地域では、	参加する 女性側の 努力がま だ足りない	その他	不明
	全体	240				1	1		8	l .	E .
		100.0%	20.4%	50.0%	19. 2%	29. 2%	40.4%	4.2%	9. 2%	5.0%	3.3%
性別	男性	68	15	36	21	16	15	0	8	4	5
		100.0%	22.1%	52.9%	30.9%	23.5%	22. 1%	0.0%	11.8%	5.9%	7.4%
	女性	168	33	81	25	52	81	10	·;•	~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~	3
		100.0%	19.6%	48.2%	14. 9%	31.0%	48. 2%	6.0%	8.3%	4.8%	1.8%
	不明	4	1	3	0	2	1	0	0	0	0
	1	100.0%	25.0%	75.0%	0.0%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

			問19付問 ~	できにくいと	に思う理由						
		合計	役員は男	決定事項	主に男性	お茶だし	地域活動	地域活動	参加する	その他	不明
			性のみ	について	が中心に	や皿洗い	で女性が	に参加で	女性側の		
			で、女性	は、従	なってい	などは女	発言する	きるよう	努力がま	8	
			の意見が	来、男性	る活動と	性だけが	ことはで	な家族の	だ足りな		
			受け入れ	が取り仕	女性が中	する暗黙	しゃばり	理解や協	い		
			られにく	切ってい	心になっ	の役割分	だと思わ	力がない			
			い	るので、	ている活	担がある	れがちで				
				女性が口	動に分か		ある		***************************************	0	
					れる		-				
				くい							
	全体	240	49	120	46	70	97	10	22	12	8
		100.0%	20.4%	50.0%	19. 2%	29. 2%	40.4%	4. 2%	9.2%	5.0%	3. 3%
年齢	20歳~29歳	6	1	4	3	1	2	0	0	0	0
		100.0%	16.7%	66. 7%	50.0%	16. 7%	33. 3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳~39歳	23	7	8	4	7	10	2	2	2	0
		100.0%	30.4%	34.8%	17.4%	30.4%	43.5%	8. 7%	8.7%	8.7%	0.0%
	40歳~49歳	41	7	20	11	14	13	0	2	2	2
	***************************************	100.0%	17.1%	48.8%	26.8%	34. 1%	31. 7%	0.0%	4.9%	4.9%	4. 9%
	50歳~59歳	61	10	32	12	19	25	3	5	3	2
	***************************************	100.0%	16.4%	52.5%	19. 7%	31.1%			8.2%	4.9%	3. 3%
	60歳~69歳	75	16	39	12	19	29		9	5	1 -1
		100.0%	21.3%	52.0%	16.0%	25. 3%	38. 7%	4.0%	12.0%	6.7%	5.3%
	70歳以上	30	7	14	4	8		2	4	0	0
		100.0%	23.3%	46. 7%	13.3%	26. 7%	56. 7%	6. 7%	13.3%	0.0%	0.0%
	不明	4	1	3	0	2	1	0	0	0	0
		100.0%	25.0%	75.0%	0.0%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

# 4. 配偶者・恋人間の暴力(DV)について

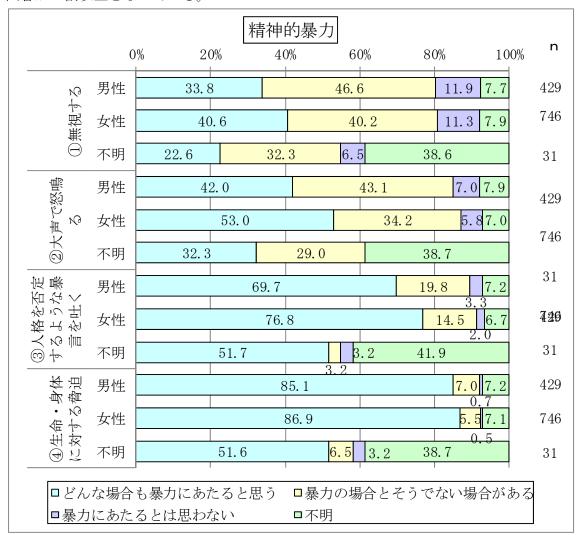
- 問 20. あなたの配偶者または恋人が、次の表にあげるようなことをした場合、あなたは、それを暴力だと思いますか。(1つに○)
  - ●身体的暴力については、各項目も「暴力にあたると思う」と回答する割合が高いが、精神的暴力では、項目によって、「暴力でない場合もある」との回答割合の方が高いものや、「暴力でない」との割合も高くなっている。
  - ●精神的暴力、性的暴力、経済的暴力、社会的暴力については、項目によって回答に差がみられる。これらの種類の暴力は、身体的暴力のように目に見える直接的な被害へ至るものが少ないため、個人の認識の差が表れていることがわかる。



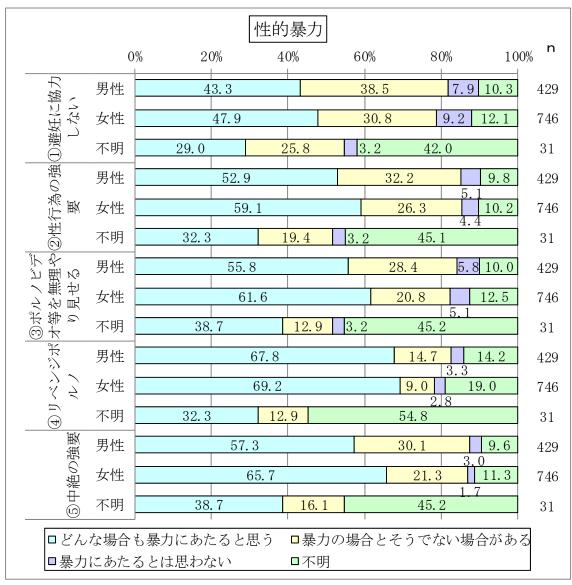


「①殴る・蹴る・平手で打つ」については、「暴力でない場合がある」との回答では、 男性の割合は女性の約2倍となっている。また、「⑦殴るふりをしておどす」について も、女性より男性の方が、「暴力でない場合がある」の回答割合が高かった。また、「⑤ 首を絞める」「⑥刃物でおどす」といったような、程度や状況によっては生死にかかわ

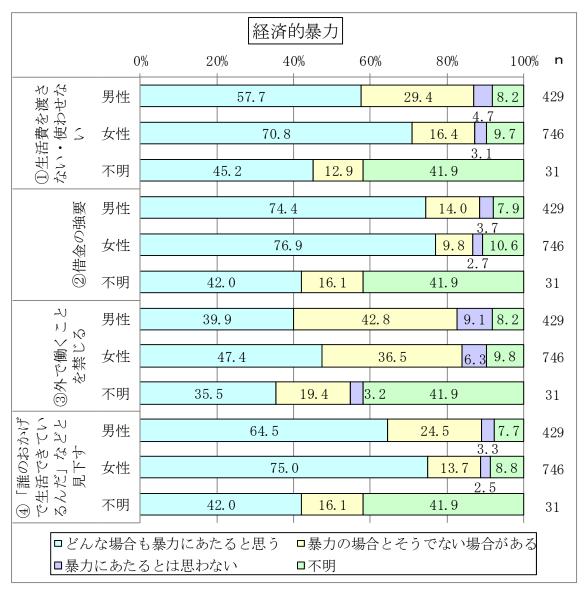
るもの、恐怖を強く感じるものに関しては、「どんな場合も暴力にあたると思う」との 回答が9割以上となっている。



「①無視する」「②大声で怒鳴る」「③人格を否定するような暴言を吐く」については、いずれも女性より男性のほうが「暴力でない場合がある」との割合が高い傾向となっている。「④生命・身体に対する脅迫」については、男女の差はみられなかった。精神的な暴力については、男性よりも女性のほうが暴力でないと感じる傾向にある。

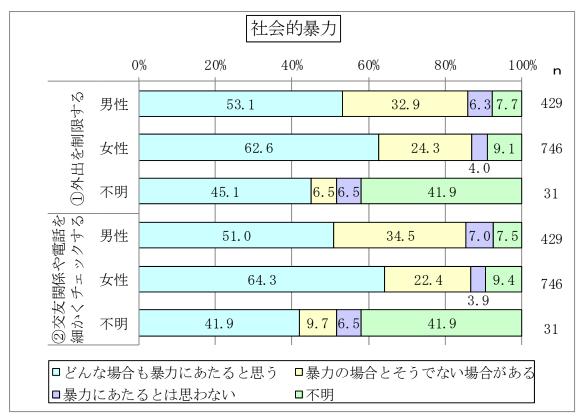


全ての項目で、女性より男性のほうが「暴力でない場合がある」との割合が高い傾向となっている。差が大きな項目は、「⑤中絶の強要」で8.8%、「①避妊に協力しない」で7.7%、「③ポルノビデオ等を無理やり見せる」で7.6%となっている。



「②借金の強要」以外の項目では、男女間の意識の差が表れている。「①生活費を渡さない・使わせない」「④「誰のおかげで生活できているんだ」などと見下す」との2つの項目では「暴力でない場合がある」との回答について、男性の回答割合は女性の2倍近い結果となっている。「③外で働くことを禁じる」については、男性は「暴力でない場合がある」との割合が、「どんな場合も暴力にあたると思う」との回答割合より高くなっている。

★経済面においては、「問 11 性別による不平等の有無」の回答結果で「賃金」の格差が 最も高い結果となっていた。賃金に対する男女間の格差があることが、経済的暴力につ ながっていくことも懸念される。

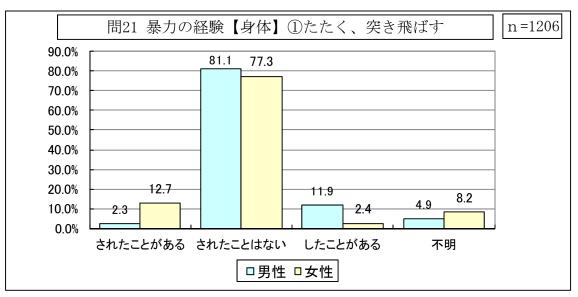


2つの項目で、男女間の意識の差がみられる。特に男性のほうが女性より「暴力でない場合がある」との割合が高くなっている。また、「②交友関係や電話を細かくチェックする」について、「暴力にあたるとは思わない」との回答が、男性は女性の約2倍となっている。

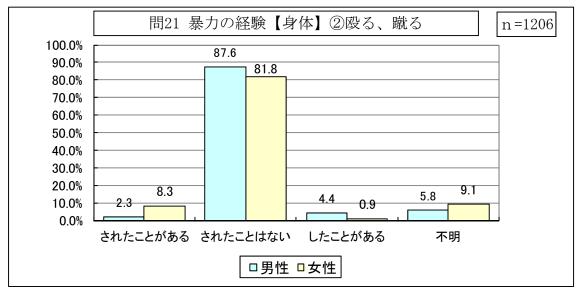


# 問 21. あなたは、配偶者または恋人などの親密な男女の関係にある人との間で、次 の項目のような経験はありますか。(○はいくつでも)

- ●男性は「されたことがない」との回答は女性よりも高い割合となる傾向がある。 女性は、「されたことがある」へ回答する割合が男性よりも高い。男性の「され たことがある」との回答は、全体的に 0%に近いものが多い。
  - ※「されたことがある」は「3年以内」「それ以前」を合算している。

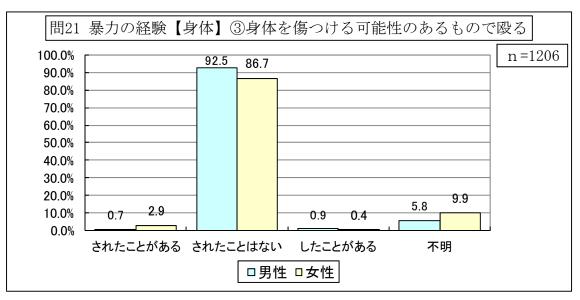


①たたく、突き飛ばすことについて、女性は「されたことがある」との回答が 12.7% となっており、男性の約 5 倍となっている。反対に男性は、「したことがある」との回答が 11.9%となっており、女性の約 5 倍となっている。

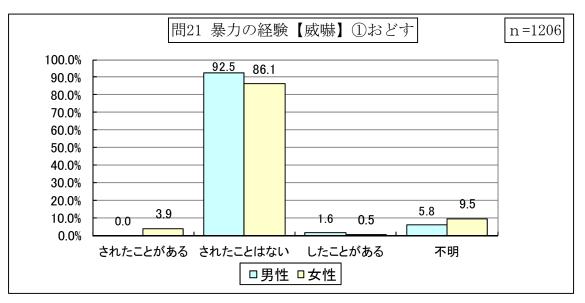


②殴る、蹴ることについて、女性は「されたことがある」との回答が 8.3%となっており、男性の約4倍となっている。

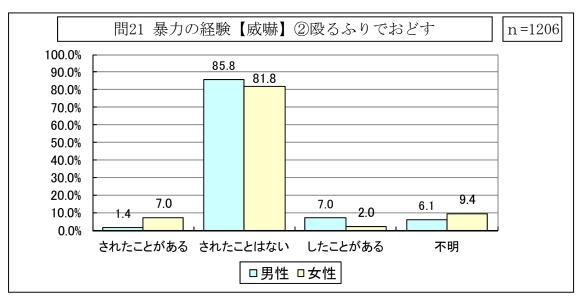
反対に男性は、「したことがある」との回答が 4.4%となっており、女性の約 5 倍となっている。



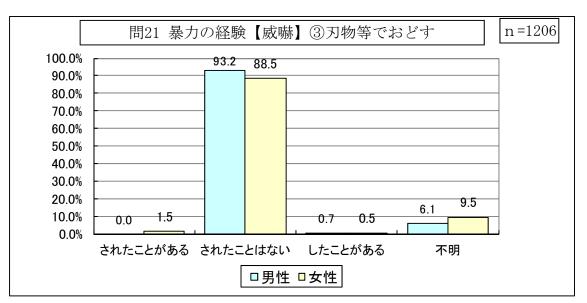
③身体を傷つける可能性のあるもので殴ることについて、男性の 92.5%が「されたことはない」と回答している。性別で大きな差はみられない。



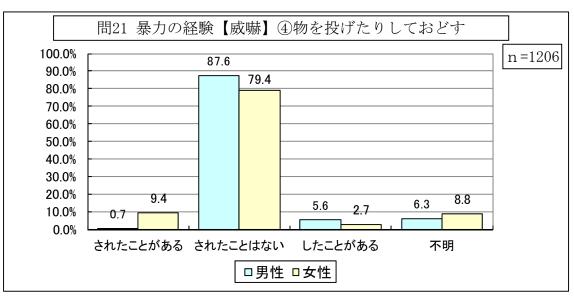
①おどすことについて、男性の92.5%が「されたことはない」と回答している。



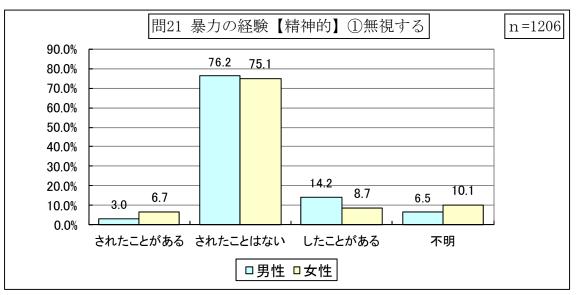
②殴るふりでおどすことについて、男性の 85.8%が「されたことはない」と回答している。また 7.0%が「したことがある」と回答している。女性の 7%が「されたことがある」と回答している。



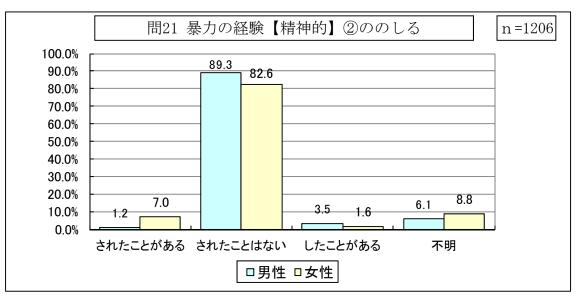
③刃物等でおどすことについて、性別で大きな差はみられない。



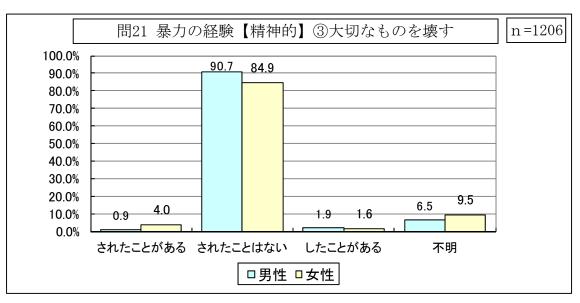
①物を投げたりしておどすことについて、女性の約9%が「されたことがある」と回答している。



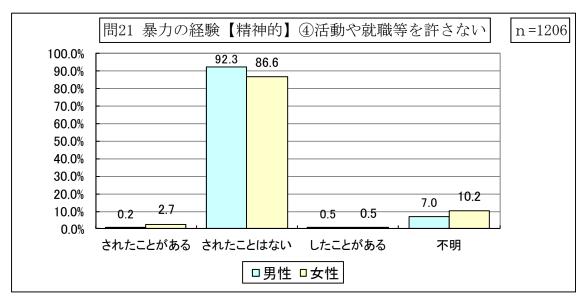
①無視することについて、男性の 14.2%が「したことがある」と回答しており、女性の約2倍となっている。



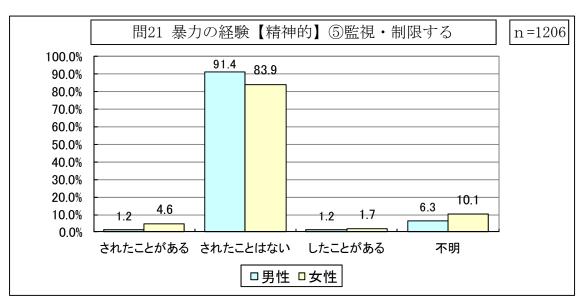
②ののしることについて、男性は、89.3%が「されたことはない」と回答している。女性の7%が「されたことがある」と回答している。



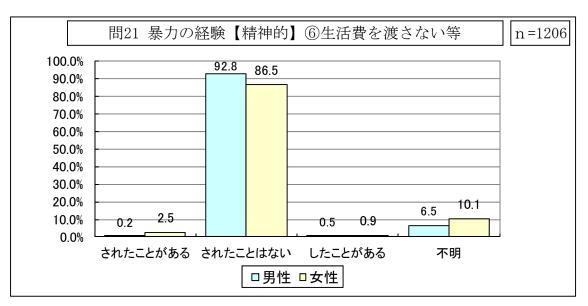
③大切なものを壊すことについて、性別で大きな差はみられない。



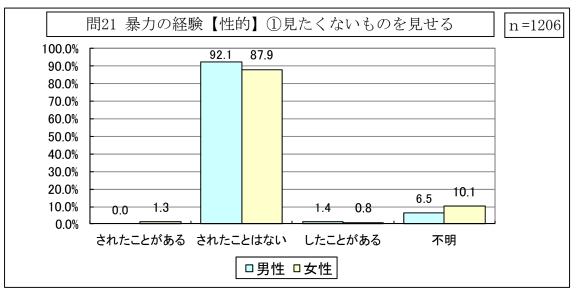
④活動や就職等を許さないについて、性別で大きな差はみられない。



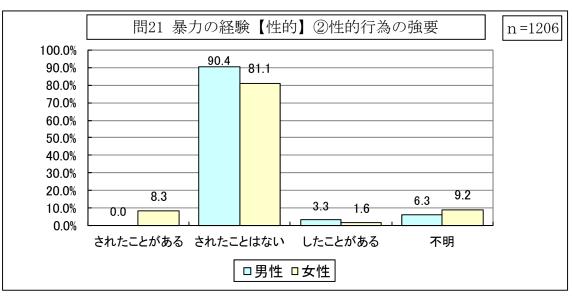
⑤監視、制限することについて、男性の9割が「されたことはない」と回答している。 女性の約3%が、「されたことがある」と回答している。



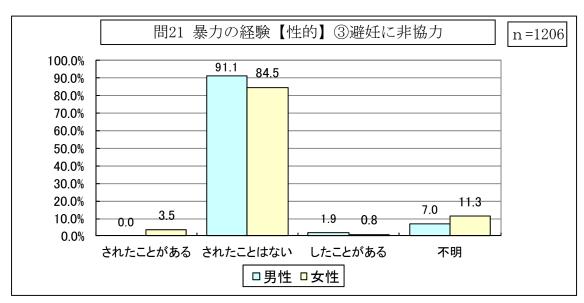
⑥生活費を渡さない等について、性別で大きな差はみられない。



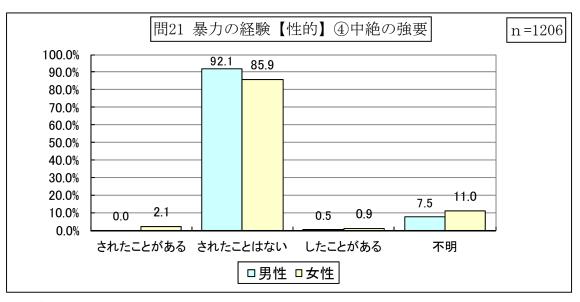
①見たくないものを見せることについて、性別で大きな差はみられない。



②性的行為の強要について、男性は「されたことはない」との回答が 90.4%で女性よりも1割程度高い。女性の約8割が、「されたことがある」と回答している。男性と女性で差がみられる。



③避妊に非協力について、「されたことがある」については、男性は、0%となっている。 女性は若干の回答がみられる。



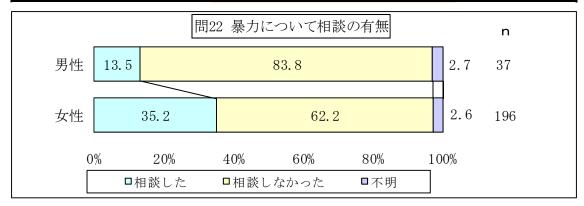
④中絶の強要について、男性の約9割が「されたことはない」と回答している。



# 問 22. 問 21 で「されたことがある」と回答した方にお聞きします。あなたは、その受けた行為について誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(1つに○)

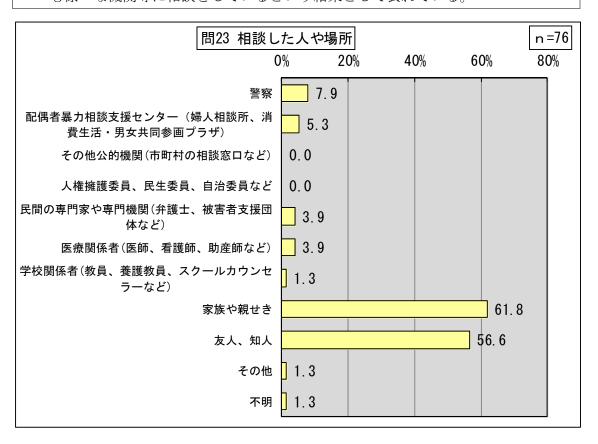
- ●全体では、「相談しなかった」が最も高く65.2%となっている。
- ●男性と女性の差を見ると、女性は「相談した」との回答が男性よりも 21.7%高く回答しており、35.2%となっている。
- ●男性は「相談しなかった」との回答が女性よりも 21.6%高く回答しており、83.8%となっている。「相談した」との回答は、約1割となっている。

			問22 暴力につい	て相談の有無	
		合計	相談した	相談しなかった	不明
	全体	238	76	155	7
		100.0%	31.9%	65. 2%	2.9%
性別	男性	37	5	31	1
		100.0%	13.5%	83.8%	2.7%
	女性	196	69	122	5
		100.0%	35. 2%	62.2%	2.6%
	不明	5	2	2	1
		100.0%	40.0%	40.0%	20.0%

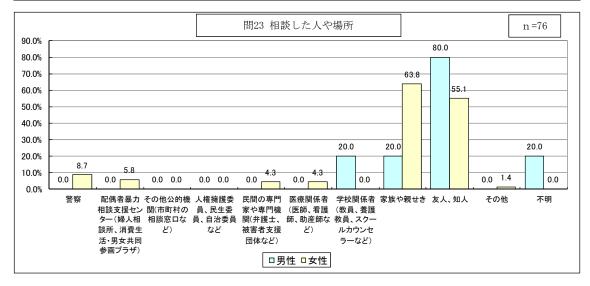


# 問 23. 問 22 で「1. 相談した」と答えた方にお聞きします。あなたが相談した人(場所)を教えてください。(○はいくつでも)

- ●全体では、「家族や親せき」が最も高く 61.8%、次いで「友人、知人」が 56.6% となっている。
- ●男性は「友人、知人」と回答した人が多く、女性は、「家族や親戚」と回答した人が多い。男性より女性の方が回答者数が多く、そのため女性の方が男性よりも様々な機関等に相談をしているという結果として表れている。



			問23 相談	した人や場	: 所								
		슴計	警察	配偶者暴 力相談支 援セン	の他公 の機関 (市町村 の相談窓 口など)	委員、民 生委員、 自治委員 など	門家や専 門機関 (弁護	医療関係 者(医 師、看護 師、助産 師など)		家族や親 せき	友人、知人	その他	不明
	全体	76	6	4	0	0	3	3	1	47	43	1	1
		100.0%	7.9%	5.3%	0.0%	0.0%	3.9%	3.9%	1.3%	61.8%	56.6%	1.3%	1.3%
性別	男性	5	0	0	0	0	0	0	1	1	4	0	1
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	20.0%	80.0%	0.0%	20.0%
	女性	69	6	4	0	0	3	3	0	44	38	1	0
		100.0%	8.7%	5.8%	0.0%	0.0%	4.3%	4.3%	0.0%	63.8%	55.1%	1.4%	0.0%
	不明	2	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	50.0%	0.0%	0.0%



# 問 24. 問 22 で「2. 相談しなかった」と答えた方にお聞きします。あなたが、誰(どこ)にも相談しなかったのはなぜですか。(○はいくつでも)

- ●全体では、「自分にも悪いところがあると思った」が最も高く 39.4%、次いで「相談するほどのことではないと思った」が 33.5%、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思った」が 31.0%となっている。
- ●男性と女性の差を見ると、男性が女性よりも高い割合であった項目は「他人を 巻き込みたくなかった」が 17.6%、「相談するほどのことではないと思った」 が 14.1%、「相談しても無駄だと思った」が 6.8%となっている。
- ●女性のみ「相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を 受けると思った」「相手と別れた後の自立に不安があったから」との回答が得ら れている。

			問24 相談	しなかった	理由						
		合計	誰(ど	恥ずかし	相談して	相談した	配偶者、	相談相手	自分さえ	世間体が	他人を巻
			こ) に相	くて誰に	も無駄だ	ことがわ	恋人など	の言動に	我慢すれ	悪い	き込みた
			談してよ	も言えな	と思った	かると、	に「誰に	よって不	ば、なん		くなかっ
			いのかわ	かった		仕返しを	も言う	快な思い	とかこの		た
			からな			受けた	な」と脅	をさせら	ままやっ		
			かった			り、もっ	された	れると	ていける		
						とひどい		思った	と思った		
						暴力を受					
						けると					
						思った					
	全体	155	10	30	47	9	0	1	48	16	18
		100.0%	6. 5%	19.4%	30.3%	5.8%	0.0%	0.6%	31.0%	10.3%	11.6%
性別	男性	31	1	5	11	0	0	0	10	4	8
		100.0%	3. 2%	16. 1%	35.5%	0.0%	0.0%	0.0%	32. 3%	12.9%	25.8%
	女性	122	9	25	35	9	0	1	36	12	10
		100.0%	7.4%	20.5%	28.7%	7.4%	0.0%	0.8%	29.5%	9.8%	8.2%
	不明	2	0	0	1	0	0	0	2	0	0
		100.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%

			問24 相談	しなかった	理由						
		合計	他人に知	そのこと	自分にも	相手の行	相手と別	相談する	それがDV	その他	不明
			られる	について	悪いとこ	為は愛情	れた後の	ほどのこ	(暴力)		
			と、これ	思い出し	ろがある	の表現だ	自立に不	とではな	だと思わ		
				たくな	と思った	と思った	安があっ	いと思っ	なかった		
			の付き合	かった			たから	た			
			い(仕事				(経済的				
			や学校、				なこと、				
			地域など				子どもの				
			の人間関				ことな				
			係)がで				ど)				
			きなくな								
			ると思っ								
			た								
	全体	155	ı		3	11	8	3	16	8	5
	I m	100.0%					8			7.1%	3. 2%
性別	男性	31	_	_	13	ž.	0		1	4	3
		100.0%		***************************************	(ORCONOCIONOS ROCORDO		<del>*************************************</del>	·	6.5%	\$	9. 7%
	女性	122		1	47	10	1		14	8	2
		100.0%		†	38. 5%	8.2%	·	<u> </u>	11.5%	ş	***************************************
	不明	2	0	· ·	1	0	1	-	0	0	Ŭ
		100.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

- 問 25. 配偶者や恋人間(こいびとかん)の暴力を防止するためにはどのようなことが 必要だと思いますか。(○はいくつでも)
  - ●全体では、「家庭で保護者が子どもに対し、暴力がいけないことを教える」が最も高く 66.3%、次いで「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」が 57.3%となっている。
  - ●男性と女性の差を見ると、男性は「加害者への罰則を強化する」との回答が女性よりも 6.3%高く、40.1%となっている。

			問25 DV	防止に必要	なこと								
		合計		メディア		加害者へ	暴力をふ	暴力を助	地域で、	被害者が	被害者を	その他	不明
			護者が子	を活用し	は大学で	の罰則を	るったこ	長するお	暴力を防	早期に相	発見しや		
			どもに対	て広報・	児童・生	強化する	とがある	それのあ	止するた	談できる	すい立場		
					徒・学生		者に対	る情報	めの研修	よう、身	にある警		
			がいけな	を積極的	に対し、		し、二度	(雑誌、	会、イベ	近な相談	察や医療		
			いことを		暴力を防		と繰り返		ントなど	窓口を増	関係者に		
			教える		止するた		さないた		を行う	やす	対し、研		
					めの教育		めの教育				修や啓発		
					を行う			ど)を取			を行う		
								り締まる					
	全体	1206				429		)			319	29	
		100.0%										2.4%	16.8%
性別	男性	429			1	E I	E I		1	241	118	14	
		100.0%	66. 2%	15.9%	46.6%	40.1%	26.3%	21.7%	12.6%	56.2%	27.5%	3.3%	14. 9%
	女性	746	507		t .	t I	211	t .	t .	439	1	15	
		100.0%	68.0%	20.4%	46.2%	33.8%	28.3%	23.2%	7.9%	58.8%	26. 7%	2.0%	16.4%
	不明	31	9		6	5	1 -	4	3	11	2	0	
		100.0%	29.0%	9. 7%	19.4%	16.1%	12.9%	12.9%	9.7%	35. 5%	6.5%	0.0%	54.8%

# 5. 人権について

- 問 26. あなたは、これまでに次のような行為を職場の上司・同僚、学校やサークルなどの指導者・関係者、近所や地域などで付き合いのある人にしたり、されたりしたことはありますか。相手について、異性および同性に関係なくお答えください。(○はいくつでも)
  - ●セクハラについては、「されたことがある(3 年以内、それ以前の合計)」の回答は、男性より女性の方が回答割合が高い傾向にある。
  - ●ストーカーについては、セクハラほど「されたことがある」の割合が高くはないが、「つきまとい・まちぶせ」「無言電話」の 2 つの項目で主に女性の回答がみられた。
  - ●性的被害については、「されたことがない」の回答が多数を占め、性別による差もみられなかった。
  - ●全体的に「されたことがある」との回答は低い割合である。特に性的被害については回答割合が低い。しかし、これらの各項目において、「されたことがある」という回答が若干名でも存在していることも見逃してはならないことである。

【セクハラ】		合計	3年以内	それ以前	ない	したことが	不明
						ある	, ,,
①「男のくせに」「女のく	全体	1206	12	31	1009	23	135
せに」等の発言		100.0%	1.0%	2.6%	83. 7%	1.9%	11. 2%
	男性	429	6	5	375	15	31
		100.0%	1.4%	1.2%	87.4%	3.5%	7.2%
	女性	746	6	26	616	8	91
		100.0%	0.8%	3.5%	82.6%	1.1%	12.2%
	不明	31	0	0	18	0	13
		100.0%	0.0%	0.0%	58. 1%	0.0%	41. 9%
②結婚はまだ?等を聞かれ	全体	1206	30	75		31	135
る		100.0%	2. 5%	6.2%		2.6%	11. 2%
	男性	429	8	9	359	21	34
		100.0%	1.9%	2.1%	83. 7%	4.9%	7.9%
	女性	746	22	64		9	87
		100.0%	2. 9%	8.6%	<u> </u>		11. 7%
	不明	31	0	2	14		14
	A //-	100.0%	0.0%	6. 5%	45. 2%	3. 2%	45. 2%
③性的なこと言う	全体	1206	23	52	983	16	133
	田址	100.0%	1. 9%	4.3%	81. 5%	1. 3% 12	11.0%
	男性	429	1. 2%	0.5%	378		33
	女性	100.0% 746	1.2%	0. 5% 49	88. 1% 587	2.8% 4	7. 7% 88
	女注	100.0%	2. 4%	6. 6%		0. 5%	
	不明	31	2. 4/0	1	18	0.3%	11. 6/0
	1.01	100.0%	0.0%	3. 2%		0.0%	38. 7%
④性的なうわさを流す	全体	1206	8	19		9	134
SIZE O WO C E ME O		100.0%	0. 7%	1.6%		0.7%	11. 1%
	男性	429	2	2	388	4	34
		100.0%	0. 5%	0.5%		0. 9%	7. 9%
	女性	746	6	17	631	5	87
		100.0%	0.8%	2.3%	84.6%	0.7%	11.7%
	不明	31	0	0	§		13
		100.0%	0.0%	0.0%	58. 1%	0.0%	41.9%

【セクハラ】		合計	3年以内	それ以前	ない	したことがある	不明
⑤異性の容姿等を話題にす	全体	1206	11	36		37	
S	男性	100.0% 429	0.9%	3.0%			
		100.0%	_	· ·	£		
	女性	746 100. 0%	9 1. 2%	30 4. 0%	8	1	1
	不明	31	1. 2%	4.0%		1.0%	
		100.0%	0.0%				
⑥ヌード写真等を見せる	全体	1206 100.0%	0 0. 0%	7 0. 6%	2000		
	男性	429	0.0%	1	391	4	33
	1.11.	100.0%	0.0%	1	·	<del> </del>	7
	女性	746 100. 0%	0 0. 0%	6 0.8%	0.10	B .	90 12. 1%
	不明	31	0	0		1	1
同校は然でい事故さみ悪土	<u> </u>	100.0%	0.0%				
⑦接待等でお酌等を強要する	至仲	1206 100.0%	8 0. 7%	1		B .	
	男性	429	1	3	382	9	34
	女性	100.0%	0.2%		y		k
	女性	746 100. 0%	0.9%	54 7. 2%		4 0. 5%	
	不明	31	0	2	17	0	12
8さわる、抱きつく	全体	100.0%	0.0%	6.5%	8	0.0%	8
回さわる、担きづく	王仲	1206 100. 0%	1.6%	80 6. 6%		11 0. 9%	I .
	男性	429	1	2	384	9	33
	女性	100.0% 746	0. 2% 18	0. 5% 76	(		·
	女庄	100.0%	2.4%				
	不明	31	0	2	17	0	10
9地位を利用して性的関係	全休	100.0% 1206	0.0%	6. 5%	8		8
を迫る		100.0%	0. 2%	0.8%	87. 5%	0. 2%	
	男性	429	0	1	392		
	女性	100.0% 746	0.0%	0.2%	(		7. 9% 89
		100.0%	0.3%	1.2%	86. 5%	0.1%	R .
	不明	31 100.0%	0.0%	0.0%			
		= /-				0.070	1100/0
【ストーカー】		合計	3年以内	それ以前	ない	したことが ある	BED.
①つきまとい・まちぶせ	全体	1206 100.0%	3 0. 2%	37 3. 1%	E .		E .
	男性	429	1	2		2	33
	-L. htla	100.0%	0. 2%	0. 5%		*	
	女性	746 100.0%	2 0. 3%	35 4. 7%		5	85 11. 4%
	不明	31	0	0	k .		5
②盗聴・盗撮	全体	100.0% 1206	0.0%	0.0%	8	0.0%	
<b>公</b>	土件	100.0%	0.1%	0.5%		0.2%	I .
	男性	429	0	0	395	1	33
	女性	100.0% 746	0. 0% 1	0.0% 6		3	7. 7% 90
	女圧	100.0%	0. 1%	0.8%		8	
	不明	31	0	0	18	0	13
		100.0%	0.0%	0.0%	58. 1%	0.0%	41.9%

【ストーカー】		合計	3年以内	それ以前	ない	したことが	不明
		[ [ ] [ ] [ ]	3十以四	ても以削	, , ,	ある	∠I\ <del>1</del> 97
③無言電話	全体	1206	10	61	999	5	131
0 灬 日 电阳		100.0%	0.8%		E .	0. 4%	1
	男性	429	2	5. 170	388	1	33
	/ <b>J</b> 1 <u>1</u>	100.0%	0.5%	1. 2%	E .	0. 2%	7. 7%
	女性	746	8	55	594	4	85
	<i>y</i> ., <u>—</u>	100.0%	1.1%	7.4%	79. 6%	0. 5%	11.4%
	不明	31	0	1	17	0	13
		100.0%	0.0%	3. 2%	54.8%	0.0%	41. 9%
④敷地内・家宅侵入	全体	1206	3	12	1054	2	135
		100.0%	0.2%	1.0%	87.4%	0.2%	11. 2%
	男性	429	1	0	394	1	33
		100.0%	0.2%	0.0%	91.8%	0. 2%	7. 7%
	女性	746	2	12	643	1	88
		100.0%	0.3%	1.6%	86. 2%	0.1%	11.8%
	不明	31	0	0		0	14
○ ファン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	^ <i>I</i>	100.0%	0.0%	0.0%	54. 8%	0.0%	45. 2%
⑤不審な言動・行動	全体	1206	9	14	1047	2	135
	男性	100.0% 429	0.7%	1. 2%	86. 8% 393	0. 2%	11. 2% 33
	为1生	100.0%	0.5%	0. 2%	91. 6%	0. 2%	33 7. 7%
	女性	746	0. 5% 7	13	637	0. 2% 1	1. 1% 88
	女压	100.0%	0.9%	1. 7%	85. 4%	0.1%	11. 8%
	不明	31	0. 3/0	1. 7/0	<u> </u>	0.1%	14
	1.51	100.0%	0.0%	0.0%		0.0%	45. 2%
⑥不審なメール等	全体	1206	9	14	8	3	134
		100.0%	0.7%	1. 2%		0. 2%	11. 1%
	男性	429	2	1	393	1	33
		100.0%	0.5%	0.2%	91.6%	0.2%	7. 7%
	女性	746	7	13	637	2	87
	200000000000000000000000000000000000000	100.0%	0.9%	1.7%	85.4%	0.3%	11. 7%
	不明	31	0	0		0	14
		100.0%	0.0%	0.0%		0.0%	45. 2%
⑦罵倒・脅迫	全体	1206	7	17	1043	4	136
		100.0%	0.6%	1.4%	86. 5%	0.3%	11. 3%
	男性	429	3	2	389	3	33
		100.0%	0.7%	0.5%	90. 7%	0.7%	7.7%
	女性	746	4 0. 5%	15		0.1%	89 11 0%
	不明	100.0% 31	0.5%	2.0%	85. 4% 17	0.1%	11. 9% 14
	√1,6/1	100.0%	0.0%	0.0%		0.0%	45. 2%
		100.0%	0.0%	0.0%	54.8%	0.0%	45. 2%

【性的被害】		合計	3年以内	それ以前	ない	したことが	不明
		ПВ	0 1 2/1 1	C 4 0 5 (1) 1	.6.4	ある	1 21
①ビラまき	全体	1206	1	2	1068	2	134
		100.0%	0.1%	0. 2%	88.6%	0. 2%	11. 1%
	男性	429	1	1	394	1	33
		100.0%	0.2%	0.2%	91.8%	0.2%	7. 7%
	女性	746	0	1	657	1	87
	600000000000000000000000000000000000000	100.0%	0.0%	0.1%	88.1%	0.1%	11.7%
	不明	31	0	0	17	0	14
		100.0%	0.0%	0.0%	54.8%	0.0%	45. 2%
②暴行	全体	1206		6	1062	2	136
		100.0%	0.1%	0.5%	88. 1%	0. 2%	11. 3%
	男性	429	1	1	394	1	33
	***************************************	100.0%	0.2%	0.2%	91.8%	0.2%	
	女性	746		5	651	1	89
		100.0%	0.0%	0.7%	87.3%	0.1%	11.9%
	不明	31	0	0	17	0	14
0 10 19 11		100.0%		0.0%		0.0%	
③SNS等に投稿	全体	1206		1	1043	2	159
		100.0%	0.1%	0.1%	8	0. 2%	8
	男性	429	0	0	387	1	41
		100.0%	***************************************	0.0%	k	0. 2%	9.6%
	女性	746		1	639	1	104
	***************************************	100.0%			<u> </u>	0.1%	
	不明	31	0	0	17	0	14
		100.0%	0.0%	0.0%	54. 8%	0.0%	45. 2%

- 問 27. 問 26 で「されたことがある」と回答した方にお聞きします。あなたは、その受けた行為について誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(1 つに〇)
  - ●全体では、「相談しなかった」が最も高く59.8%となっている。
  - ●男性と女性の差を見ると、女性は「相談した」との回答が男性よりも 34.8%高く回答しており、40.5%となっている。
  - ●男性は「相談しなかった」との回答が女性よりも37.3%高く、約9割の男性が相談していない。

			問27 人権侵害につ	ついて相談の有無	
		合計	相談した	相談しなかった	不明
	全体	224	78	134	12
		100.0%	34.8%	59.8%	5.4%
性別	男性	35	2	32	1
		100.0%	5. 7%	91.4%	2.9%
	女性	185	75	100	10
		100.0%	40.5%	54. 1%	5.4%
	不明	4	1	2	1
		100.0%	25.0%	50.0%	25.0%

問 28. 問 27 で「1. 相談した」と答えた方にお聞きします。あなたが相談した人(場所)を教えてください。(○はいくつでも)

●全体では、「友人、知人」が最も高く 57.7%、次いで「友人、知人」が 43.6% となっている。

			問28 相談	した人や	揚所							
		合計	警察	配偶者暴	その他公	民間の専	上司、同	医療関係	友人、知	家族や親	その他	不明
				力相談支				者(医	Α	せき		
				接セン				師、看護				
					の相談窓			師、助産				
				人相談		士、被害		師など)				
				所、消費		者支援団						
				生活・男		体など)						
				女共同参		9						
				画プラ		9						
				ザ)								
	全体	78	15	1	3	3	15	1	45	34	2	0
		100.0%	19. 2%	1.3%	3.8%	3.8%	19. 2%	1.3%	57.7%	43.6%	2.6%	0.0%
性別	男性	2	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0
		100.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	女性	75	15	1	2	3	14	1	44	33	2	0
		100.0%	20.0%	1.3%	2.7%	4.0%	18.7%	1.3%	58. 7%	44.0%	2.7%	0.0%
	不明	1	0	0	0	0	1	0	0		0	0
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%

- 問 29. 問 27 で「2. 相談しなかった」と答えた方にお聞きします。あなたが、誰(どこ)にも相談しなかったのはなぜですか。(○はいくつでも)
  - ●全体では、「相談するほどのことではないと思った」が最も高く 54.5%となっている。また女性より男性の方が割合が高い。

			問29 相認	炎しなかっ	た理由											
		合計	誰(ど	恥ずか	相談し	相談し		自分さ			思い出	自分に	相談す	セクハ	その他	不明
			こ) に	しくて	ても無	たこと	手の言	え我慢	が悪い	巻き込	したく	も悪い	るほど	ラ・ス		
			相談し				動に	すれ		みたく	なかっ		のこと	トー		
			てよい	言えな	思った	ると、	よって	ば、な		なかっ	た	がある	ではな	カー・		
				かった		しつこ	不快な	んとか		た		と思っ	いと	性的被		
			からな				思いを	このま				た	思った	害だと		
			かった			と思っ		まやっ						は思わ		
							れると	ていけ						なかっ		
							思った	ると 思った						た		
	全体	134	20	15	58	10		38	9	9	14	11	73	8	11	0
		100.0%	14.9%	11.2%	43.3%	7. 5%	9.0%	28.4%	6.7%	6.7%	10.4%	8.2%	54.5%	6.0%	8.2%	0.0%
性別	男性	32	3	3	11	4	6	7	4	4	5	6	20	2	3	0
		100.0%	9.4%	9.4%	34.4%	12.5%	18.8%	21.9%	12.5%	12.5%	15.6%	18.8%	62.5%	6.3%	9.4%	0.0%
	女性	100	17	12	45	i	5	31	5	-		-		3		0
		100.0%	17.0%	·			5.0%	31.0%	5.0%	5.0%	·	g	~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~	6.0%	8.0%	0.0%
	不明	2	0		2	-	1	0	0	0	0	3		0	0	0
		100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

- 問30. テレビ、新聞、雑誌、インターネットなどメディアでの、「男は仕事、女は家庭」などの固定的性別役割分担の表現や暴力、性の表現について、あなたはどのようにお考えですか。(○はいくつでも)
  - ●全体では、「子どもが性についてゆがんだ意識を持つおそれがある」が最も高く 29.4%となっている。
  - ●女性は「性別によって役割を固定する表現や女性に対する暴力・性の表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」との回答が最も高く33.0%となっており、男性よりも約1割高くなっている。

			BB 00 2 2 2	1	- m	mil Zhielsi Al Ja	n + ru : -	· · · -				
					]固定的性							
		合計	女性の身	社会全体	女性に対	子どもが	女性や男	性別に	その他	特にない	わからな	不明
			体や姿態	の性に関	する犯罪	性につい	性のイ	よって役			い	
			を過度に		を助長す	てゆがん	£ .	割を固定				
				観・倫理		だ意識を		する表現				
					R .	持つおそ	3					
			き過ぎた	う表現を		れがある	現をして	対する暴				
			表現が目	している			いる	力・性の				
			立つ					表現を望				
								まない人				
								や子ども				
								の目に触				
								れないよ				
								うな配慮				
								が足りな				
								<b>V</b> )				
	全体	1206	302	252	224	355	163	351	15	172	180	209
		100.0%	25.0%	20.9%	18.6%	29.4%	13.5%	29.1%	1. 2%	14. 3%	14.9%	17. 3%
性別	男性	429	104	102	80	133	65	101	7	70	52	66
		100.0%	24. 2%	23.8%	18.6%	31.0%	15. 2%	23.5%	1.6%	16.3%	12.1%	15.4%
	女性	746	194	150	Ž	R		***************************************	·	g		ç
	[	100.0%	26.0%	20.1%	18.6%			33.0%	1.1%	13.4%	8	1
	不明	31	4	0		·	4	4	0	}	3	j
		100.0%	12.9%	0.0%	16.1%	22.6%	12.9%	12.9%	0.0%	6.5%	9.7%	

- 問 31. セクハラ・ストーカー・性的被害等を防止するためにはどのようなことが必要だと思いますか。(○はいくつでも)
  - ●全体では、「学校で児童・生徒・学生に対し、人権問題や犯罪を防止するための教育を行う」が最も高く 59.6%となっている。
  - ●男性と女性の差を見ると、男性は「職場などで、性別に由来する人権問題に関わる啓発を行う」との回答が女性よりも 5.1%高く回答しており、24.7%となっている。

			問31 セク	ハラ・スト	<u>、一カー・</u>	性的被害防	が止に必要が	なこと						
		合計	家庭で保	学校で児	職場など	地域で、	メディア	加害者に	加害者へ	犯罪を助	被害者が	被害者を	その他	不明
			護者が子	童・生	で、性別	防止啓発	を活用し	対し、二	の罰則を	長するお	早期に相	発見しや		
			どもに対	徒・学生	に由来す	のための	て、広	度と繰り	強化する	それのあ	談できる	すい立場		
			し、人権	に対し、	る人権問	研修会、	報・啓発	返さない		る情報	よう、身	にある警		
							活動を積					察や医療		
							極的に行					関係者に		
			するため			5	5	17.017		ピュータ		対し、研		
			の教育を		1.0					ソフトな		修や啓発		
				育を行う						ど)を取		を行う		
				13 0 11 /						り締まる		0.10		
	全体	1206	622	719	254	137	263	390	614		701	350	24	109
		100.0%	51.6%	59.6%	21.1%	11.4%	21.8%	32.3%	50.9%	34. 2%	58. 1%	29.0%	2.0%	
性別	男性	429	216	251	106	51	90	134	227	127	238	127	10	35
		100.0%	50.3%	58. 5%	24.7%	11.9%	21.0%	31.2%	52.9%	29.6%	55. 5%	29.6%	2.3%	8.2%
	女性	746	398	458	146	80	171	251	376	277	455	220	14	59
	i	100.0%	53.4%	61.4%	19.6%	10.7%	22.9%	33.6%	50.4%	37.1%	61.0%	29.5%	1.9%	7.9%
	不明	31	8	10	2	6	2	5	3	•	8	3	·	15
	1	100.0%	25. 8%			19.4%	6.5%				25. 8%			

- 問 32. 妊娠・出産を担う女性は、男性とは異なった体や心の問題に直面することがありますが、女性が生涯にわたり心身ともに健康であるために、どのようなことが大事だと思いますか。(○はいくつでも)
  - ●全体では、「ライフステージに合わせた健康づくりの推進」が最も高く 50.4% となっている。
  - ●男性と女性の差を見ると、男性は「成人以降のライフステージに応じた健康に関する情報や学習機会などの提供」との回答が女性よりも 4.5%高く、21.0% となっている。
  - ●女性は「自分の健康を保持促進するために、自ら運動等を行う習慣を持つこと」 との回答が男性よりも8.5%高く、50.0%となっている。

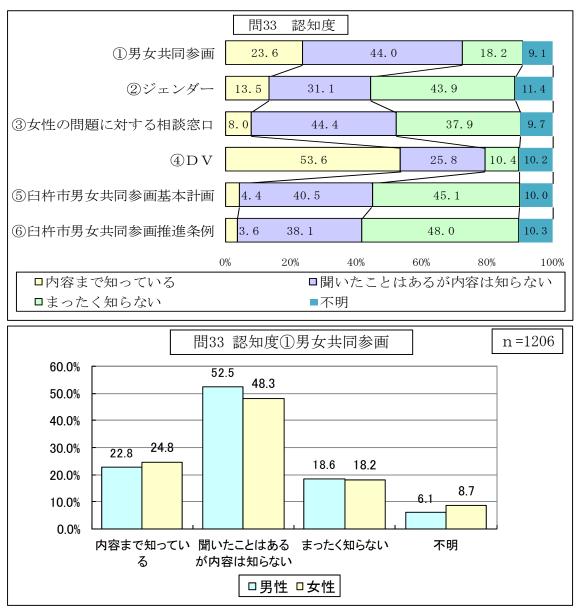
				問32 女性	が生涯にオ	<u>&gt;たり心身</u>	ともに健康	であるため	りに大事な	こと						
			合計		成人以降			女性が性	受診機会	心身にわ	不妊に関	学校にお	その他	特にな	わから	不明
				テージ	のライフ	康を保持	産・避	生活につ	の少ない	たる様々	する悩み	ける人権		い	ない	
				(思春	ステージ			いて、主		な悩みに	に専門的	尊重及び				
				期、妊	に応じた	ために、	絶・性感	体的・総	健康診断	対応する	に対応す	健康の視				
					健康に関		染症など			相談体制	る相談機	点に立っ				
					する情報					の充実	関の充実					
					や学習機		情報提供					の実施				
					会などの	つこと		ること	くり							
				わせた健	提供											
				康づくり												
				の推進												
	全	体	1206	608	216	557	319	339	468	425	277	391	19	21	59	115
			100.0%	50.4%	17.9%	46. 2%	26. 5%	28. 1%	38.8%	35. 2%	23.0%	32.4%	1.6%	1.7%	4.9%	9.5%
性另	月 男	性	429	209	90	178	115	113	165	142	99	137	8	8	32	42
			100.0%	48.7%	21.0%	41.5%	26.8%	26.3%	38.5%	33.1%	23.1%	31.9%	1.9%	1.9%	7.5%	
	女	性	746	391	123	373	200	220	294	274	176	250	11	12	26	59
			100.0%	52.4%	16.5%	50.0%	26.8%	29.5%	39.4%	36. 7%	23.6%	33.5%	1.5%	1.6%	3.5%	7.9%
	不	明	31	8	3	6	4	6	9	9	2	4	0	1	1	14
			100.0%	25.8%	9.7%	19.4%	12.9%	19.4%	29.0%	29.0%	6.5%	12.9%	0.0%	3. 2%	3.2%	45.2%

# 6. 男女共同参画社会の実現とDV防止について

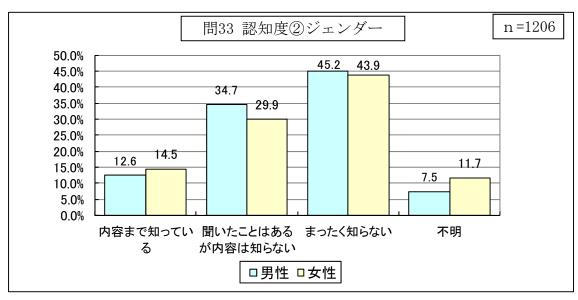
問33. あなたは次にあげることについて知っていますか。(1つに○)

- ①男女共同参画
- ②ジェンダー (社会的・文化的につくられた性別)
- ③女性の問題に対する相談窓口 (臼杵市役所 同和人権対策課)
- ④DV (夫婦・恋人間(こいびとかん)の暴力)
- ⑤臼杵市男女共同参画基本計画
- ⑥臼杵市男女共同参画推進条例
- ●「DV」が最も認知度が高く、53.6%が「内容まで知っている」と回答している。「聞いたことがある」を含めると、約8割が「聞いたことがある」「知っている」と回答している。
- ●「女性の問題に対する相談窓口」がその次に「知っている」「聞いたことがある」 との回答割合が高い項目となっている。

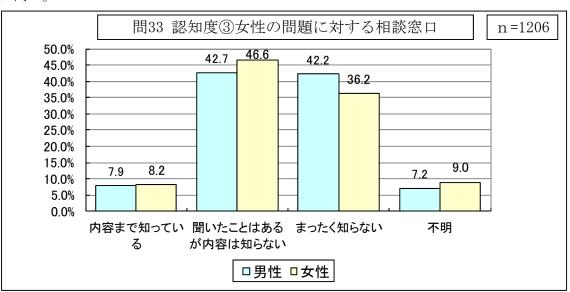
	全体	内容まで	聞いたこ	まったく	不明
	1-111		とはある	知らない	' ' ' '
		ス る	が内容は	J 3 54 1	
		0	知らない		
①男女共同参画	1206	285	591	220	110
	100.0%	23.6%	49.1%	18.2%	9.1%
②ジェンダー	1206	163	375	530	138
	100.0%	13.5%	31.1%	44.0%	11.4%
③女性の問題に対する相談窓口	1206	96	536	457	117
	100.0%	8.0%	44.4%	37.9%	9. 7%
<b>4</b> DV	1206	647	311	125	123
	100.0%	53.6%	25.8%	10.4%	10. 2%
⑤臼杵市男女共同参画基本計画	1206	53	489	544	120
	100.0%	4.4%	40. 5%	45. 1%	10.0%
⑥臼杵市男女共同参画推進条例	1206	44	459	579	124
	100.0%	3.6%	38.1%	48.0%	10.3%



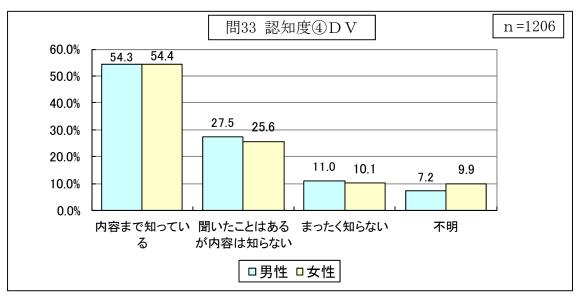
①「男女共同参画」について、女性より男性の方が「聞いたことがある」と回答した割合が高い。



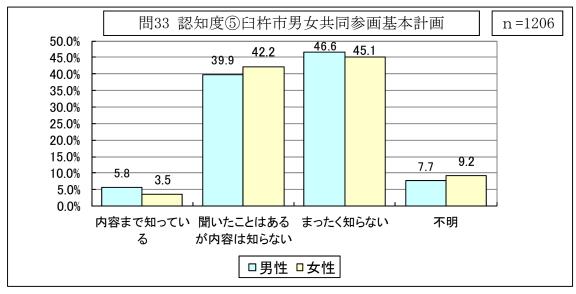
②「ジェンダー」について、男性より女性の方が「聞いたことがある」と回答した割合が高い。



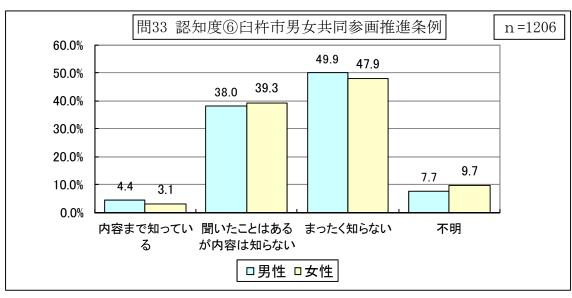
③「女性の問題に対する相談窓口」について、男性より女性の方が「聞いたことがある」との回答の割合が高い。男性の42.2%、女性の36.2%が「まったく知らない」と回答している。



④「DV」について、性別に関係なく、約5割が「内容まで知っている」と回答している。一方で、4人に1人が「聞いたことはあるが内容は知らない」と回答している。



⑤「臼杵市男女共同参画基本計画」について、性別に関わらず、ほとんどの回答が「聞いたことはあるが内容は知らない」「まったく知らない」と回答している。



⑥「臼杵市男女共同参画推進条例」について、性別に関わらず、ほとんどの回答が「聞いたことはあるが内容は知らない」「まったく知らない」と回答している。

問 34. 女性の社会進出が進んでいますが、議員、審議会委員や役員・管理職などの 指導的地位や、自治会などに占める女性の割合はまだ低いのが現状です。女性 の参画が少ない理由は何だと思いますか。(1 つに○)

(注:複数の回答を選択した回答者が多かったため、複数回答として集計を行った。)

- ●全体では、「男性優位の社会の仕組みや制度がある」が最も高く 26.5%となっている。
- ●性別で回答の割合に差がみられる項目は「「女はでしゃばるものではない」という社会通念がある」との回答で、女性の回答が10.5%となっており、男性の回答の約2倍となっている。反対に、男性では、「女性自身が指導的地位に対する関心やチャレンジ精神がない」との回答が12.8%となっており、女性の回答より高い回答割合となっていた。

			問34 女性の参	<b>画が低い理由</b>				
		合計	制度がある	ような女性の 能力に対する	女性の能力発 揮のチャンス が男性と同じ ように与えら れていない	「女はでしゃ ばるものでは ない」という 社会通念があ る	理解が足りない	自治会長や議 員などの政策 決定の場に出 られる人材が 女性の人材が いない
	全体	1206	319	97	135	104	116	74
		100.0%	26. 5%	8.0%	11. 2%	8. 6%	9.6%	6.1%
性別	男性	429	121	28	54	25	48	24
		100.0%	28. 2%	6.5%	12.6%	5.8%	11.2%	5.6%
	女性	746	193	67	78	78	68	49
		100.0%	25. 9%	9.0%	10.5%	10.5%	9.1%	6.6%
	不明	31	5	2	3	1	0	1
		100.0%	16. 1%	6.5%	9. 7%	3. 2%	0.0%	3. 2%

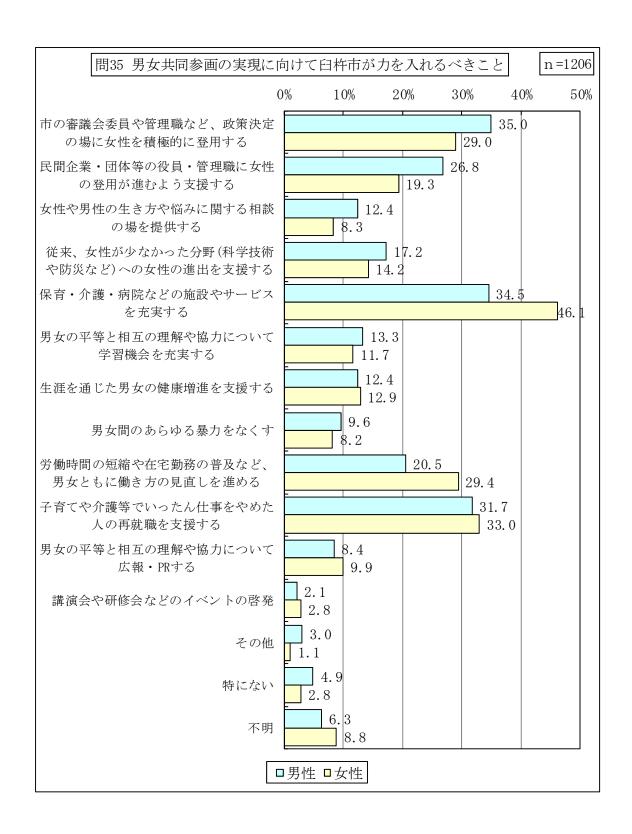
		合計	がよい(なるも のだ)と思って いる人が多い	導的地位に対	家族の理解や 協力が得にく い	その他	不明
	全体	1206		121	67	25	147
		100.0%	10.1%	10.0%	5.6%	2.1%	12. 2%
性別	男性	429	38	55	25	15	48
		100.0%	8.9%	12.8%	5.8%	3.5%	11. 2%
	女性	746	84	65	41	10	81
		100.0%	11.3%	8. 7%	5. 5%	1.3%	10.9%
	不明	31	0	1	1	0	18
		100.0%	0.0%	3. 2%	3. 2%	0.0%	58. 1%

# 問 35. 男女共同参画社会の実現に向けて、臼杵市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(○は3つまで)

- ●全体では、「保育・介護・病院などの施設やサービスを充実する」が最も高く 40.9%となっている。女性は男性よりも 11.6%と約1割高い。
- ●男性は「市の審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する」が最も高く35.0%となっている。
- ●男性と女性の差を見ると、男性は「民間企業・団体等の役員・管理職に女性の登用が進むよう支援する」との回答が女性よりも 7.5%高く、26.8%となっている。
- ●女性は、「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、男女ともに働き方の見直しを 進める」との回答が男性よりも8.9%高く、29.4%となっている。

			問35 男女共同	参画の実現に向	向けて臼杵市が.	力を入れるべき	こと			
		合計	市の審議会委	民間企業・団	女性や男性の	従来、女性が	保育・介護・	男女の平等と	生涯を通じた	男女間のあら
			員や管理職な	体等の役員・	生き方や悩み	少なかった分	病院などの施	相互の理解や	男女の健康増	ゆる暴力をな
			ど、政策決定	管理職に女性	に関する相談	野(科学技術	設やサービス	協力について	進を支援する	くす
			の場に女性を	の登用が進む	の場を提供す	や防災など)	を充実する	学習機会を充		
			積極的に登用	よう支援する	る	への女性の進		実する		
			する		-	出を支援する				
			l							
	全体	1206	367	261	115	180	493	145	149	102
		100.0%	30. 4%	21.6%	9. 5%	14.9%	40. 9%	12.0%	12. 4%	8. 5%
性別	男性	429	150	115	53	74	148	57	53	41
		100.0%	35.0%	26.8%	12.4%	17. 2%	34. 5%	13. 3%	12.4%	9.6%
	女性	746	216	144	62	106	344	87	96	61
		100.0%	29.0%	19. 3%	8. 3%	14. 2%	46. 1%	11.7%	12. 9%	8.2%
	不明	31	1	2	0	0	1	1	0	0
		100.0%	3. 2%	6.5%	0.0%	0.0%	3. 2%	3. 2%	0.0%	0.0%

			労働時間の短 縮や在宅勤務 の普及なもに働 男女とも直し を進める	等でいったん 仕事をやめた 人の再就職を	相互の理解や 協力について	会などのイベ	その他	特にない	不明
	全体	1206 100, 0%		383 31. 8%				43 3, 6%	121 10. 0%
性別	男性	429					1. 7/0		27
生加	为1生	100.0%				-			
	-f ktl-				( <del></del>		3.0/0	4. 9/0	
	女性	746			f .	21	1 10/		66
		100.0%	·	33.0%	9.9%	2.8%	1.1%	2.8%	
	不明	31	0	1	0	0	0	1	28
	1	100.0%	0.0%	3.2%	0.0%	0.0%	0.0%	3. 2%	90.3%



# 資料編

•	男女共同参画基本法 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	102
•	臼杵市男女共同参画推進条例 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	103
•	臼杵市男女共同参画基本計画(抜粋) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	107
	「臼杵市男女共同参画社会づくりのための意識調査」調査票	109

【1999年(平成 11 年)6 月 23 日公布法律第 78 号、改正:1999年(平成 11 年)12 月 22 日法律第 160 号】

### 第1章 総則

#### (目的)

第1条 この法律は、男女の人権が尊重され、かつ、社会経済情勢の変化に対応できる 豊かで活力ある社会を実現することの緊要性にかんがみ、男女共同参画社会の形成に 関し、基本理念を定め、並びに国、地方公共団体及び国民の責務を明らかにするとと もに、男女共同参画社会の形成の促進に関する施策の基本となる事項を定めることに より、男女共同参画社会の形成を総合的かつ計画的に推進することを目的とする。

#### (定義)

- 第 2 条 この法律において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところ による。
- (1) 男女共同参画社会の形成 男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会を形成することをいう。
- (2) 積極的改善措置 前号に規定する機会に係る男女間の格差を改善するため必要な 範囲内において、男女のいずれか一方に対し、当該機会を積極的に提供することをいう。

## (男女の人権の尊重)

第3条 男女共同参画社会の形成は、男女の個人としての尊厳が重んぜられること、男女が性別による差別的取扱いを受けないこと、男女が個人として能力を発揮する機会が確保されることその他の男女の人権が尊重されることを旨として、行われなければならない。

#### (社会における制度又は慣行についての配慮)

第4条 男女共同参画社会の形成に当たっては、社会における制度又は慣行が、性別による固定的な役割分担等を反映して、男女の社会における活動の選択に対して中立でない影響を及ぼすことにより、男女共同参画社会の形成を阻害する要因となるおそれがあることにかんがみ、社会における制度又は慣行が男女の社会における活動の選択に対して及ぼす影響をできる限り中立なものとするように配慮されなければならない。

#### (政策等の立案及び決定への共同参画)

第 5 条 男女共同参画社会の形成は、男女が、社会の対等な構成員として、国若しくは 地方公共団体における政策又は民間の団体における方針の立案及び決定に共同して参 画する機会が確保されることを旨として、行われなければならない。

#### (家庭生活における活動と他の活動の両立)

第6条 男女共同参画社会の形成は、家族を構成する男女が、相互の協力と社会の支援 の下に、子の養育、家族の介護その他の家庭生活における活動について家族の一員と しての役割を円滑に果たし、かつ、当該活動以外の活動を行うことができるようにす ることを旨として、行われなければならない。

#### (国際的協調)

第7条 男女共同参画社会の形成の促進が国際社会における取組と密接な関係を有していることにかんがみ、男女共同参画社会の形成は、国際的協調の下に行われなければならない。

#### (国の責務)

第8条 国は、第3条から前条までに定める男女共同参画社会の形成についての基本理念(以下「基本理念」という。)にのっとり、男女共同参画社会の形成の促進に関する施策(積極的改善措置を含む。以下同じ。)を総合的に策定し、及び実施する責務を有する。

#### (地方公共団体の責務)

第9条 地方公共団体は、基本理念にのっとり、男女共同参画社会の形成の促進に関し、 国の施策に準じた施策及びその他のその地方公共団体の区域の特性に応じた施策を策 定し、及び実施する責務を有する。

#### (国民の責務)

第10条 国民は、職域、学校、地域、家庭その他の社会のあらゆる分野において、基本 理念にのっとり、男女共同参画社会の形成に寄与するように努めなければならない。

## (法制上の措置等)

第 11 条 政府は、男女共同参画社会の形成の促進に関する施策を実施するため必要な法制上又は財政上の措置その他の措置を講じなければならない。

#### (年次報告等)

- 第12条 政府は、毎年、国会に、男女共同参画社会の形成の状況及び政府が講じた男女 共同参画社会の形成の促進に関する施策についての報告を提出しなければならない。
- 2 政府は、毎年、前項の報告に係る男女共同参画社会の形成の状況を考慮して講じようとする男女共同参画社会の形成の促進に関する施策を明らかにした文書を作成し、これを国会に提出しなければならない。
- 第2章 男女共同参画社会の形成の促進に関する基本的施策 (第13条~第20条)
- **第3章 男女共同参画会議**(第21条~第28条)

附則…… (略) ……

## ●臼杵市男女共同参画推進条例

【2013年(平成25年)3月25日条例第2号】

### 第1章 総則

(目的)

第1条 この条例は、男女共同参画の推進に関し、基本理念を定め、市、市民及び事業者 の責務を明らかにするとともに、市が実施する施策の基本となる事項を定めることによ り、男女共同参画を総合的かつ計画的に推進し、男女(みんな)がともに思いやり支え あう社会を実現することを目的とする。

#### (定義)

第2条 この条例において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところに よる。

- (1) 男女共同参画 男女が社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うことをいう。
- (2) 積極的改善措置 前号に規定する機会に係る男女間の格差を改善するため必要な範囲内において、男女のいずれか一方に対し、当該機会を積極的に提供することをいう。
- (3) 市民 市内に住所を有するもの及び市内に通勤し、又は通学するものをいう。
- (4) 事業者 市内において事業又は活動を行う個人及び法人その他の団体をいう。
- (5) セクシュアル・ハラスメント 他の者を不快にさせる性的な言動(以下この号において「性的な言動」という。)により個人の生活環境を害すること又は性的な言動に対する個人の対応に起因して当該個人に不利益を与えることをいう。
- (6) ドメスティック・バイオレンス 配偶者等の男女間において、個人の尊厳を侵すような身体的、精神的、性的又は経済的な暴力その他の心身に有害な影響を及ぼす言動をいう。

### (基本理念)

- 第3条 男女共同参画の推進は、男女の個人としての尊厳が重んぜられること、男女が性別による差別的取扱いを受けないこと、男女が個人として能力を発揮する機会が確保されることをの他の男女の人権が尊重されることを旨として、行われなければならない。
- 2 男女共同参画の推進に当たっては、社会における制度又は慣行が、性別による固定的な 役割分担等を反映して、男女の社会における活動の選択に対して中立でない影響を及ぼ すことにより、男女共同参画の推進を阻害する要因となるおそれがあることに鑑み、社 会における制度又は慣行が男女の社会における活動の選択に対して及ぼす影響をできる 限り中立なものとするように配慮されなければならない。
- 3 男女共同参画の推進は、男女が、社会の対等な構成員として、市における政策又は民間の団体における方針の立案及び決定に共同して参画する機会が確保されることを旨として、行われなければならない。
- 4 男女共同参画の推進は、男女が、相互の協力と社会の支援の下に、子の養育、家族の介護その他の家庭生活における活動について家族の一員としての役割を円滑に果たすとともに、職業生活その他の社会における活動を行うことができるようにしなければならない。
- 5 男女共同参画の推進は、男女が相互の身体の特徴について理解し合うことにより、性に 関する健康と権利を互いに認め合えるようにすることを旨として、行わなければならな
- 6 男女共同参画の推進が国際社会における取組と密接な関係を有していることに鑑み、男 女共同参画の推進は、国際的協調の下に行われなければならない。

### (市の責務)

- 第4条 市は、前条に定める基本理念(以下「基本理念」という。)にのっとり、男女共同 参画の推進に関する施策(積極的改善措置を含む。以下同じ。)を総合的に策定し、及び 実施する責務を有する。
- 2 市は、男女共同参画の推進に当たり、市民、事業者、県及び国と連携して取り組むものとする。
- 3 市は、第1項に規定する施策を総合的に策定し、及び実施するために必要な体制を整備 するとともに、財政上の措置を講ずるよう努めなければならない。

#### (市民の責務)

- 第5条 市民は、職場、学校、地域、家庭その他の社会のあらゆる分野において、基本理 念にのっとり、男女共同参画の推進に努めなければならない。
- 2 市民は、市が実施する男女共同参画の推進に関する施策に協力するよう努めなければならない。

#### (事業者の責務)

- 第6条 事業者は、基本理念にのっとり、その事業活動に関し、男女共同参画の推進に自ら積極的に取り組み、男女が職場における活動に対等に参画する機会の確保に努めるとともに、男女が職業生活における活動と家庭生活における活動その他の活動とを両立して行うことができる職場環境を整備するよう努めなければならない。
- 2 事業者は、市が実施する男女共同参画の推進に関する施策に協力するよう努めなければならない。

#### (性別による権利侵害の禁止)

第7条 何人も、職場、学校、地域、家庭その他の社会のあらゆる分野において、性別による差別的取扱い、セクシュアル・ハラスメント又はドメスティック・バイオレンスその他の男女間における暴力的行為を行ってはならない。

#### (公衆に情報を表示する場合の配慮)

第8条 何人も、公衆に情報を表示する場合は、性別による固定的な役割分担、セクシュ アル・ハラスメント又はドメスティック・バイオレンスその他の男女間における暴力的 行為を助長し、又は是認する表現を行わないよう努めなければならない。

#### 第2章 男女共同参画の推進に関する基本的施策

#### (男女共同参画計画)

- 第9条 市長は、男女共同参画の推進に関する施策を総合的かつ計画的に実施するため、 男女共同参画の推進に関する基本的な計画(以下「計画」という。)を策定しなければな らない。
- 2 市長は、計画を策定するに当たっては、市民の意見を聴くとともに、臼杵市男女共同参 画推進懇話会に諮問しなければならない。
- 3 市長は、計画を策定したときは、遅滞なく、これを公表しなければならない。
- 4 前2項の規定は、計画の変更について準用する。

#### (施策の策定等に当たっての配慮)

第10条 市は、男女共同参画の推進に影響を及ぼすと認められる施策を策定し、及び実施 するに当たっては、男女共同参画の推進に配慮しなければならない。

#### (市民及び事業者の理解を深めるための措置)

第11条 市は、広報活動等を通じて、基本理念に関する市民及び事業者の理解を深めるよ う適切な措置を講じなければならない。

#### (教育及び学習の充実)

第 12 条 市は、学校教育、社会教育その他の教育の分野において、男女共同参画の推進に 関する教育及び学習の充実に努めるものとする。

#### (家庭生活における活動と他の活動の両立)

第 13 条 市は、家族を構成する男女が共に家庭生活における活動とその他の活動とを両立 して行うことができるように、情報の提供その他の必要な措置を講ずるよう努めるもの とする。

#### (政策等の立案及び決定への共同参画)

- 第14条 市は、法令等により設置された委員並びに委員会、審議会及びこれらに準ずるものの構成員の選任に当たっては、積極的改善措置を講ずることにより、できる限り男女の均衡を図るよう努めるものとする。
- 2 市は、民間の団体における方針の立案及び決定に男女が共同して参画する機会が確保されるように、情報の提供その他の必要な支援を行うよう努めるものとする。

#### (相談及び苦情の申出)

- 第15条 市民及び事業者は、市が実施する男女共同参画の推進に関する施策、第7条に規定する性別による権利侵害その他男女共同参画社会の推進に関する相談又は苦情の申出をすることができる。
- 2 市長は、前項の規定による相談又は苦情の申出があった場合は、必要に応じて、関係者 に対し説明又は資料の提出等を求め、是正の指示、勧告又は要望その他の必要な措置を 行うものとする。
- 3 市長は、前項の措置を講ずるに当たっては、関係機関等との適切な連携を図るものとする。
- 4 市長は、第2項の措置を講ずるに当たり、必要と認めるときは、臼杵市男女共同参画推進懇話会の意見を聴くものとする。

#### (調査研究)

第16条 市は、男女共同参画の推進に関する施策の策定に必要な調査研究を行うよう努めるものとする。

#### (民間の団体に対する支援)

第17条 市は、民間の団体が行う男女共同参画の推進に関する活動を支援するため、情報 の提供その他の必要な措置を講ずるよう努めるものとする。

#### (年次報告等)

第18条 市長は、毎年、男女共同参画の推進状況及び男女共同参画の推進に関する施策の 実施状況についての報告書を作成し、これを公表するものとする。

#### 第3章 臼杵市男女共同参画推進懇話会

#### (臼杵市男女共同参画推進懇話会)

- 第 19 条 次に掲げる事務を行うため、臼杵市男女共同参画推進懇話会(以下「懇話会」という。)を置く。
- (1) 第9条の規定により諮問された事項について調査審議すること。
- (2) 男女共同参画の推進に関する重要な事項について、市長の諮問に応じて答申し、及び市長に建議すること。

#### (組織及び委員等)

- 第20条 懇話会は、市長が委嘱する委員15人以内をもって組織する。
- 2 男女のいずれか一方の委員の数は、委員の総数の10分の4未満であってはならない。
- 3 委員の任期は、2年とし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。ただし、再 任を妨げない。

#### 第4章 雑則

#### (委任)

第21条 この条例の施行に関し必要な事項は、別に規則で定める。

### 臼杵市男女共同参画基本計画(抜粋)

臼杵市では、女性の能力が発揮できる社会、子どもを 安心して生み育てることができる社会、仕事と家庭生活 が両立できる社会をめざし、「男女共同参画社会基本法 (第14条第3項)」の基本理念にのっとり、国の「男女 共同参画基本計画」及び大分県の「おおいた男女共同参 画プラン」を勘案し、2007年(平成19年)3月に策定 いたしました。

加えて 2006 年 (平成 18 年) 3 月に策定した「臼杵市 総合計画書」をはじめとする関連計画との整合性を図り、 将来に向けて男女共同参画社会の形成を促進していく ための施策を掲げています。 「男女がともに思いやり支えあう社会」

#### 臼杵市男女共同参画基本計画







大分県臼杵市

計画の期間

臼杵市男女共同参画基本計画の期間は、2007 年 (平成 19 年) 度を始期、2016 年 (平成 28 年) 度を終期とする 10 年間とします。なお、社会情勢の変化などにより必要と考えられる場合は見直しを行います。

臼杵市男女共同参画基本計画の基本理念は、国の「男女共同参画社会基本法」の基本理念に基づき、以下のように設定します。

- (1) 性別にかかわらず男女の人権が尊重され、個人としての能力が十分発揮されること。
- (2) 社会制度や慣行などによる「固定的役割分担意識」によって個性や能力を制限されることなく、家庭・職場・地域などあらゆる場において男女がさまざまな活動ができること。
- (3) 男女が対等な社会の構成員としてあらゆる分野に参画でき、政策の立案及び決定において共同で参画できる機会が確保されること。
- (4) 家庭内における役割分担をみんなが協力して行い、仕事や社会活動と の両立ができるようにすること。

臼杵市男女共同参画基本計画は、男女がみんなを思いやり、笑顔でいきいきと自分らしく生きることができる社会をめざすため、

計画の基本理念

計画の

めざすべき目

## 『男女がともに思いやり支えあう社会』

を目標に掲げます。

#### 計画の基本目標

臼杵市男女共同参画基本計画は、以下の4つの基本目標と、重点課題に対して施策を実施しています。

基本目標 1 『女と男(ひととひと)』の平等に向けた意識づくり							
重点課題 1	社会における制度・慣行の見直し、意識改革						
重点課題 2	男女平等を推進する教育・学習の充実						
重点課題3	女性に対するあらゆる暴力の根絶に向けた取り組みの推進						

基本目標 2 『女と男 (ひととひと)』がともに参画するまちづくり							
重点課題 1	家庭生活や社会活動における男女共同参画の促進						
重点課題 2	政策・方針決定過程への女性の参画						
重点課題3	活力ある農山漁村の実現に向けた男女共同参画の確立						

基本目標3 安心して働ける労働環境づくり						
重点課題 1	雇用の分野における男女の均等な機会と待遇の確保					
重点課題 2	男女の職業生活と家庭生活の両立支援					

基本目標4 健康で充実した生活づくり					
	重点課題 1	安全安心に暮らせる福祉の充実			
	重点課題 2	生涯を通じた健康づくりの推進			

### ●「臼杵市男女共同参画社会づくりのための意識調査」調査票



2015年度(平成27年度)

臼杵市の男女共同参画社会づくりのための

意識調査にご協力をお願いします。



日頃から、市政の推進にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

臼杵市では、平成 19 年 3 月に「臼杵市男女共同参画基本計画」を策定し、家庭、職場、地域において「男女がともに思いやり支えあう社会」を実現するため、様々な施策を実施してまいりました。

また、平成 25 年 4 月施行の「臼杵市男女共同参画推進条例」により、臼杵市、市民及び事業者の責務を明らかにし、男女共同参画社会を総合的かつ計画的に推進しています。

本調査は、市民皆様の男女共同参画についての現状を把握し、今後の施策を さらに効果的に進めるために実施するものであります。本調査票をお受け取り になられた皆様には、ご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

2015年(平成27年)8月

臼杵市長



### 8月31日(月)までに、同封の返信用封筒で郵便ポストに投函してください。

臼杵市役所(臼杵庁舎) 同和人権対策課 同和人権対策・男女共同参画推進グループ 電話:0972-63-1111(内 1612) FAX:0972-63-1517

## アンケートについて

- ・対象: 臼杵市在住の 20 歳以上の方、2,500 人 (無作為抽出)
- ・無記名式です。(個人情報や回答内容は特定されません)
- ・ご回答いただいた内容は、調査目的以外に使用せず、責任を持って処 分します。

## 回答方法と返送について

質問のご回答は、 **(1)** 

**| 番号(数字)に**○ |をつけてください。



② この用紙を同封の 返信用封筒(切手不要)に入れます。



③ 2015年(平成 27年) **8月31日(月)までに郵便ポストに投函** してください。

よろしくお願い いたします。

臼杵市役所(臼杵庁舎) 同和人権対策課

同和人権対策・男女共同参画推進グループ

電話:0972-63-1111(内1612)

FAX: 0972-63-1517

## 男女共同参画社会について



## 男女共同参画社会とは

家庭、職場、地域において、女性も男性も一人ひとりが大切にされ、対等な構成員として 喜びも責任も分かち合いつつ、その個性と能力を最大限に発揮できる社会です。

- 問 1. 「男は仕事、女は家庭」のように性別によって役割を固定する考え方がありますが、 あなたはその考え方をどう思いますか。 **1つに** 
  - 1. 同感する
- 2. 同感しない
- 3. どちらともいえない
- 4. わからない
- 問 2. あなたは社会や生活の中で、男女の地位は平等になっていると思いますか。

#### ①~⑧について、右側の 1~6 の中からあてはまる番号 1 つに

項目	優遇されている男性の方が非常に	男性の方が優遇されているどちらかと言えば、	平等である	女性の方が優遇されているどちらかと言えば、	優遇されている女性の方が非常に	わからない
① 家庭生活	1	2	3	4	5	6
② 職場	1	2	3	4	5	6
③ 学校教育の場	1	2	3	4	5	6
④ 地域活動や社会活動	1	2	3	4	5	6
⑤ 政治の場	1	2	3	4	5	6
⑥ 法律や制度上	1	2	3	4	5	6
<ul><li>⑦ 社会通念・</li><li>慣習・しきたり</li></ul>	1	2	3	4	5	6
⑧ 社会全体	1	2	3	4	5	6

## 男女共同参画社会について



問3. あなたの家庭では、次の①~⑪までの役割を、主にどなたがされていますか(現状)。

また、あなたの**理想**の分担はどのような形ですか。 ①~⑪について、現状と理想のそれぞれの

**太枠の 1~6 の中から、あてはまる番号 1 つに**○ (あてはまらない項目については、記入する

必要はありません。)

	現状							理	想			
項目	自分	配偶者	夫婦で協力	父(実父・義父)	母(実母・義母)	その他	自分	配偶者	夫婦で協力	父(実父・義父)	母(実母・義母)	その他
①家計の管理	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
②食料品などの買い物	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
③食事の支度	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
④食事の後片付け	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
⑤掃除・洗濯	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
⑥育児(乳幼児の世話)	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
⑦子どもの教育としつけ	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
⑧学校行事	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
⑨地域行事	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
⑩高齢者の世話・介護	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
⑪家庭の問題における 最終的な決定	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6

## 男女共同参画社会について



⇒問6^

)

問 4. 男性も育児・介護休業をとることができますが、このことについてあなたはどう思いますか。

## 1つに〇

- 1. 男性も育児・介護休業を積極的にとるべきである
- 2. 育児・介護は女性がするべきであり、男性が休暇をとる必要はない
- 3. その他(具体的に
- 4. 男性も育児・介護休業をとることは賛成だが、現実的にはとりづらいと思う⇒**問5へ**

問 5. 問 4 で「4. 男性も育児・介護休業をとることは賛成だが、現実的にはとりづらいと思う」

と答えられた方は、その理由をお聞かせください。 **1つに**()

- 1. 過去に周囲でとった人がいない 2. 人事評価や昇給などに悪い影響がある
- 3. 仕事が忙しい

- 4. 仕事で周囲の人に迷惑がかかる
- 5. 職場にとりやすい雰囲気がない 6. 休業補償が十分でないので、経済的に困る
- 7. 男性がとることについて、社会全体の認識が十分にない
- 8. その他(具体的に

臼杵市 男女共同参画社会 目指すべき目標



男女がともに思いやり 支えあう社会

## 男女共同参画社会について



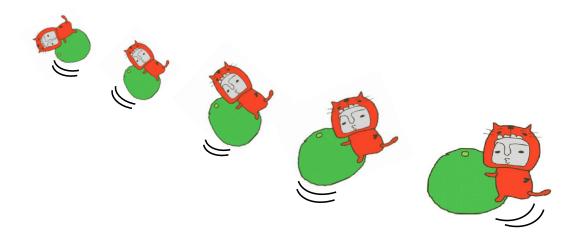
)

問 6. あなたは、次の  $1\sim6$  のうち、**優先したいもの**はどれですか。

また、**実際には何を優先**していますか。

優先したいもの (○は2つまで)	実際に優先しているもの(○は2つまで)
1. 仕事	1. 仕事
2. 家庭	2. 家庭
3. 地域	3. 地域
4. 個人	4. 個人
5. すべて	5. すべて
6. わからない	6. わからない

- 問7. 今後、男性が女性とともに家庭生活(家事、育児、介護)や地域活動等へ参加をしていく ために必要なことは何だと思いますか。 (は2つまで
  - 1. 男性対象の講習会(料理・育児・介護など)の開催
  - 2. 家庭における妻からの働きかけ
  - 3. 子どものときからの家庭教育
  - 4. 学校における男女平等教育
  - 5. 職場における、育児・介護休暇等を取りやすくする環境づくり
  - 6. 男性の家事参加を促す「家庭参加の日」などの制定
  - 7. 男性が育児や介護、地域活動を行うための仲間 (ネットワーク) 作りを進めること
  - 8. その他(具体的に
  - 9. 特に必要なことはない



## 男女共同参画社会について



問 8. 男女ともに、仕事と家庭生活の調和を実現していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。 **それぞれ**(は 3 つまで

/		
	1. 仕事量・残業時間の減少	
/	2. 短時間勤務制度の導入	
仕 事	3. 在宅勤務やフレックスタイム制度(※付録: 用語解説参照)の導入	
につ	4. 賃金改善・男女間格差の是正	
<u>て</u>	5. パートや派遣社員の労働条件の改善	
	6. 育児・介護休業制度(※付録: 用語解説参照)の充実(延長・義務付けなど)	
(は 3	7. 代替要員の確保など育児・介護休業制度を利用できる職場環境	
(○は3つまで)	8. 再雇用制度や起業支援の充実	
<u>e</u>	9. 家事・育児・介護参加への職場・上司の理解	
	10. 育児休業中・介護休業中の経済的補償	
	11. その他 (具体的に	)
家	 	
家庭生活に	2. 保育施設や児童クラブ等の内容の充実(預り時間の延長など)	
活に	3. ホームヘルプ(※付録:用語解説参照)など家事援助や介護支援の	
つ	・	
い て	   4. 配偶者・家族とのふれあい(コミュニケーション)の充実	
(○は3つまで)	5. 家庭内での家計負担の平等化	
3	6. 家事・育児・介護の技能の向上	
まで	7. 家族・周囲の理解・支援	
<b>S</b>	8. その他(具体的に	)

## 第2章

## 仕事・職場環境について



)

)

※現在働いていない方もお答えください。

- 問 9. あなたと仕事の関係は次のどれですか。 **1つに**〇
  - 1. 継続して働いている
  - 2. 働いていたが、結婚・育児(出産)のため一時やめ、また働いている
  - 3. 働いていたが、その他の事情で一時やめ、また働いている
  - 4. 働いていたが、結婚・育児(出産)のため仕事をやめた
  - 5. 働いていたが、その他の事情で仕事をやめた
  - 6. これまで働いたことはない
  - 7. 定年退職により現在働いていない
  - 8. 現在、学生である
  - 9. 現在、産前産後休暇(産休)中、育児休暇(育休)中である
  - 10. 現在、介護休暇中である
  - 11. その他(例:病休など

問 10. 一般的に、女性が仕事をもつことについて、あなたはどう思いますか。 **1つに**〇

- 1. 結婚や出産にかかわらず仕事をもち続けた方がよい
- 2. 結婚するまでは仕事をもつ方がよい
- 3. 子どもができるまでは、仕事をもつ方がよい
- 4. 子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい
- 5. 仕事をもたない方がよい
- 6. その他(具体的に
- 7. わからない



## 第2章

## 仕事・職場環境について



※現在働いていない方もお答えください。

問 11. あなたの職場では、①~⑤のように**性別による不平等の有無**がありますか。 また、そのような**考え方**をどう思いますか。

## ①~⑮について、右側の 1~3(あるいは 1~2)の中からあてはまる番号 1 つに○

	不	平等の有	無	考え方		
項目	ある	ない	わからない	あってもよい	ない方がよい	
① 募集・採用の機会に格差がある	1	2	3	1	2	
② 雇用形態 (派遣社員やパートに女性が多いことなど)	1	2	3	1	2	
③ 職種	1	2	3	1	2	
④ 研修・訓練を受ける機会	1	2	3	1	2	
⑤ 賃金	1	2	3	1	2	
⑥ 昇進・昇格	1	2	3	1	2	
⑦ 残業時間	1	2	3	1	2	
⑧ 結婚・妊娠・出産時に退職を促される	1	2	3	1	2	
⑨ 産前・産後休業の取得のしやすさ	1	2	3	1	2	
⑩ 育児休業の取得のしやすさ	1	2	3	1	2	
⑪ お茶出しや掃除などの雑用を行う頻度	1	2	3	1	2	
⑫ 個人的なことを、必要以上に聞かれる	1	2	3	1	2	
⑬ 飲み会への付き合いの強制	1	2	3	1	2	
⑭ 女性は定年まで勤めにくい雰囲気がある	1	2	3	1	2	
⑤ 役員・管理職への登用に格差がある	1	2	3	1	2	

## 第2章 仕事・職場環境について

問 12. あなたは育児休業や介護休業を取得したことがありますか。 1つに



	1. 両方とも取得したことがある	2. 育児休業のみ取得したことがある
	3. 介護休業のみ取得したことがある	4. 両方とも取得したことがない
問 13.	一度でも退職したことがある方にお聞きし	<b>ない方は問 16 へ</b>
	あなたがその仕事をやめた理由は何ですが	)\ <sub>°</sub>
	何度か退職した場合は、最も新しいことに	こついてお答えください。 <b>1つに</b> 〇
	1. 結婚	2. 妊娠・出産・子育て
	3. 自分の病気やけが	4. 家族の介護や看護
	5. 夫(妻)の転勤	6. 自分の収入が必要でなくなった
	7. 転職	8. 雇用条件に不満があった
	9. 職場で <u>セクハラやパワハラ</u> があった	10. 職場に居づらくなった
	(※付録:用語解説参照)	
	11. 年齢が高くなった	
	12. その他(具体的に	)
問 14.	あなたが退職したのは、今から何年前で	すか。 <b>1つに</b> 〇
	1. 2年以内 2.	3~5年
	3. 6~10年 4.	10年をこえる
問 15.	その退職は、ご自身が納得して選択した	<b>垦職でしたか。 1つに</b> 〇
	1. 自分で希望して退職を選んだ	
	   2. 勤務を継続できない理由や雰囲気が生	じ、仕方なく退職した
	3. 雇用主から退職を促された	
	4. 家族から退職を勧められた	
	5. その他(具体的に	)

## 第3章

## 教育・地域活動について



問 16. 子どもの学歴はどこまで必要だと思いますか。 **1つに**〇

	高等学校	専門学校	短大・高専	大学以上	その他
①男の子ども	1	2	3	4	5 ( )
②女の子ども	1	2	3	4	5 ( )

問 17. ※子どもがいない方でも子どもがいる場合を想定してお答えください。

家庭の中で子どもを育てる場合、子どもに身に付けてほしいことは何ですか。

### 男の子どもと女の子どもについて、それぞれ①~9のうち〇は3つまで

項目	男の子ども	女の子ども
①家事能力	1	1
②職業能力	2	2
③礼儀正しさ	3	3
④行動力	4	4
⑤勤勉さ	5	5
⑥思いやり	6	6
⑦協調性	7	7
⑧自立心	8	8
<b>⑨忍耐力</b>	9	9

## 地域力×女性力×無限大の未来

内閣府男女共同参画局キャッチコピー

## 第3章

## 教育・地域活動について



問 18. あなたは地域社会において、現在どのような活動に参加していますか。

また、今後どのような活動に参加したいですか。 
○はいくつでも

※あてはまらない項目については、記入する必要はありません。

項目		今
	在	後
①ボランティア活動(社会奉仕など)	1	1
②学校行事	2	2
③老人クラブ	3	3
④自治会などの地域活動	4	4
⑤女性の会を含めた女性団体・グループ等の地域活動	5	5
⑥スポーツ、レクリエーション活動	6	6
⑦スポーツ、レクリエーション活動以外の趣味活動	7	7
⑧文化・教養・学習活動・公民館活動	8	8
⑨宗教活動	9	9
⑩政治活動	10	10
⑪その他(具体的に )	11	11
②特に参加していない・参加したくない	12	12

)

問18で「⑫特に参加していない・参加したくない」と答えた方におたずねします。 付問

あなたが、活動に参加していないのはどのような理由からですか。 ○は3つまで

1. 関心がないから

- 2. 活動するための施設が近くにないから
- 3. 情報が少ないから
- 4. 家族の理解や協力が得られないから
- 5. 高齢・病弱だから
- 6. 他人と一緒に活動するのがわずらわしいから

7. 時間がないから

- 8. 一緒に参加する仲間がいないから
- 9. 経済的に余裕がないから

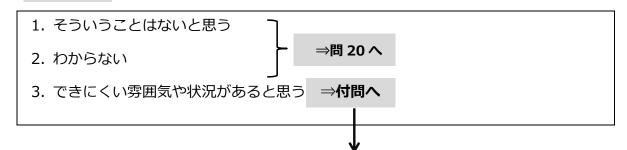
## 第3章

## 教育・地域活動について



問 19. 自治会などの地域の集まりや作業の中で、女性も男性と共に参加したり、男性と同じように発言したりすることができにくい雰囲気や状況はあると思いますか。

#### 1つに〇



付問 問19で「3. できにくい雰囲気や状況があると思う」と答えた方におたずねします。

それはどんな雰囲気や状況だと思いますか。

○は2つまで

- 1. 役員は男性のみで、女性の意見が受け入れられにくい
- 2. 決定事項については、従来、男性が取り仕切っているので、女性が口を挟みにくい
- 3. 主に男性が中心になっている活動と女性が中心になっている活動に分かれる
- 4. お茶だしや皿洗いなどは女性だけがする暗黙の役割分担がある
- 5. 地域活動で女性が発言することはでしゃばりだと思われがちである
- 6. 地域活動に参加できるような家族の理解や協力がない
- 7. 参加する女性側の努力がまだ足りない
- 8. その他(具体的に)



## DV(ドメスティック・バイオレンス)とは

親密な関係にある男女間(夫婦、恋人など)における、身体的、心理的、性的、経済的、社会的暴力をいいます。 D V は重たい人権侵害であるとともに、男女平等意識の妨げとなるにもかかわらず、その多くが潜在化されたままとなっています。

問 20. あなたの配偶者または恋人が、次の表にあげるようなことをした場合、あなたは、それを暴力だと思いますか。 **各項目について、右側の 1~3 の中からあてはまる番号 1 つに**〇

項目		あたると思うどんな場合も暴力に	ない場合がある 暴力の場合とそうで	思わない
	①殴る・蹴る・平手で打つ	1	2	3
	②髪を引っ張る	1	2	3
身	③突き飛ばす	1	2	3
身体的暴力	④物を投げつける	1	2	3
力	⑤首を絞める	1	2	3
	⑥刃物などでおどす	1	2	3
	⑦殴るふりをしておどす		2	3
	①無視する	1	2	3
精神	②大声で怒鳴る	1	2	3
精神的暴力	③人格を否定するような暴言を吐く	1	2	3
	④生命・身体に対する脅迫(殺すぞ・死ね等)	1	2	3

次ページに続く

前ページの続き

## 各項目について、右側の 1~3 の中からあてはまる番号 1 つに

項目		あたると思うどんな場合も暴力に	ない場合がある 暴力の場合とそうで	思わない
	①避妊に協力しない	1	2	3
性	②性行為の強要	1	2	3
性 的		1	2	3
		1	2	3
	⑤中絶の強要	1	2	3
	①生活費を渡さない・使わせない		2	3
経済	経経		2	3
経済的暴力	③外で働くことを禁じる	1	2	3
④「誰のおかげで生活できているんだ」 などと見下す		1	2	3
社会的暴力	①外出を制限する	1	2	3
暴力	②交友関係や電話を細かくチェックする	1	2	3

問 21. あなたは、配偶者または恋人などの親密な男女の関係にある人との間で、次の項目のような経験はありますか。 各項目について、右側の 1~4 の中からあてはまる番号 1 つに

		された事がある		な	ب ا
	項目	3 年 以 内	そ れ 以 前	<i>(۱</i>	したことがある
身体	①たたく、突き飛ばす	1	2	3	4
4への攻撃	②殴る、蹴る	1	2	3	4
撃	③体を傷つける可能性のある物で殴る	1	2	3	4
	①「殺す」「怪我をさせる」などと言っておどす	1	2	3	4
威嚇やおどし	②殴るふりをして、おどす	1	2	3	4
おどし	③刃物などを突きつけて、おどす	1	2	3	4
	④家具や食器、日用品を投げたり壊すなどして、おどす	1	2	3	4
糖	①何を言っても長時間無視し続ける	1	2	3	4
精神的・経	②「誰のおかげで生活できているんだ」「かいしょうなし」 「役立たず」「死ね」などとののしる	1	2	3	4
経済的に	③大切にしている物をわざと捨てたり壊したりする	1	2	3	4
に追い	<ul><li>④社会的な活動や就職などを許さない</li></ul>	1	2	3	4
い詰めること	⑤交友関係や電話・外出・手紙などのやりとり、 お金の使い道を細かく監視・制限する		2	3	4
٤	⑥生活費などの必要な金を渡さない、食事をさせない	1	2	3	4
性に関すること	①見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を 見せる	1	2	3	4
	②相手がいやがっているのに、性的な行為を強要する	1	2	3	4
ること	③避妊に協力しない	1	2	3	4
	④中絶を強要する	1	2	3	4

太枠の中にひとつでも○がある方は 問 22 へ、ない方は問 25 へ お進みください。

問 22. 問 21 で**太枠の中にひとつでも**○**がある方に**お聞きします。あなたは、その受けた行為について誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。 **1 つに**○

- 1. 相談した<mark>⇒問 23へ</mark>
  - 2. 相談しなかった⇒問24へ
- 問 23. **問 22 で「1. 相談した」**と答えた方にお聞きします。

あなたが相談した人(場所)を教えてください。 ○**はいくつでも** 

- 1. 警察
- 2. 配偶者暴力相談支援センター (※付録:用語解説参照) (婦人相談所、消費生活・男女共同参画プラザ)
- 3. その他公的機関(市町村の相談窓口など)
- 4. 人権擁護委員、民生委員、自治委員など
- 5. 民間の専門家や専門機関(弁護士、被害者支援団体など)
- 6. 医療関係者(医師、看護師、助産師など)
- 7. 学校関係者(教員、養護教員、スクールカウンセラーなど)

)

- 8. 家族や親せき
- 9. 友人、知人
- 10. その他(具体的に



#### **問 22 で「2. 相談しなかった」**と答えた方にお聞きします。 問 24.

あなたが、誰(どこ)にも相談しなかったのはなぜですか。 **(はいくつでも**)

- 1. 誰(どこ) に相談してよいのかわからなかった
- 2. 恥ずかしくて誰にも言えなかった
- 3. 相談しても無駄だと思った
- 4. 相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思った
- 5. 配偶者、恋人などに「誰にも言うな」と脅された
- 6. 相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思った
- 7. 自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思った
- 8. 世間体が悪い
- 9. 他人を巻き込みたくなかった
- 10. 他人に知られると、これまで通りの付き合い(仕事や学校、地域などの人間関係) ができなくなると思った
- 11. そのことについて思い出したくなかった
- 12. 自分にも悪いところがあると思った
- 13. 相手の行為は愛情の表現だと思った
- 14. 相手と別れた後の自立に不安があったから(経済的なこと、子どものことなど)
- 15. 相談するほどのことではないと思った
- 16. それが DV (暴力) だと思わなかった
- 17. その他(具体的に

)

#### 問 25.

## 配偶者や恋人間の暴力を防止するためにはどのようなことが必要だと思いますか。

#### ○はいくつでも

- 1. 家庭で保護者が子どもに対し、暴力がいけないことを教える
- 2. メディア(※付録:用語解説参照)を活用して広報・啓発活動を積極的に行う
- 3. 学校または大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う
- 4. 加害者への罰則を強化する
- 5. 暴力をふるったことがある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う
- 6. 暴力を助長するおそれのある情報(雑誌、コンピュータソフトなど)を取り締まる
- 7. 地域で、暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う
- 8. 被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす
- 9. 被害者を発見しやすい立場にある警察や医療関係者に対し、研修や啓発を行う

- 126 -

10.その他(具体的に



問 26. あなたは、これまでに次のような行為を職場の上司・同僚、学校やサークルなどの指導者・ 関係者、近所や地域などで付き合いのある人にしたり、されたりしたことはありますか。 相手について、異性および同性に関係なくお答えください。

#### 各項目について、右側の 1~4 の中からあてはまる番号 1 つに〇

		された事がある		ない	<u>ا</u>
	項目	3 年以内	それ以前	ί ()	したことがある
1	①「男のくせに根性がない」「女には仕事を任せられない」「女性 は職場の花でありさえすればいい」などと言う		2	3	4
ピクハ	②「結婚はまだ?」「子どもはまだ?」などとしつこく言う	1	2	3	4
ラ (付	③性的な冗談や質問、ひやかしの言葉をしつこく言う	1	2	3	4
録 ·· 田	④「異性関係が派手だ」などと、性的なうわさを流す	1	2	3	4
語説明	⑤異性の同僚をじろじろ眺めたり、容姿を話題にしたりする	1	2	3	4
セクハラ(付録:用語説明参照)につ	⑥ヌード写真やわいせつな本を飾ったり、見せびらかしたりする	1	2	3	4
らつい	⑦接待や宴席で、お酌やデュエット、ダンスを強要する		2	3	4
7	⑧さわる、抱きつく	1	2	3	4
	⑨地位や権限を利用して、性的関係を迫る	1	2	3	4
スト	①つきまとい・待ち伏せ	1	2	3	4
ーカ	②盗聴・盗撮	1	2	3	4
(付録::	③無言電話	1	2	3	4
用語	④敷地内・家宅侵入	1	2	3	4
説明参	⑤不審な言動・行動	1	2	3	4
用語説明参照)につ	⑥不審なメール・郵便物ののぞき見や盗難	1	2	3	4
いて	⑦罵倒・脅迫 (電話も含む)	1	2	3	4
Lei	①ビラまき	1	2	3	4
性的被害	②暴行	1	2	3	4
書	③SNS (※付録:用語解説参照)などのインターネット上に投稿	1	2	3	4

太枠の中にひとつでも○がある方は 問 27へ、ない方は問 3 0 へ お進みください。



#### 問 27. **問26で太枠の中にひとつでも**○がある方にお聞きします。

あなたは、その受けた行為について誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。

#### 1つに〇

- 1. 相談した⇒問28へ
- 2. 相談しなかった**⇒問29へ**

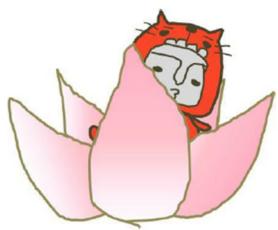
### 問 28. 問27で「1.相談した」と答えた方にお聞きします。

あなたが相談した人(場所)を教えてください。 (**はいくつでも** 

- 1. 警察
- 2. 配偶者暴力相談支援センター (婦人相談所、消費生活・男女共同参画プラザ)(※付録:用語解説参照)
- 3. その他公的機関(市町村の相談窓口など)
- 4. 民間の専門家や専門機関(弁護士、被害者支援団体など)
- 5. 上司、同僚や職場内の相談窓口
- 6. 医療関係者(医師、看護師、助産師など)
- 7. 友人、知人
- 8. 家族や親せき
- 9. その他(具体的に

)







)

)

問 29. **問 27 で「2. 相談しなかった」**と答えた方にお聞きします。あなたが、誰(どこ)に も相談しなかったのはなぜですか。 (はいくつでも

- 1. 誰(どこ)に相談してよいのかわからなかった
- 2. 恥ずかしくて誰にも言えなかった
- 3. 相談しても無駄だと思った
- 4. 相談したことがわかると、しつこくなると思った
- 5. 相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思った
- 6. 自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思った
- 7. 世間体が悪い
- 8. 他人を巻き込みたくなかった
- 9. 思い出したくなかった
- 10. 自分にも悪いところがあると思った
- 11. 相談するほどのことではないと思った
- 12. セクハラ・ストーカー (※付録:用語解説参照)・性的被害だとは思わなかった
- 13. その他(具体的に

問30. テレビ、新聞、雑誌、インターネットなどメディア(※付録:用語解説参照)での、「男は仕事、女は家庭」などの固定的性別役割分担(※付録:用語解説参照)の表現や暴力、性の表現について、あなたはどのようにお考えですか。

- 1. 女性の身体や姿態を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ
- 2. 社会全体の性に関する道徳観・倫理観を損なう表現をしている
- 3. 女性に対する犯罪を助長するおそれがある
- 4. 子どもが性についてゆがんだ意識を持つおそれがある
- 5. 女性や男性のイメージについて偏った表現をしている
- 6. 性別によって役割を固定する表現や女性に対する暴力・ 性の表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない
- 7. その他(具体的に
- 8. 特にない
- 9. わからない



- 問 31. <u>セクハラ・ストーカー(※付録: 用語解説参照)・性的被害等を防止するためにはどのような</u>ことが必要だと思いますか。 (はいくつでも
  - 1. 家庭で保護者が子どもに対し、人権問題や犯罪を防止するための教育を行う
  - 2. 学校で児童・生徒・学生に対し、人権問題や犯罪を防止するための教育を行う
  - 3. 職場などで、性別に由来する人権問題に関わる啓発を行う
  - 4. 地域で、防止啓発のための研修会、イベントなどを行う
  - 5. メディア(※付録:用語解説参照)を活用して、広報・啓発活動を積極的に行う
  - 6. 加害者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う
  - 7. 加害者への罰則を強化する
  - 8. 犯罪を助長するおそれのある情報(雑誌、コンピュータソフトなど)を取り締まる
  - 9. 被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす
  - 10. 被害者を発見しやすい立場にある警察や医療関係者に対し、研修や啓発を行う
  - 11. その他(具体的に)
- 問 32. 妊娠・出産を担う女性は、男性とは異なった体や心の問題に直面することがありますが、 女性が生涯にわたり心身ともに健康であるために、どのようなことが大事だと 思いますか。 (はいくつでも
  - 1. ライフステージ(思春期、妊娠・出産、更年期、高齢期)に合わせた健康づくりの推進
  - 2. 成人以降のライフステージに応じた健康に関する情報や学習機会などの提供
  - 3. 自分の健康を保持促進するために、自ら運動等を行う習慣を持つこと
  - 4. 妊娠・出産・避妊・中絶・性感染症などに関する情報提供
  - 5. 女性が性生活について、主体的・総合的に判断できる力をつけること
  - 6. 受診機会の少ない女性が、健康診断を受診できるような環境づくり
  - 7. 心身にわたる様々な悩みに対応する相談体制の充実
  - 8. 不妊に関する悩みに専門的に対応する相談機関の充実
  - 9. 学校における人権尊重及び健康の視点に立った性教育の実施
  - 10. その他(具体的に
  - 11. 特にない
  - 12. わからない

# 第6章 男女共同参画社会の実現と DV 防止について う



問33. あなたは次の①~⑥にあげることについて知っていますか。

#### ①~⑥について、右側の 1~3 の中からあてはまる番号 1 つに

項目	内容まで知っている	内容は知らない聞いたことはあるが	まったく知らない
① 男女共同参画	1	2	3
② ジェンダー (※付録:用語解説参照) (社会的・文化的につくられた性別)	1	2	3
<ul><li>③ 女性の問題に対する相談窓口</li><li>(臼杵市役所 同和人権対策課)</li></ul>	1	2	3
④ DV (夫婦・恋人間の暴力)	1	2	3
⑤ 臼杵市男女共同参画基本計画	1	2	3
⑥ 臼杵市男女共同参画推進条例	1	2	3

問34. 女性の社会進出が進んでいますが、議員、審議会委員や役員・管理職などの指導的地位や、自治会などに占める女性の割合はまだ低いのが現状です。

女性の参画が少ない理由は何だと思いますか。 **1つに**○

- 1. 男性優位の社会の仕組みや制度がある
- 2. 女性は指導力が低いというような女性の能力に対する偏見がある
- 3. 女性の能力発揮のチャンスが男性と同じように与えられていない
- 4. 「女はでしゃばるものではない」という社会通念がある
- 5. 女性の登用に対する認識や理解が足りない
- 6. 自治会長や議員などの政策決定の場に出られるような女性の人材がいない
- 7. 男性がなる方がよい(なるものだ)と思っている人が多い
- 8. 女性自身が指導的地位に対する関心やチャレンジ精神がない
- 9. 家族の理解や協力が得にくい
- 10. その他(具体的に)

# 第6章 男女共同参画社会の実現と DV 防止について 🎁



)

- 男女共同参画社会の実現に向けて、臼杵市は今後どのようなことに力を入れていくべき 問 35. だと思いますか。 **(は3つまで**)
  - 1. 市の審議会委員や管理職など、政策決定の場に女性を積極的に登用する
  - 2. 民間企業・団体等の役員・管理職に女性の登用が進むよう支援する
  - 3. 女性や男性の生き方や悩みに関する相談の場を提供する
  - 4. 従来、女性が少なかった分野(科学技術や防災など)への女性の進出を支援する
  - 5. 保育・介護・病院などの施設やサービスを充実する
  - 6. 男女の平等と相互の理解や協力について学習機会を充実する
  - 7. 生涯を通じた男女の健康増進を支援する
  - 8. 男女間のあらゆる暴力をなくす
  - 9. 労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、男女ともに働き方の見直しを進める
  - 10. 子育てや介護等でいったん仕事をやめた人の再就職を支援する
  - 11. 男女の平等と相互の理解や協力について広報・PR する
  - 12. 講演会や研修会などのイベントの啓発
  - 13. その他(具体的に
  - 14. 特にない



## 最後に あなたご自身について



(1) あなたの性別をお聞かせください。 **1つに**〇

1. 男性

2. 女性

(2) あなたの年齢をお聞かせください。 1つに

1. 20 歳~29 歳

2. 30 歳~39 歳

3. 40 歳~49 歳

4. 50 歳~59 歳

5. 60 歳~69 歳

6. 70 歳以上

(3) あなたの職業をお聞かせください。 **1つに**〇

- 1. 農林漁業
- 2. 商工サービス業(店を持つ商工業、サービス業)
- 3. 自由業(開業医、弁護士、芸術家、僧職など)
- 4. 管理職(会社や官公庁などの課長以上、大学の講師以上、学校の教頭以上)
- 5. 事務職(事務員、教員、営業員、公務員など)
- 6. 専門技術職(技術研究員、医師、看護師、美容師など)
- 7. 労務職(工員、建築作業員、運転手、販売員など)
- 8. 家事専業
- 9. 学生
- 10. パート・アルバイト・臨時雇用
- 11. その他
- 12. 働いていない
- (4) あなたは結婚されていますか。 **1つに**〇
  - 1. 結婚している(事実婚を含む) ⇒ (5) へ
  - 2. 結婚していない⇒ (6) へ
  - 3. 結婚していたが、離婚・死別した⇒ (6) へ

## 最後に あなたご自身について



)

(5) **(4) で「1. 結婚している(事実婚を含む)」**を選んだ方にお聞きします。

配偶者の職業をお聞かせください。 1つに

- 1. 農林漁業
- 2. 商工サービス業(店を持つ商工業、サービス業)
- 3. 自由業(開業医、弁護士、芸術家、僧職など)
- 4. 管理職(会社や官公庁などの課長以上、大学の講師以上、学校の教頭以上)
- 5. 事務職(事務員、教員、営業員、公務員など)
- 6. 専門技術職(技術研究員、医師、看護師、美容師など)
- 7. 労務職(工員、建築作業員、運転手、販売員など)
- 8. 家事専業
- 9. 学生
- 10. パート・アルバイト・臨時雇用
- 11. その他
- 12. 働いていない
- (6) あなたの現在の家族構成をお聞かせください。 **1つに**〇
  - 1. 1人世帯 2. 夫婦のみ 3. 親と子 4. 親と子と孫
  - 5. その他の世帯(

(7) 子どもがいる方で、別居している子どもを含め、あてはまる番号をすべてお聞かせください。 (はいくつでも)

- 1. 0 歳児 2. 1 歳~2 歳 3. 3 歳以上小学校入学前 4. 小学生
- 5. 中学生 6. 高校生 7. 大学生・専門学生 8. 社会人・その他

## 最後に あなたご自身について



)

)

- (8) 0歳児から小学校入学前の子どもがいる方で、子どもは日中(8時~17時・土日含まない)は主にどなたと(あるいはどこで)過ごしていますか。 **1つに**〇
  - 1. あなた自身
  - 2. 配偶者
  - 3. 同居親族
  - 4. 同居していない親族・知人
  - 5. 保育園や幼稚園など
  - 6. ベビーシッターなど
  - 7. その他(具体的に
- (9) 小学生の子どもがいる方で、子どもは学校以外(土日含まない)では主にどなたと (あるいはどこで)過ごしていますか。 **1つに**○
  - 1. あなた自身
  - 2. 配偶者
  - 3. 同居親族
  - 4. 同居していない親族・知人
  - 5. 学童保育など
  - 6. シッターなど
  - 7. 塾・習い事等
  - 8. 子どもだけで留守番
  - 9. その他(具体的に

## ご意見・ご要望



男女がともに、家庭、職場、地域など、あらゆる場面で思いやり支え合う社会を実現するために、ご意見やご要望などがございましたらご記入ください。

 	<u>-</u>
<u></u>	

# お忙しい中ご協力を ありがとうございました。

8月31日(月)までに、同封の返信用封筒で郵便ポストに投函してください。



## (付録) 用語解説

	言葉	意味
あ行	育児・介護休業法	男女の労働者に対し、満1歳未満の子の養育のための休業や、常時介護を必要とする親族の介護のための3か月未満の休業を認めています。
	SNS(エス・エヌ・エス) (ソーシャルネットワーク)	友人・知人間のコミュニケーションを円滑にする手段や場を提供したり、趣味や嗜好、居住地域、出身校、あるいは「友人の友人」といったつながりを通じて新たな人間関係を構築する場を提供する、会員制のサービスのこと。
か 行	固定的性別役割分担	男女を問わず個人の能力等によって役割の分担を決めることが適当であるにもかかわらず、男性、女性という性別を理由として、役割を固定的に分ける考え方のことをいいます。
	ジェンダー	「社会的・文化的に形成された性別」のことです。人間には生まれついての生物学的性別がありますが、社会通念や慣習の中には、社会によって作り上げられた「男性像」、「女性像」があり、このような男性、女性の別を「社会的・文化的に形成された性別」といいます。
	女性のエンパワーメント	女性が、自己決定する力、仕事上の技術力、経済的な力、 物事を決定する場での発言力等を身につけ、その力を発揮 し、さまざまな政策決定過程に参画することを意味します。
さ行	ストーカー	「こっそり後をつける」「忍び寄る」の意味の英単語に由来します。ストーカー規制法では「特定の人に対する恋愛感情などが満たされなかったことへの怨恨(えんこん)の感情を満たすため、その人や家族につきまといなどを繰り返すこと」と定義しています。
	セクハラ (セクシュアル・ハラスメント)	男女共同参画会議の女性に対する暴力に関する専門調査会報告書「女性に対する暴力についての取り組むべき課題とその対策」(平成16年3月)では、セクシュアル・ハラスメントについて、「継続的な人間関係において、優位な力関係を背景に、相手の意思に反して行われる性的な言動であり、それは、単に雇用関係にある者の間のみならず、施設における職員とその利用者との間や団体における構成員間など、様々な生活の場で起こり得るものである。」と定義しています。

	言葉	意味
	男女共同参画社会	男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会のことです。
た行	男女雇用機会均等法	正式には「雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律」といい、昭和60(1985)年に制定されました。その後、平成9(1997)年には、差別禁止規定、職場のセクハラ防止やポジティブ・アクションの促進を盛り込む改正が行われました。さらに、平成18(2006)年には、差別の禁止範囲を男女双方に拡大し、体力や勤務条件等による間接差別の禁止や妊娠・出産等を理由とする不利益取扱いの禁止等を盛り込む改正が行われました。
	DV (ドメスティックバイオレンス)	「配偶者等からの暴力」のことを指し、「なぐる」「ける」といった身体への暴力だけでなく、「人格を否定するような暴言をはく」、「無視する」、「わざと相手が大切にしまっているものを壊す」、「生活費を渡さない」等の精神的暴力や、「性的行為を強要する」、「避妊に協力しない」等の性的暴力も含みます。
	DV防止法が定めている「配偶者」	DV防止法にいう「配偶者」には、婚姻の届出をしていないが事実上婚姻関係と同様の事情にある者を含み、同法にいう「離婚」には、婚姻の届出をしていないが事実上婚姻関係と同様の事情にあった者が、事実上離婚したと同様の事情に入ることを含みます。
は 行	配偶者暴力相談支援センター	配偶者暴力相談支援センターは、都道府県の施設において設置されています。配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護を図るため、相談の受付や、適切な相談機関の紹介、被害者に対するカウンセリング、自立して生活することを促進するための情報提供や援助などの様々な支援を行っています。【大分県の配偶者暴力相談支援センター:「大分県消費生活・男女共同参画プラザ〈アイネス〉」及び「大分県婦人相談所」】

	言葉	意味
は行	パワハラ (パワー・ハラスメント)	平成 24 年 1 月 30 日、厚生労働省の「職場のいじめ・嫌がらせ問題に関する円卓会議ワーキング・グループ報告」によると、職場のパワーハラスメント(パワハラ)とは、「同じ職場で働く者に対して、職務上の地位や人間関係などの職場内の優位性を背景に、業務の適正な範囲を超えて、精神的・身体的苦痛を与える又は職場環境を悪化させる行為をいう。」とされています。
	フレックスタイム制度	フレックスタイム制は、1日の労働時間帯を、必ず勤務すべき時間帯(コアタイム)と、その時間帯の中であればいつ出社または退社してもよい時間帯(フレキシブルタイム)とに分け、出社、退社の時刻を労働者の決定に委ねるものです。
17	ホームヘルプ	訪問介護は、利用者が可能な限り自宅で自立した日常生活を送ることができるよう、訪問介護員(ホームヘルパー)が利用者の自宅を訪問し、食事・排泄・入浴などの介護(身体介護)や、掃除・洗濯・買い物・調理などの生活の支援(生活援助)をします。通院などを目的とした乗車・移送・降車の介助サービスを提供する事業所もあります。
	ポジティブ・アクション	男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって 社会のあらゆる分野における活動に参画する機会に係る男 女間の格差を改善するため必要な範囲において、男女のいず れか一方に対し、活動に参画する機会を積極的に提供するも のであり、個々の状況に応じて実施していくものです。
	メディア	情報を人々に伝える機関や事業のことです。
ま 行	モラル・ハラスメント	身体的暴力がない DV に非常に近いものですが、被害者は知らないうちに混乱を生じ、精神的に追い詰められていきます。DV とは違い、相手はパートナーとは限りません。
ら 行	リベンジポルノ	別れた恋人や配偶者に対する報復として、交際時に撮影した相手方のわいせつな写真や映像を、インターネットなどで不特定多数に配布・公開する嫌がらせ行為のことです。
わ 行	ワーク・ライフ・バランス	「仕事と生活の調和」と訳され、老若男女誰もが、仕事、 家庭生活、地域生活、個人の自己啓発等、さまざまな活動に ついて自ら希望するバランスで展開できる状態のことをい います。

## 臼杵市役所 同和人権対策課

同和人権対策・男女共同参画推進グループ

〒875-8501 臼杵市大字臼杵 7 2番 1 TEL: 0972-63-1111 FAX: 0972-63-1517